

学位請求論文（作新学院大学「博士（経営学）」

松下幸之助とジャック・ウェルチのリーダーシップの違いを言語学から考察

— リーダーシップは文化を超える —

2018

高 畑 哲 男

作新学院大学 人間文化学部 教授

目次

序章 問題意識と本研究の動機.....	4
1章 リーダーシップに関する先行研究の概観と課題	6
I. 先行研究の概観	6
II. リーダーシップに関する先行研究の課題	14
2章 「文化の壁」の存在とリーダーシップ：仮説構築	16
I. 「文化の壁」の存在とリーダーシップとの関係.....	16
II. 経営組織におけるリーダーシップ	22
3章 本研究のアプローチ法：言語データと分析方法	25
I. 研究対象とすることばの「意味」に関する諸説.....	25
II. 分析方法	30
4章 分析と仮説の検証.....	33
I. 松下とウェルチの主要な形容詞と動詞	33
II. 松下とウェルチの比較	34
III. 松下とウェルチの人物的特徴	39
IV. 文化とリーダーシップの関係の研究により有効な方法	41
V. 分析結果	62
5章 結論.....	65
あとがき	67
謝辞.....	70
註	71
参考文献	83

付属資料	89
データ：松下とウェルチの形容詞と動詞（出現回数 5 回以上）グラフ	89
(補足) 主要な形容詞と動詞リスト	93
(補足) すべての形容詞と動詞リスト	116

序章 問題意識と本研究の動機

リーダーシップの欠如、リーダーシップの発揮、リーダーの器、リーダー不在、等々の言葉がメディアに登場しない日はない。その上、リーダー、リーダーシップとは何かについてさまざまな、ときには類似した議論や意見も示されてきた。

ドラッカーもその著作でリーダーシップについて折に触れて言及している。ドラッカーの『経営者の条件』（1995）は次のように述べている。

『ある企業では、市場調査の責任者が、スタッフとして二〇〇人の部下をもっている。ところが、競争相手の企業では、市場調査の責任者は、秘書一人もつだけかもしれない。しかしこの違いは、期待される貢献の違いを意味したりはしない。そのような違いは、組織上の些事にすぎない。もちろん二〇〇人いれば、一人の人間よりも多くの仕事ができる。しかし、その結果、より生産的であり、より貢献できるというわけではない』というドラッカーの指摘は的を射ている。⁽¹⁾そこで、組織をより生産的に、そして成果をあげて貢献するように仕向けるのがリーダーの役割である。リーダーなき組織はたんなる『烏合の衆』となる。ただし、リーダーシップには共通タイプというものはなく、ものごとをやり遂げる能力をもっているということだけが共通点だ。リーダーによって性質や能力、仕事のやりかた、知識と経験は異なる。

リーダーシップ論はこれまでリーダーに必要な普遍的な諸条件を曖昧な形で提示してきたといえる。「曖昧な形」というのは、多くの場合、ある文化圏では良いリーダーであっても、そのリーダーが他の文化圏でリーダーシップを発揮した場合にも成功するかについて言及していないケースが大半を占めているからである。たとえば、日本の名リーダーたちのリーダーシップがアメリカでも成功を取めるのか。個人主義対集団主義、短期主義対長期主義、先例重視対改革重視など、そこには目に見えない障壁、「文化」

が存在している。

本論文では「文化」を、「文化人類学の父」とも呼ばれるエドワード・バーネット・タイラー(1871)の定義『人間が後天的に学ぶことができ、集団が創造し、継承している(いた)認識と実践のゆるやかな体系』をそのまま採用する。⁽²⁾

日本人同士であっても生き方、思考、感情、コミュニケーションスタイルは異なる。ましてや異文化では日本で成功を取めたリーダーシップがそのまま通用することはない。グローバル化、世界は一つなどの言葉をよく耳にするが、普遍的なリーダーシップはないのかもしれない。

英語学の分野から言語、文化、コミュニケーションを研究してきた者として、リーダーシップにおいても文化的な違いが必ずある、という仮説が常に頭にあったことが本研究の出発点である。

1章 リーダーシップに関する先行研究の概観と課題

I. 先行研究の概観

今から約 35,000 年前から 13,000 年前にかけての後期石器時代の人々は縄文時代以降の定住生活ではなく、採集・狩猟のための遊動生活が基本だった。彼らは集合と離散をくり返しながら、共同作業をし、情報を共有して集団生活をしていた。

氷河期末期の約 15,000 年前頃には急激な温暖化が始まり、気温は 7、8 度上昇して、約 11,000 年前頃には現在とほぼ同じ気温になった。温暖化は人々の生活を一変させた。季節ごとの採集、狩猟が可能になるとともに、春・夏・秋の収穫を冬に備えて加工、備蓄できるゆとりが生まれた。そのため、食料を求める遊動生活は不要になり、定住化が進んだ。⁽³⁾

1980 年代までは、縄文時代は人々が平等に暮らす原始共産社会であり、弥生時代になって初めて農業が始まり、余剰備蓄が生まれた結果、集団内に貧富の差と階級が生じた、また、政治的または呪術的リーダーによって国家が誕生したのだと考えられていた。しかし、サケ漁をする点で縄文時代の人々と共通する北米西海岸の採集、狩猟社会は貴族・平民・奴隷の 3 階層がある階層化社会であることから、縄文時代の社会と比較されるようになった。⁽⁴⁾

縄文社会の階層化におけるリーダーの存在を想定される事例はこれまでに多くみられている。1 つは効率的、短期間に大量の採集、狩猟、加工、備蓄をするには多数の人間と統制のとれた組織的行動が必要となる、そのためにはリーダーによる役割分担が欠かせない。2 つは定住化により集落が誕生したが、集落の造営とその付帯設備（柵、濠、道、ゴミ捨て場など）の設置は設計、役割分担、施工管理、評価をする人間、リーダーがあってはじめて成し遂げられる。3 つは、墓の大きさと構造、副葬品は死者の社会的

地位を反映したものと考えられる。⁽⁵⁾

「リーダーシップとは目標達成のための手段」と本論文では定義する。さらに、リーダーシップの源泉が「強さ」であることは、15世紀にマキャヴェリ(2001)が『君主論』で指摘している。「強さ」すなわち「力」がどこに由来するかを問わず、リーダーシップには「強さ」が必要条件である。⁽⁶⁾

しかし、強力なリーダーのすべてが必ずしも良いリーダーではなく、良いリーダーにはいくつかの条件が備わっていなければならない。また、カリスマ性が良いリーダーに必須の条件ではないことは、スターリン、ヒトラー、毛沢東などを見れば明らかである。ドラッカー(1992)はリーダーにとってカリスマ性は往々にして有害であると指摘している。⁽⁷⁾ 本論文ではウェーバー(1947)に倣い、カリスマ性を「個人がもつ他の人間とは一線を画するような超人間的、あるいは例外的な資質」と定義する⁽⁸⁾

リーダーシップ論は古来より盛んで、アジアでは孔子が『論語』で君子、すなわちリーダーたちへの心得を説き、孫子(孫武)も『孫子』のなかで述べている。また、ヨーロッパでは紀元前4~5世紀のヘロドトスの『歴史』、プラトンの『国家』が、15世紀にはマキャヴェリの『君主論』が、さらに18~19世紀にはクラウゼヴィッツの『戦争論』で述べるなど枚挙に暇がない。⁽⁹⁾

こうした議論を整理して生まれた理論の主流が、優秀なリーダーたちと彼らが備えている特性(traits)、つまり能力、資質、パーソナリティーを対象にした特性理論(trait theory)である。特性理論では、リーダーシップとは『ある範囲内での個人の違いを反映し、さまざまな集団と組織の状況にわたってリーダーが一貫して効果を発揮できるように一体化された個人的特質の型』と定義される。⁽¹⁰⁾

特性理論では優秀なリーダーの資質とは天与のもので、どのようにつくられ、どのよ

うにして体得できるかという議論もないだけでなく、優れたリーダーがごく一部の人間に限られてしまい、教育によってつくりだすことが可能かどうかの議論も不明瞭である。

一方で、日本では文学的、ビジネス向けの「読み物」として、人物特性とリーダーとを結び付けて、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などの伝記とその人物像の比較などは昔から人気を博している。

また、中国古典に造詣が深い経済作家の伊藤肇は歴史上の人物を多数考察して、リーダーの器は「深・沈・厚・重」にあると言い切る。⁽¹¹⁾

さらに、古代中国でも諸子百家とよばれる思想家たちがリーダーについて論じている。たとえば老子は「太上は下之あるを知るのみ。其の次は親しみ誉む。其の次は之を畏る。其の下は之を侮る…（第十七章）」と述べて、リーダーのランク付けをしたのちに、最高のリーダーとは部下から存在を意識されないリーダーだという。⁽¹²⁾

ちなみに、ヒューレット・パカードとコンパックの合併を指揮したフィオリーナ（Cara Carleton Fiorina）女史は来日時（1999年7月）の記者会見でこの言葉を引用している。コリンズ(2010)は、同女史がコンパックとの合併を主導したものの成果をあげることなく、2005年にCEOを解任されただけでなく、極端な人員削減策などで企業を衰退させた経営者の一人としてあげている。コリンズ(2010)の「企業衰退の5段階」では、フィオリーナのCEO選任は、「交代に反応して、組織が特効薬に頼ろうとするようになった」段階、第四段階（一発逆転を追求する）に該当する。⁽¹³⁾

孔子もその言行録『論語』のなかでリーダーシップについては度々発言している。「義を見て為（せ）ざるは、勇なきなり（為政篇）」、「君子は周（しゅう）して比（ひ）せず、小人（しょうじん）は比して周せず（為政篇）」、「人を傷（そこな）えりや。馬を問わず（郷党篇）」、「君子は器ならず（為政篇）」はその一例である。これらは、「正義感・

倫理観]、「平等主義]、「思いやり（儒教でいう「仁」）を意味している。⁽¹⁴⁾

リーダーシップと関連して、韓非子と孫子も頻繁に言及される。韓非子は「性悪説」に基づき、リーダーがフォロワーに対処する方法について、法を厳格に適用する重要性を説き、孫子は一挙に雌雄を決しようとする決戦主義とエネルギーの消耗を避ける術を現実的に説いている。⁽¹⁵⁾

さらに、転じてヨーロッパでクラウゼヴィッツとマキャヴェリの2人を見ると、クラウゼヴィッツは、「戦争とは何か」という本質論を展開しながら、軍事的視点から「戦争は相手にわが意志を強要するために行う力の行使である」と定義する。また、マキャヴェリは政治的視点から君主、すなわちリーダーの決断力、果敢さのほかに「謀略」の重要性を説いている。二人も前述の韓非子、孫子とともに「現実主義者」だと言える。⁽¹⁶⁾

リーダーがもつ素質がリーダーをリーダーたらしめるとする、いわゆる特性理論 (trait theory) ではリーダーを生得的な (innate) な資質をもつ人物だけとしているのに対して、それ以降の理論はすべて、リーダーは育てることができる、いわば「後天的 (acquired)」とする立場をとる点で共通する。⁽¹⁷⁾

1940年代になると、有能なリーダーの行動とそうでないリーダーの行動から、どのような行動が有能なリーダーを生み出すかというリーダーシップ行動理論 (leadership behavioral theory) が誕生した。リーダーシップ行動理論では、リーダーシップはいかなる環境にあっても不変ではなく、絶えず変化する状況下でリーダーは適切なリーダーシップを発揮していると考えられる。⁽¹⁸⁾

行動理論は、旧ソ連の生理学者 I. パブロフの犬を使った実験で知られるように、ある刺激 (stimulus) が与えられると、動物や人間のもつ生得的な行動が条件づけによって付

加されて現れる行動、「条件反応(conditioned response)」に基づいている。「条件反応」は以下のように示される。

S(timulus) → R(response)

たとえばリーダーが他者に影響を及ぼすとそれに対する反応(response)、すなわち他者の行動（業績、仕事）や組織に生じる影響に基づいている。この理論は当時のアメリカの軍隊、産業で埋もれていた有能な人材を発見し、教育する必要性から誕生した。この理論の登場により、リーダーシップ論は「人物論」から「行動論」へと進化した。

とりわけ、第2次世界大戦後の1960年代には急速な経済成長にともなって天性のリーダーシップを身につけたリーダーだけに依存するのでは対応が不十分となり、多数の新たなリーダーの育成が急務となった。この時代の切迫したニーズに対応するために生まれたのが、リーダーシップ行動論である。

三隅二不二(1986)のリーダーシップPM理論も行動理論の一つである。⁽¹⁹⁾三隅のPM理論は、リーダーシップはP(Performance)（目的達成能力）とM(Maintenance)（集団維持能力）の2つから構成されるとする非常にシンプルな点とその最大の特徴である。Pには目標設定、計画の立案、フォロワーへの指示などが、Mにはフォロワー同士の良好な人間関係の維持、向上が含まれ、P、M両者の能力の大小により、P-M、P-P、M-P、M-Mの四類型を設定してから、PとMがお互いに補うP-M、M-Pの2つのリーダーの組み合わせについて実験調査した結果生まれたのがPM理論である。

リーダーの日常を観察すると、リーダーシップがリーダーの特性だけで決定されるものではなく、リーダー自身が置かれた状況・環境（環境因子）で、どのような行動をとるかが決定因子となっている。

三隅(1986)はつぎのように定式化している。

$$LB=f(S)\cdots\cdots(1)$$

$$LB=f(P \cdot E)\cdots\cdots(2)$$

(1) 式の LB はリーダーシップ行動(Leadership Behavior)をあらわし、S は全体状況 (Situation)を意味し、fは関数である。(2)式の P は人(Person)で、Eは環境(Environment)をあらわす。⁽²⁰⁾

図表 1 - 1 リーダーシップ PM4 類型 三隅(1986) p.70 より

	p	P
M	pM	PM
m	pm	Pm

三隅の PM 理論では、この4つのタイプのうちで PM それぞれが最も高い PM 型が理想的なリーダーシップモデルである。

しかし、リーダーの行動すべてが成果に必ずしも影響を与えるわけではなく、ある時点では効果的な行動が時間の経過、状況の変化によって有効ではなくなるといった問題点が指摘された。⁽²¹⁾

その後、「置かれている状況が異なれば、求められるリーダーシップも変わる」というリーダーシップ条件適応理論(Leadership Contingency Theory)が生まれた。条件適応理論は、「全ての状況に適応される不変のリーダーシップスタイルはない」という前提に立ち、誰でも適切な状況に置かれればリーダーシップを発揮できるとする。⁽²²⁾

1980 年代には、不確実で変化が激しい経営環境に対応できるリーダーシップが求められるようになり、組織変革に視点を置いた「変革型リーダーシップ」(transformational leadership)の時代となった。コッターによれば、リーダーシップとは管理能力とは別物

で、有望なビジョンをフォロワーに提示し、その実現のための戦略も示して、フォロワーからの貢献を得ることである。⁽²³⁾

1980年代のアメリカ経済は最悪の状態で、多くのアメリカ人は何が誤りだったかを模索していた。従来の効率的なビジネスの遂行というやり方ではアメリカ経済の復活は厳しく、リーダーの役割は管理ではなく、大規模な変革を実現する役割、すなわちリーダーシップの重要性が強調されるようになった。

なお、矢作(2014)は「変革型リーダーシップ」という名称は、変革時だけに有効という誤解を招きやすいと指摘している。⁽²⁴⁾

コッターは、リーダーシップが果たすべきことは「動機づけと鼓舞」である。具体的には、「障害や組織の壁を乗り越えるべく人材を勇気づける」、「組織のメンバーに承認を与える」ことだとする。⁽²⁵⁾

コッター(2012)は「リーダーシップ」と「マネジメント」は別物であり、両者は補完関係にあって、どちらも不可欠であるという。複雑な状況にうまく対処するのがマネジメントの役割であり、一方、リーダーシップとは変化に対応することだという。⁽²⁶⁾

さらに、ビジョンと戦略という旗印を関係者に理解させるのもリーダーシップの役割の1つ、すなわちコミュニケーションである。リーダーが発するメッセージを全員に信じてもらい、共感と共鳴を得る必要がある。これなくして組織は一体にならず、戦略、ビジョンは「絵に書いた餅」に留まり、リーダーの独り相撲という結果となる。しかし、関係者からの「共感」と「共鳴」を得ることに成功し、「動機づけ」が適切に行われれば、フォロワーはやりがいと達成感を感じて率先して前へと進み、変革が始まる。

本論文はこうした「共感」、「共鳴」に始まり、変革の進行までに至るリーダーシップスタイルは世界共通、あるいは唯一無二ではなくて、文化によって異なるとする立場を

とるものである。

2000年代に入ると、脳科学とMRI(Magnetic Resonance Imaging)の進歩を背景にして、D.ゴールマンらが唱えるEQ(Emotional Intelligence Quotient)に重点を置く心理学的リーダーシップ研究が注目されるようになった。ゴールマンはフォロワーの感情に働きかけ、「共感(empathy)」を得られること、フォロワーの気持ちを認識できることに加え、自分自身の感情を認識すること、自分自身の感情をコントロールできること、人間関係を適切に管理できることが優れたリーダーシップの基礎だとする。⁽²⁷⁾

ゴールマンは、人間をホモサピエンス、「理性をもった人」と呼ぶのは適切ではないと指摘する。脳の発達段階からすると、人間の脳はまず最も原始的な部分である脳幹の上に情動を支配する部分が発生し、何百万年ものちになってはじめて思考する脳、大脳新皮質が発達した。情動の脳は考える脳のはるか以前からあった。ゆえに、理性を忘れてつい情動に駆られるというのは脳の発達段階から考えれば、ごく自然なことだという。

ゴールマンはEQ(こころの知能指数)を、「自分自身を動機づけ、挫折してもしぶとくがんばれる能力のことだ。衝動をコントロールし、快樂をがまんでできる能力のことだ」と定義する。⁽²⁸⁾

ゴールマンはリーダーシップをビジョン型リーダーシップ、コーチ型リーダーシップ、関係重視型リーダーシップ、民主型リーダーシップ、ペースセッター型リーダーシップ、強制リーダーシップの6つに大別し、有能なリーダーは状況に応じてこれらを使い分けることでフォロワーの「共感」、「納得」、「同調」を得ているとする。⁽²⁹⁾

つまり、一定、唯一のリーダーシップはなく、「状況依存的」、すなわち状況の変化に対応したリーダーシップが必要ということである。それは同時に、過去のある状況下で成功したリーダーシップが現在または将来も成功するかはその時点の状況次第という

ことを意味する。

II. リーダーシップに関する先行研究の課題

特性理論では、優れたリーダーには天賦の才が備わっており、そのリーダーが的確な判断を下すことで、成果が上がるとしている。しかし、リーダーに組織の命運をすべて一任し、さらに後継者の選定と育成までも一任するのは独裁体制の発生と組織の存続・発展への障害となりうる。その例として、近年のカルロス・ゴーンによる独裁体制による日産自動車の現状があげられる。

行動理論、たとえば三隅の PM 理論に基づけば、課題軸と人間関係軸で最もバランスがとれた PM 型リーダーを見出すことが望ましい。しかし、本田技研工業の創業者本田宗一郎と藤沢武夫による「ツートップ」による分業体制で大成功したケースも見られる。⁽³⁰⁾

東（2005）は変革型リーダーシップも問題点として、「変革期における変革リーダーの役割を過度に重要視し、そしてリーダーシップが発揮されることを期待していることが最大の問題点である。（中略）次に、成功事例をもとにリーダーシップの特徴を導き出していることも問題である。（中略）、（さらに）いつ、どのようなタイミングで変革行動を開始すべきなのだろうか。この点に関して、変革型リーダーシップの議論では明確になっているとはいいがたい。」と指摘する。⁽³¹⁾

EQ 理論以前のリーダーシップ論はリーダーの個人的特性、あるいはリーダーの具体的な行動を重視するリーダーシップ論であり、EQ 理論に基づくリーダーシップ論はリーダーの感情の認識とコントロールを重視するリーダーシップ論である。また、Google Ngram Viewer によれば、ゴールマン（1996）によって EQ という言葉が一般にも広く

知られるようになった時期と異文化間リーダーシップについての言及が急増した時期は一致している。⁽³²⁾

EQ理論は他者を理解する能力、「対人知性」と「共感」を重視する。たとえば、相手の動機とは何か、相手はどのような行動をするのか、協調して行動するにはどうすべきか、を理解する必要があるとする。⁽³³⁾

矢作(2014)は、リーダーシップ論は、最初にリーダーシップと「良いリーダー」を区別しなければならないとする。リーダーシップとはリーダーに関する必要条件であり、その必要条件のほかに十分条件を満たしてはじめて「良いリーダー」の姿があきらかになるからである。われわれは歴史からいかに強力なリーダーシップがあろうとも、リーダーの価値観、理想が反社会的、狂信的、破壊的である例を、秦の始皇帝、ヒトラー、スターリン、オウム真理教の麻原彰晃のようなカルト宗教家らを見い出すことができる。

良いリーダーが備えるべき条件には必要条件と十分条件の2つがある。まず、必要条件はリーダーシップをもつことである。十分条件は、高い志(aspiration)、正義感の源泉となる哲学・理念(philosophy)、倫理観(ethics)、使命感(commitment)の4つ、APECであることも示されている。⁽³⁴⁾

2章「文化の壁」の存在とリーダーシップ：仮説構築

I. 「文化の壁」の存在とリーダーシップとの関係

『君主論』のなかでマキャヴェリはリーダーシップを統治力と定義して。リーダーシップの優劣と「(美)徳」とは全く関係がないとする。また、ドラッカーはリーダーシップに関連してしばしば使われる「カリスマ性」について、「効果的なリーダーシップはカリスマ性に依存するのではなく、むしろ、リーダーを破滅させる。柔軟性を奪い、不滅性を盲信させ、変化不能にしてしまう」と述べて、カリスマ不要論を述べている。⁽³⁵⁾

リーダーシップの源泉は「力」である。多くのリーダーが「力」の構成要素として指摘するのは、状況変化の察知能力と変化への適応力、APEC(=Aspiration「志」、Philosophy「哲学・理念」、Ethics「倫理観」、Commitment「使命感」)に支えられた決断力、創意と工夫(「創意と工夫」は本田技研工業の創業者、本田宗一郎の好きな言葉で、彼は色紙によく書いていた)、EQ、構想力、コミュニケーション能力、直観力、行動力、不動心などにあるという点で研究者の見解はほぼ共通する。⁽³⁶⁾

本論文と最も関連があるのは上記の構成要素のうち、状況変化の察知能力と変化への適応力である。ゴールマンのEQ理論以前のリーダーシップ論、たとえば特性理論や三隅のPM理論では「異文化の壁」の大きさは関心の対象外だった。

これに対して、本論文は上述のリーダーシップの力を構成する要素のほかに文化的要素を考慮しなければ、良いリーダーシップを発揮できないとする立場をとる(以下では、リーダーシップとは「良いリーダーシップ」を指す)。この立場を採用することを前提とした上で、本論文の基本仮説である「文化の壁の存在」を以下に述べる方法で導いていく。

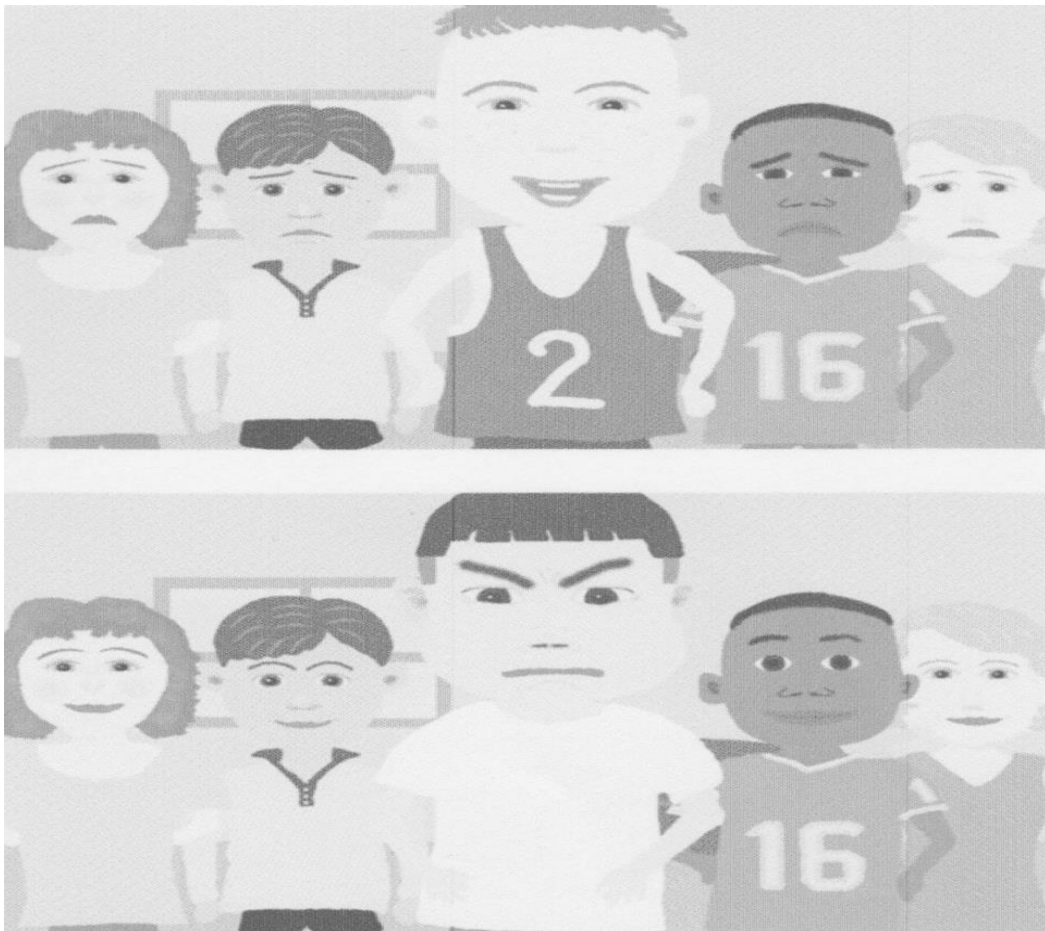
本論文でいう「良いリーダーシップ」とは、「まず、リーダーが志(aspiration)、それ

もリーダーの地位にふさわしい非常に高潔な精神を有すること。つぎに、「正義感」の土台となる哲学(philosophy)、原則(principle)があること。くわえて、倫理観(ethics)と使命感(commitment)があること」と定義する。⁽³⁷⁾

また、本論文では序章で述べたように「文化」をE.タイラー(1871)の「社会の一員として人間が後天的に学び、集団が創造、継承した認識と実践のゆるやかな体系」と定義する。⁽³⁸⁾

T. Masuda and others(2008)では「文化の壁」を示唆する実験が実施されている。この実験で使用された画像は以下の2枚である。⁽³⁹⁾

図表 2 - 1 Masuda and others (2008) p.369, Figure1



この実験では上の2枚の画像を実験参加者に見せ、中央の人物を除く4人の表情（背景情報）が、中央の人物の表情の判断にどのような影響を与えるかを見る。上の画像では、中央の人物だけが笑顔を見せ、背後の4人には笑顔は見られない。一方で、下の画像では中央の人物には笑顔が見られないが、背後の4人には笑顔が見られる。2枚の画像に喜びの程度差があるとすれば、中央の人物の表情と背後の4人の表情に何らかの関係があると考えてもおかしくなさそうである。

日本人とアメリカ人それぞれの被験者を対象にした実験の結果、実験参加者の日本人は中央の人物の感情を判断するときに、背後の4人の表情から影響を受けたが、アメリカ人の参加者には背後の人物からの影響はまったく見られなかった。そして、どちらの画像を好むかと尋ねられると、日本人参加者は下の画像を、アメリカ人参加者は上の画像をそれぞれ選んだ。

この実験から以下の仮説が導き出される。

- (1) 日本人は同席者の表情、物言い、態度、言葉遣いといった「場の空気」に敏感であり、「総合的」な判断を下す傾向があることを示唆する。日本人リーダーは周囲の人たちの感情、例えば「共感」を重要視する
- (2) アメリカ人リーダーは周囲の人たちからの影響を受けずに、自分の意志を貫き通すことで「力（強さ）（powerfulness）」を示す。

また、東アジア文化圏（主として中国、韓国、日本）と欧米文化圏（主としてヨーロッパ、アメリカ、イギリス連邦）の思考様式を研究してきた社会心理学者のニスベットは、「東アジア文化圏の思考様式は『包括的思考様式』、欧米文化圏のそれは『分析的思考様式』であり、こうした思考様式の違いは私たちの思考様式に影響を与えており、私たちが『常識』と考えていることは文化圏によって違う」と述べている。⁽⁴⁰⁾

ニスベットは、アジア社会では集団や他者との協調を重んじ、出来事は非常に複雑で、発生には多くの要因が関係すると考えるのに対して、欧米社会では特定の出来事を周囲の脈絡から切り離して考え、発生の規則が分かれば容易にコントロールできる、と述べる。

さらに、東洋人の思考習慣の一つは、問題解決にあたって、まず「両方に真実がある」と仮定する。これは欧米人には理解しにくい、「中庸」ということを考えれば理解しやすいとも指摘している。⁽⁴¹⁾

このように、ニスベットはリーダーシップ、とりわけ文化を超えたリーダーシップ、異文化間リーダーシップに関して多くの指摘をしている。⁽⁴²⁾

また、オランダの心理学者 G.ホフステードは、国民文化と組織文化の研究のなかで、人々が持つ職業と仕事についての価値観を当該国の文化と関連づけて、権力間の格差、個人主義対集団主義、男性らしさ対女性らしさ、不確実性の回避という4つの「次元」で定義している。「権力格差」については、「権力格差とは、それぞれの国の制度や組織において、権力の弱い成員が、権力が不平等に分布している状態を予期し、受け入れている程度である。」とする。⁽⁴³⁾

次頁の図表2-2は G. ホフステードによる計53の国または地域の「権力格差」の数値である。

図表 2 - 2 ホフステード(1995) p.25

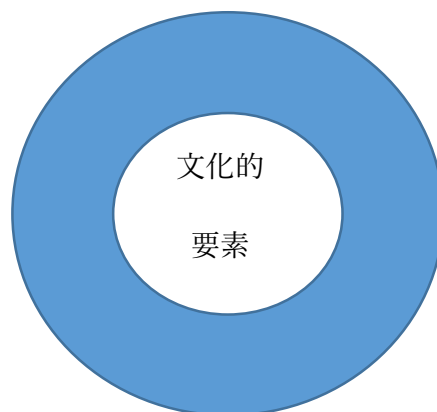
スコアによる順位	国または地域	権力格差スコア	スコアによる順位	国または地域	権力格差スコア
1	マレーシア	104	27	韓国	60
2	グアテマラ	95	29	イラン	58
3	パナマ	95	29	台湾	58
4	フィリピン	94	31	スペイン	57
5	メキシコ	81	32	パキスタン	55
6	ベネズエラ	81	33	日本	54
7	アラブ諸国	80	34	イタリア	50
8	エクアドル	78	35	アルゼンチン	49
10	インドネシア	78	35	南アフリカ共和国	49
10	インド	77	37	ジャマイカ	45
11	西アフリカ諸国	77	38	アメリカ	40
12	旧ユーゴスラビア	76	39	カナダ	39
13	シンガポール	74	40	オランダ	38
14	ブラジル	69	41	オーストラリア	36
15	フランス	68	42	コスタリカ	35
15	香港	68	42	旧西ドイツ	35
17	コロンビア	67	42	イギリス	35
18	エルサルバドル	66	45	スイス	34
19	トルコ	66	46	フィンランド	33
20	ベルギー	65	47	ノルウェー	31
21	東アフリカ諸国	64	47	スウェーデン	31
21	ペルー	64	49	アイルランド共和国	28
21	タイ	64	50	ニュージーランド	22
24	チリ	63	51	デンマーク	18
24	ポルトガル	63	52	イスラエル	13
26	ウルグアイ	61	53	オーストリア	11
27	ギリシャ	60			

ホフステードは「年長者に対して反論する時に感じる心理的抵抗の度合」を数値化して、権力格差指数(Power Distance Index=PDI)と定義した。その上で「権力格差指標のスコアは、われわれにその国における依存関係に関する情報を与えてくれる。権力格差の小さい国では、部下は上司に一方的に依存するのではなく、上司から相談されることを好んでいる。つまり部下と上司は相互依存関係にある。部下と上司の感情的な隔たりは小さい。部下はかなり気楽に上司と接し、反対意見も述べるであろう。権力格差の大きい国では、部下は上司にかなり依存している。部下の反応は、そのような依存関係(独裁的あるいは温情主義的なスタイルの上司に仕えること)を好むか、そのような依存関係を完全に拒否するかのどちらかである。」と述べている。⁽⁴⁴⁾

以上の先行研究は本論文の「文化的障壁存在仮説」を支持する研究の一部である。ある状況・環境下で有効だったリーダーシップが異文化の壁を超えて有効なのかを検討するのが本論文の目的である。

現時点で、リーダーシップとは従来指摘されている構成要素以外に文化的要素も含む二重構造(dual structure)をもつ以下のような構造とする。

図表 2 - 3 リーダーシップの構造



本論文では、図表2-3の内核は「文化的要素」を表し、外周部分は知識、判断力、カリスマ性、コミュニケーション能力、誠実さ、先見性などの「普遍的要素」を表すものとする。⁽⁴⁵⁾

また、本論文ではバーナード(1956)の定義を採用して「文化的要素」を、「信条(beliefs)、フォークウェイズ(folkways、同一の社会集団全員に共通する生活・思考・行動の様式)、言語、道徳観や社会的慣行(mores)、規範(norms)、制裁(sanctions)、シンボル(symbol)、価値観(values)、など」を指すものとする。⁽⁴⁶⁾

前述の Masuda and others(2008)、Nisbett(2003)、Hofstede(1995)のいずれも文化間でリーダーシップが異なることを示唆している。

II. 経営組織におけるリーダーシップ

リーダーシップは経営組織論の中でも扱われてきた。そこでは、「集団」と「組織」とを対比して定義する。まず、「集団(group)」と「組織(organization)」はどちらも複数の「個(人)」の集合体であるが、その性質は大いに異なる。「集団」とは統制、秩序の有無を問わないが、「組織」は統制、秩序、命令系統などが必須条件である。

バーナード(1956)、金井(1999)によれば組織とは、「共通の目的をもち、目標(goal)達成のために協働する、何らかの手段で統制された複数の人々の行為やコミュニケーションにより構成されるシステム」である。⁽⁴⁷⁾

バーナードは組織の成立条件として、(1)明確な目的・目標(たとえば、理念、ビジョン、リーダーシップ)、(2)高度な達成意欲と貢献意欲(たとえば、仕事のやりがい、組織への帰属意識、承認欲求)、(3)緊密な対話と交流(たとえば、コミュニケーション、共感、信頼関係)の3つがあるとする。⁽⁴⁸⁾

さらに、ドラッカー(2001)は組織の必要性和「組織社会」に関してつぎのように述べている。

「われわれの社会は、信じられないほど短い間に組織社会になった。しかも多元的な社会になった。生産、医療、年金、福祉、教育、科学、環境にいたるまで、主な問題は、個人と家族ではなく組織の手にゆだねられた。この変化に気づいたとき、『くたばれ組織』との声が上がったのも無理はない。だが、この反応はまちがっていた。なぜなら、自立した存在として機能し成果をあげる組織に代わるものは、自由ではなく全体主義だからである。

社会には、組織が供給する財とサービスなしにやっていく意思も能力もない。(中略) 組織をして高度の成果をあげさせることが、自由と尊厳を守る唯一の方策である。その組織に成果をあげさせるものがマネジメントであり、マネジャーの力である。成果をあげる責任あるマネジメントこそ全体主義に代わるものであり、われわれを全体主義から守る唯一の手立てである。」⁽⁴⁹⁾

高坂(2012)は、干潟の上につくられた最小面積、最小人口の最強国家、ヴェネツィアの興亡を例にして、組織も文明も外部要因よりも変化に対応、適応する能力や意欲の低下や喪失などによって弱体化、崩壊するケースが多いことを示している。⁽⁵⁰⁾

Hersey and Blanchard(1977)はこのような状況の変化に対応するリーダーシップを Situational Leadership(以下、SL)とよぶ。⁽⁵¹⁾ 歴史の中でリーダーの「力」、つまり「強さ」の定義は変化してきた。たとえば、原始社会におけるリーダーの強さは、体力、武力とそれに付随する権威や地位であったが、情報、知識重視の社会ではリーダーシップの強さは、さまざまな形をとることになり、唯一最善のリーダーシップなどは存在せず、T(ime),P(lace),O(ccasion)のように、どのような時、場所(場面)、環境にあるかにより

リーダーシップのスタイルは変化する。

本章ではリーダーシップ研究が「人物の特性論」にはじまり、ゴールマンらの EQ 理論までの変遷を略述し、いずれのリーダーシップ論にも課題があることを指摘した。その上で、『『良いリーダーシップ』の条件を満たせば、国、地域、文化を超えた有効なリーダーシップが発揮できるわけではなく、『文化の壁(cultural barriers)』が存在する」という本論文の仮説を提示した。

3章 本研究のアプローチ法：言語データと分析方法

I. 研究対象とすることばの「意味」に関する諸説

ことばの意味とそれに関連する問題に触れるまえに、ことば（＝言語）を「人間が音声または文字を用いて思想・感情・意志を伝達したり、理解するために用いる記号体系、またそれを用いる行為」と定義する。⁽⁵²⁾ また、「語」を「発話における最小の自立した単位」と定義する。⁽⁵³⁾

学問的定義からごく日常的な定義まで、意味の定義には実に数多くの定義がある。また、言語学者間で定義は異なり、言語学者 100 人がいれば 100 通りの定義があるとも言われるように、言語学において意見が非常に分かれる分野の一つでもある。本論の趣旨から逸脱せぬように、ここでは以下の(i)―(iii)の4つの常識的、古典的定義への言及にとどめる。

たとえば、われわれは日常生活でつぎのような発言をすることがある。

- (i) 「辞書でこの単語の意味を調べてみよう」
- (ii) 「あなたの書いた文章の意味がよくわかりません」
- (iii) 「あなたにとって人生の意味とは何でしょうか」

(i)、(ii)は言語表現に関する点では共通しながらも、(i)は特定の語を対象にしている。一方、(ii)は文章を構成する個々の語の意味を把握しているが、意味の総和が理解できないか、あるいは筋道が立っていないことを表している。さらに、(iii)は「意義、目的、価値」に相当する。本論ではこのうち (i)を対象とする。

以下に言語学における「意味」の定義から、a-dの4つの説をあげる。⁽⁵⁴⁾

a. イメージ・心的映像説

イギリスの哲学者 J.ロックは、「語はその第一の、もしくは直接の意味作用において

は話者の…(中略)心のうちの観念以外の何者をも表示しない」として、ある語を見たり、聞いたりするときに心に浮かぶイメージ、心的映像がその語の「意味」であると指摘する。⁽⁵⁵⁾ この説の欠点としては、イメージが明確に定義されておらず、変化する。そのためにコミュニケーションで混乱が生じたり、コミュニケーションが不可能となる。もう1つの欠点として、語のなかには心に浮かぶものがないものが存在するということだ。例えば、the, if などであり、語と認められないことになる。

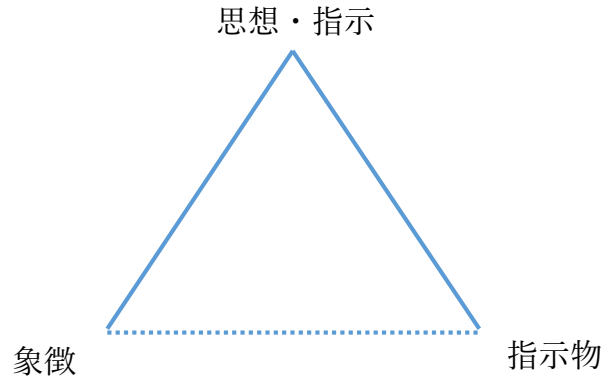
b. 概念説

概念説はイメージ説よりもその含む対象が広く、語がより一般的の性質をもつものと規定している。たとえば、「四次元空間」という表現からわれわれはイメージすることはできないが、そのあらかわす概念は考えることができる。F.ソシュール(1916)は言語記号の意味=概念だとする。⁽⁵⁶⁾

c. 思想・指示説

思想・指示説は、語の「意味」とその語により指されるものについてのわれわれの『主観的な理解』とする説である。これは 20 世紀前半に多く見られた定義で、Ogden-Richards(1923)の基本的三角形(basic triangle)はその一つである。⁽⁵⁷⁾ ただし、象徴と指示物の間には直接的関係はなく、思想・指示の部分が意味と規定される。

図表4-1 基本的三角形



象徴はつねに思想・指示を介して指示物を指す関係であるため、実線で結ばれる。しかし、象徴と指示物には直接的な関係はないために、象徴と指示物は通例、点線で結ばれる。

この説もイメージ・心的映像説同様に、個人差、特殊な語からの連想などの問題に対処することはできない。たとえば、「世界一」という語が指示するものは一定ではなく、個人により異なるし、時間の経過によっても変わりうる。つまり、意味と指示物は同じ人間が使う場合でも時間や状況によって変化する、また、指示するものがない語もある。たとえば、a. イメージ・心的映像説の中の the, if の指示物が不明確である。

d. 反応説

反応説はパブロフの犬を使った実験に見られる条件反射(conditioned reflex)行動に基づく説である。反応説では語の意味は、ある語を見聞きした人間の脳中に生じた反応(response)であると規定される。アメリカ構造言語学では言語分析・記述において、心理学の介入を忌避していたために意味の定義として反応説がよく用いられた。⁽⁵⁸⁾

ある刺激に対する反応を意味と考えるのがこの説であり、この説に従えば、「走れ」という語を聞いた人は全員が走っていなければならない。しかし、現実には走らずに立

ち止まっている人もいる。立ち止まっている人にとっては、「走れ」は「立ち止まる」という意味ということになってしまう。このため、意味の理解は個人間で異なり、相互の意思疎通は困難または不可能となる。

上述の「意味」の定義の4つの説 a.~d.の記述は池上(1975)を参考にしたこと、また、個々の実例は高畑によるものであることを再度記しておく。また、本論文では語の「意味」を、『言語記号である「語」が指す事物、内容、行為、メッセージなど』と定義する。

つぎに同意語(synonym)を『世界大百科事典(平凡社)』と『広辞苑(岩波書店)』で見ると、以下のような記述がされている。

『『同一言語内で二つ以上の語が同じ意味をあらわすと考えられる場合に、それらを同義語(または同意語)という。』一般に、形が違えば意味も異なるという想定に立てば、完全な同義語は言語学的に存在しないといえる。しかし明らかに別個の2語が、ある文脈ではまったく同義に用いられる場合がある。たとえば〈めくる〉と〈まくる〉とか、英語の paper と article は〈論文〉の意味ではかなり接近している。また感情的には違うが知的・概念的にはほぼ等しいと思われる語は数多く認められる。』⁽⁵⁹⁾

また、『広辞苑』には、『同義語に同じ。語形は異なるが意義はほぼ同じ言葉。同義語、シノニム。』とある。⁽⁶⁰⁾

本論文では『世界大百科事典』と『広辞苑』を参照し、同意語を「綴りと発音は異なるがある文脈において相互に交換可能で、ほぼ等価であると考えられる2つ以上の語」と定義する。

また、何をもって「同意」とするかも言語学者により見解が異なる。さらに、2つの

異なる言語を対象にすると「同意」の問題はさらに複雑になる。S.バスネット(2002)は二言語間で等しい価値(equal value)を実現することを等価(equivalence)とよび、等価を翻訳の根本となる最重要概念だとする。⁽⁶¹⁾

近年の認知言語学(cognitive linguistics)では言語を人間の外的世界に対する意味づけの反映と考えて、諸言語のもつ言語構造の違いを明確にする必要があるとする。

英語の翻訳、日英語の比較においても「等価」を実現するには何を伝え、何を伝えないかはきわめて重要な問題である。機能類型論(別名、古典的類型論)では、世界の諸言語を「孤立語」、「膠着語」、「屈折語」、「抱合語」という類型に分類したが、「孤立語」、「膠着語」、「屈折語」、「抱合語」という形式的な特徴が言語の内容的特徴と関連づけられなかった。こうした背景から認知言語学の知見に基づいた認知言語類型論は生まれた。この類型論の目的はある言語がなぜその言語特有の文法形式を用いているかの理由を、その言語を使用する民族の外的世界の反映として説明、記述することにある。⁽⁶²⁾

池上(2000)は、認知言語類型論では英語は言語で表そうとする状況から自分自身を除いて客観的に記述する傾向(外置の認知モード)が強いのに対して、日本語は状況の中に自分自身を埋没させて記述する傾向(認知の相互作用モード)が強いとする。つまり、英語では状況を客観視して言語で表現し、日本語では自分自身を状況に埋没させて記述するのだとする。⁽⁶³⁾ 本論文では、文化を人間の認知活動の所産の一つである言語を人間の認知活動との関連において解明しようとする認知言語類型論の立場をとる。

次節以下では、松下およびウェルチの著作で使用された形容詞と動詞のうちから、使用頻度5回以上のものをリストアップして、各々のリストの示唆する松下とウェルチのリーダーとしての特性を議論する。(なお、全データは付属資料(p.89～)を参照)

II. 分析方法

本論文でも先行研究の多くが採用してきたリーダーシップの観察をリーダーシップ研究の第一歩とする。そこで、パナソニック（松下電器）の創業者、松下幸之助とジェネラル・エレクトリック(GE)のジャック・ウェルチの二人のリーダーの著書、自伝のなかで使われた語彙を言語学の視点で観察することで日米間のリーダーシップにおける文化的相違を探る。これは歴史学などで用いられている「オーラル・ヒストリー」と呼ばれる当事者の「生の声」に基づく研究方法である。

リーダー自身の言葉は複数の文(sentence)から構成される。こうした文の集合体のことを言語学では「テキスト(text)」とよぶ。本稿はテキストとして松下幸之助の多数の著作のうち、『指導者の条件』、『松下幸之助経営者語録』と、ウェルチの自伝『わが経営(上)・(下)』の計4冊を採用する。⁽⁶⁴⁾

英語学でいう伝統文法(traditional grammar)は言語資料中心の実証的研究である。たとえば、O. Jespersen, G.O. Curme, H. Poutsma らの研究は当時としては大量の言語データにもとづく研究であり、コーパス言語学(corpus linguistics)の一種である。⁽⁶⁵⁾

1961年に開始された Brown Corpus はコンピュータを言語研究に活用する最も初期の代表例である。それ以後、言語を電子データ化して分析をおこなう研究はコーパス言語学(corpus linguistics)とよばれる。⁽⁶⁶⁾

現時点で、英語の書き言葉(written language)に関しては BNC(British National Corpus)が、アメリカ英語に関しては CCAE(Corpus of Contemporary American English)が世界最大のデータバンクである。

言語のデータバンクであるコーパスの内容は市販の「辞書」、「参考書」以上に言語情報を蓄積したものである。目前の特定のテキスト(=文献)の中の文字列を、たとえば

単語などに分解して、その頻度や出現傾向などを解析して情報を取り出す手法としてテキスト・マイニング(text mining)がある。以下、本論文ではテキスト・マイニングという。

マイニングには2種類あり、目的が異なる。たとえば、マーケティングにおけるデータ・マイニングは個々の消費者、ユーザーの購買傾向の分析が目的であり、テキスト・マイニングは商品・サービスの提供者が商品・サービスの評価、顧客サービスの欠点、問題点を把握するために利用される。⁽⁶⁷⁾

本論文で実施するテキスト・マイニングについて述べる。

通常、quickly という英語副詞は1語として認識されるが、言語学的には quick (形容詞) と -ly (副詞をあらわす語尾) の二つの構成要素(constituent)からなると考える。このうち、-ly のように他の構成要素に依存してはじめて存在意義をもつ構成要素を最小の意味単位、形態素(morpheme)とよぶ。さらにいえば、このような他の構成要素に依存してはじめて存在意義をもつ形態素を拘束形態素(bound morpheme)とよび、quick のようにさらに小さな単位に分解できない形態素、つまり他の要素に依存せずにいるものは自由形態素(free morpheme)という。言語学では「意味をもつ最小単位」を形態素と呼ぶ。このように文章を語よりもさらに微小なレベルにまで分析することを形態素解析といい、形態素分析がテキスト・マイニングの第一歩である。

現在、日本語に関する代表的な形態素解析ソフトとして Chasen (茶筌) と MeCab (めかぶ) の2つがあり、両ソフトの評価はユーザーにより異なるが、本稿では Mecab を使用した。⁽⁶⁸⁾

とくに日本語では英語のように書き言葉の場合にスペースがないので、どこで区切るかの難易度ははるかに高い。さらには、「はし」が「橋」なのか、「端」なのか、あるいは

は「箸」なのかといった同音異義(homonymy)の問題もある。

本論文のデータ作成の手順は以下の通りである。まず、松下、ウェルチの著作を OCR ソフト「読んでココ」(EPSON)を使用してスキャナーで読み取り後に、文字認識が正しくできたかを目視で再確認したのちに txt ファイル形式で Excel に保存した。⁽⁶⁹⁾

その後、保存したデータをテキスト・マイニングツール TTM(フリーソフトウェア)に入力した。

まず、TTM(Tiny Text Miner Miner)(<http://mtmr.jp/ttm/>、フリーソフトウェア)をインストールする。さらに、MeCab をインストールする。文字コードは「Shift-JIS」を選択した。⁽⁷⁰⁾

松下、ウェルチ両氏のリーダーシップを比較対照するにあたっては、日本語の形容詞(形容動詞を含む)と動詞に着目した。その理由は人物・事物の状態や評価を明確に表わす品詞である形容詞(形容動詞を含む)と動詞のうち、とりわけ「評価」動詞により異文化間の違いに光を当ててためである。⁽⁷¹⁾

4章 分析と仮説の検証

I. 松下とウェルチの主要な形容詞と動詞

松下の形容詞の使用頻度は、最小1回から最大218回までに及ぶ。このうち使用頻度5回以上の形容詞は全形容詞中の83.48%を占める。また、松下の動詞の使用頻度は、最小1回から最大1217回までに及ぶ。この中で使用頻度5回以上の動詞は全動詞中の82.88%を占める。

松下が著作で使用している使用頻度5回以上の形容詞と動詞を見ると、「松下哲学」が明確に反映されている。形容詞では使用頻度5回以上の130語中、「いい、うまい、よい、正しい、賢い、望ましい、うれしい、面白い、ふさわしい、好ましい」という「好評価」形容詞が10語、使用頻度5回以上の形容詞が全体の34.5%を占めている。

また、使用頻度5回以上の動詞186語のうち、「衆知を集める」、「熟考する」、「人材育成」という松下の基本的姿勢を反映する動詞、「思う、考える、見る、知る、聞く、求める、説く、心がける、生かす、許す、育てる、喜ぶ、祈る、生み出す、ほめる、あやまる、養う、訴える、高める、育つ、取り組む、たずねる、励ます、みとめる、思い切る、頼む、すすめる、受け入れる、まかせる、望む、見きわめる、願う、きたえる、笑う、伝える、愛す、みとめる、愛する、伝わる、心得る」の40語(21.5%)が含まれている。

上記の形容詞と動詞から、松下が人材を組織の運営と発展のための「道具」として使うものではなくて、「仲間」として考えていることがわかる。「仲間」とともに苦しみも喜びも共有しながら意思疎通を図ろうとするのが松下のリーダーシップのスタイルであることがわかる。

こうした松下のリーダーシップの背景には松下の生来の身体の弱さがある。松下は最

前線で行動するのではなくて、多くの人から話をよく聴き、責任をもってそれぞれの人にまかせる姿勢を貫いた。さらには、病弱という弱点から「衆知を集める」ことの大切さを悟り、事業部制による「自主責任経営」、「全員経営」という強みに変えている。⁽⁷²⁾

一方、ウェルチの形容詞の使用頻度は、最小 1 回から最大 804 回である。この中で使用頻度 5 回以上の形容詞は全形容詞の 79.1%を占める。また、ウェルチの動詞の使用頻度は、最小 1 回から最大 5462 回である。この中で使用頻度 5 回以上の動詞は全動詞の 88.9%を占める。

II. 松下とウェルチの比較

次節の図表 4 - 2 は松下とウェルチの両者が使用した形容詞と動詞を、総使用語数、総出現頻度、頻度 5 回以上の語の合計、頻度 5 回以上の語が該当品詞全体に占める出現頻度の 4 項目を一覧にしたものである。

図表 4 - 2 松下とウェルチに関する上記データの概要

形容詞	松下幸之助	ジャック・ウェルチ
総使用語数	115 語	207 語
総出現頻度	914 回	2496 回
頻度 5 回以上の語の合計	29 語	31 語
および全体に占める出現頻度(%)	763 回 (83.48%)	2257 回 (79.1%)
動詞		
総使用語数	879 語	1702 語
総出現頻度	6532 回	19434 回
頻度 5 回以上の語の合計	186 語	431 語
および全体に占める出現頻度(%)	5414 回 (82.88%)	17276 回 (88.9%)

さらに図表4-3では分類語彙表（国立国語研究所）（2004）を参考にして、松下、ウェルチ両氏の形容詞と動詞を意味分類した。⁽⁷³⁾

図表4-3 分類語彙表（国立国語研究所）（2004）を参考にした意味分類

松下（形容詞）				ウェルチ（形容詞）	
存在表現	ない*			存在表現	ない*
量的表現	多い*	少ない*	大きい*	量的表現	高い*
適不適	いい*	よい*		適不適	よい*
難易	むずかしい*			難易	
新旧				新旧	新しい*
真偽・是非	正しい*			真偽・是非	
生理・病気	強い*			生理・病気	
品行	うまい*			品行	すばらしい*

図表4-4は動詞の意味分類表である。松下とウェルチの大きな違いは、「入り・入れ、開始、授受、発生・発着、出会い・集合、往復、聞く・味わう、出没、終了・停止、書き」の意味を持つ動作動詞をウェルチだけが使用している点である。また、動作動詞以外の動詞に関しては両者に大きな違いは見られない。

分類語彙表の意味分類にしたがって、両氏が使用した動詞と形容詞を分類したのが次頁の図表4-4である。

図表4-4 分類語彙表（国立国語研究所）（2004）を参考にした意味分類

松下（動詞）			ウェルチ（動詞）			
行為・活動	する*	やる*	行為・活動	する*	受ける*	
詳細・正確	ある*		詳細・正確			
因果	なる*		因果	なる*		
思考・意見	思う*	考える*	思考・意見	考える*	思う*	
言語活動	いう*		言語活動	言う*	いう*	
才能	できる*		才能	できる*		
所有	持つ*		所有	持つ*		
注意・認知	見る*	知る*	注意・認知	わかる*	見る*	知る*
需給	いる*		需給	いる*	かける*	
入り・入れ			入り・入れ	入る*		
開始			開始	開く*		
授受			授受	与える*		
発生・発着			発生・発着	出る*		
出会い・集合			出会い・集合	会う*		
往復			往復	行く*		
聞く・味わう			聞く・味わう	聞く*		
出没			出没	出す*		
終了・停止			終了・停止	終わる*		
書き			書き	書く*		

さらに、ウェルチの形容詞と動詞を分類語彙表の意味分類にしたがって分類すると、ウェルチでは大小・多寡の「量的表現」を意味する形容詞はわずか一語（「高い」）のみである。また、ウェルチには「難易」、「真偽・是非」、「生理・病気」を意味する形容詞は見られないが、「新旧」を意味する形容詞（「新しい」）が見られる。

動詞の使用に関しては、ウェルチでは「授受」、「出会い・集合」、「聞く」、「書き」を

意味する動詞（「与える」、「会う」、「聞く」、「書く」）が見られる。しかし松下にはこれらの動詞は見られない。

松下と同様に、ウェルチのリーダーシップも彼の生い立ちや成功、失敗を含む人生経験、環境がその信条、哲学、生き方、感情に大きな影響を及ぼしている。ジャック・ウェルチは1935年、アメリカのマサチューセッツ州ピーポディで鉄道会社の車掌と専業主婦の家庭に生まれた。彼の自伝には父親の記述が少ない反面、母親グレイスについての言及が多く、とりわけ学校時代の母親の姿を描いた場面がきわめて印象深く、かれの人生に大きな影響を与えていることがわかる。ウェルチのケースは母親が自身の願望を息子（＝ウェルチ）に達成させようと強い圧力をかけ続けた一例だ。やや長くなるが、彼の自伝から引用する。

『わがセーラム高校は開幕三連勝と好スタートを切りながら、その後六連敗を喫し、（中略）リン・アリーナでの最後の試合（中略）は大接戦となり、二対二で延長戦にもつれこんだ。しかし、延長開始直後にゴールを奪われ、またしても涙を飲んだ。七連敗だ。（ロッカールームで）チームメートはすでに腰をおろし、スケートシューズやユニフォームを脱ぎ始めていた。突然、ドアが開き、私の母がものすごい形相で入ってきた。（中略）母はまっすぐ私のところへやって来て、私の胸ぐらをつかんだ。

「なんてだらしないの」。母は声を限りに罵倒した。「負け方を知らないなら、いつまでたっても勝てるわけがないでしょ。そんなこともわからないなら、ホッケーなんかやめなさい」

私は恥ずかしかつた－友達がみんな見ているわけだから－けれども母の言葉は肺腑に沁みた。更衣室まで押し入ってきた、怒りを爆発させ、湯を入れ、失望をあらわにし、愛情を降り注ぐ。私の母はそういう人間だった。母は私の人生にもっとも強い影

響を与えた人だ。グレース・ウェルチは私に勝つ喜びを教え、敗北に挫けてはいけないことを教えながら、戦うことの意味を教えてくれた。』

さらにつづけてウェルチは自身のリーダーシップについても述べている。

『私のリーダーシップに何かスタイルがあるとすれば、つまり人間の持てる力を最大限に引き出すのが私のスタイルだとすれば、それは母のおかげだ。芯が強くて気が強く、あたたかくて気前がよかった母は、人を見る目があった。(中略)そして、私の経営に関するさまざまな基本姿勢、つまり勝つために全力で戦う、現実を直視する、硬軟使い分けて部下のやる気を引き出す、無理と思えるほど高い目標を掲げる、仕事成し遂げられたかを執拗に確認する、という姿勢も、元をたどれば母の影響かも知れない。母に叩きこまれたことは、色褪せることがなかった。(中略)取引や事業の問題が奇跡的に解決すると思ひ込みたくなるたびに、母の言葉が私を叱咤する。学校に通うようになるとすぐに、常に頂点をめざせと教えられた。』⁽⁷⁴⁾

マイケル・マコビーはウェルチのような CEO に共通する人格を「ナルシスト人格」とよぶ。マコビーは「ナルシスト人格」について、以下のように述べる。

『... ナルシストは正しいことをしなければならない、と覚悟することがほとんどない。こうした内的制約をもたないかわりに、ナルシストは何が正しいか、何に価値を認めるか、自分にとって何が意味を持つのかを、自分で決める。』⁽⁷⁵⁾

マコビーによれば、ナルシスト人格とは、「ものごとの『現に在る』状態を拒絶し、ものごとの『在るべき』状態を求める人間」である。「ナルシストは、『他人の言葉にぜったいに耳を傾けない人間』であり、『ナルシストのヴィジョンは、かならず現状否定から始まる』、と指摘している。⁽⁷⁶⁾

マコビーは人格を4つに分類したが、ナルシスト人格を除く3つには「正しいこと

をしたい」という意識があるのに対して、ナルシスト人格はそうした意識、内的制約は希薄で、自分にとって何が意味をもつかを自分で決める、という。即ち、他者を参考または目標モデルにしない、つまり通常の社会的指標が通用しない点でその他の3つの人格と異なる。

ナルシストは非生産的ナルシストと生産的ナルシストの二つのタイプに分かれるが、後者、生産的ナルシストは「情熱を抱き、ヴィジョンから力を得、カリスマ性を発揮して、人々を自分の内なる会話へ引き込んでいく。生産的ナルシストは味方と敵を正確に把握しており、つねに警戒を怠らない。」⁽⁷⁷⁾

III. 松下とウェルチの人物的特徴

ウェルチが使用した使用頻度5回以上の形容詞は彼の人物的特徴、前述のマコビーのいう「ナルシスト」の特徴である敵味方の峻別などの人物的特徴をあらわしている。

「ない、厳しい、悪い、難しい(むずかしい)、つらい、激しい、古い、低い、遅い、少ない、ひどい、苦しい、しつこい、弱い、ほど遠い、おかしい、ばかばかしい、痛い」は使用頻度5回以上の形容詞67語のうち18語(ないしは19語)、約27%を占めている。

また、ウェルチでは「好・高評価」形容詞が形容詞全体の19.15%を占めており、使用頻度10回以上の形容詞に占める割合においても23.78%を占めている。

これに対して、松下は「好・高評価」形容詞が形容詞全体に占める割合の19.81%、使用頻度10回以上の形容詞では29.21%を占める。

「好・高評価」形容詞が形容詞全体に占める割合では両氏の違いは大きくない。使用頻度10回以上の形容詞は、松下がウェルチより約6.5%高く、同一の「好・高評価」が

反復使用されていることがわかる。それに対して、ウェルチは多彩な「好・高評価」形容詞を使用しているのがその特徴である。

動詞では、ウェルチの場合は「好・高評価」動詞が動詞全体に占める割合は 0.9978%、また使用頻度 10 回以上の動詞に占める割合は 0.61%である。

使用頻度 5 回以上の動詞のうち「する、できる、いう、与える、会う、行く、使う、とる、変える、求める、呼ぶ、選ぶ、気に入る、決める、取り上げる、超える、向ける、戦う、進める、勝つ、引き抜く、乗り出す、負ける、叩く、役に立つ、思い知らず、落とす、奪う、押しつける、吹き込む、脅かす、嫌う、切り離す」は、使用頻度 5 回以上の動詞 482 語のうちの 33 語、約 6.9%を占める。

一方、松下は「好・高評価」動詞は動詞全体の 0.76%を占め、使用頻度 10 回以上の動詞の割合は動詞全体の 1.96%である。さらに、使用頻度 5 回以上の動詞のうち「する、できる、やる、使う、いく（行く）、進む、求める、戦う、売る、生み出す、打つ、取り組む、動く、勝つ、起す、負ける、つぶす、思い切る、努める、正す、めざす、選ぶ、きたえる、果たす、歩む、討つ、処す、興す」の 30 語は使用頻度 5 回以上の動詞 189 語のうちの 15.9%をしめており、ウェルチよりも高い割合を示している。

「好・高評価動詞」

「好・高評価」動詞では、ウェルチは動詞全体に占める割合で松下を上回るが、使用頻度 10 回以上の動詞では松下がウェルチを上回る。前述の形容詞と同様に、松下は頻繁に「好・高評価」動詞をよく反復使用していることがここでも明らかである。

以上の分析をまとめると、一般にウェルチは積極的リーダーシップを発揮しているように思われているが、「積極性・活発さ」をあらわす動詞を見る限り、松下のほうがよ

り積極的リーダーシップを発揮していることが示唆される。⁽⁷⁸⁾

もちろん、ウェルチでも前出の使用頻度 5 回以上の動詞中の「取り上げる、戦う、引き抜く、叩く、思い知らず、奪う、押しつける、吹き込む、脅かす、嫌う、切り離す」の計 11 語からは、母親譲りの「怒りを爆発させ、湯を入れ、失望をあらわに」、「勝つために全力で戦う、現実を直視する、硬軟使い分けて部下のやる気を引き出す、無理と思えるほど高い目標を掲げる、仕事が成し遂げられたかを執拗に確認する」というウェルチの性格と姿勢が強く反映されていることが示唆されている。

ここまで、使用頻度に基づく分析にくわえて前述の分類語彙表による意味分類、たとえば「入り・入れ、開始、授受、発生・発着、出会い・集合、往復、聞く・味わう、出沒、終了・停止、書き」といった分類方法を言語学的観点から文化とリーダーシップの考察をするためにおこなってきた。

さらに、文書中の語彙の重要度を評価する指標、TF-IDF を採用した。その理由は、一般的に使用頻度の高い語彙（「よい、わるい、する、なる、」など）を排除して、特定のジャンル、人物の特徴、特異点をさらに明らかにすることにある。

IV. 文化とリーダーシップの関係の研究により有効な方法

今までの使用頻度分析の弱点を解決する方法として、文書中の語彙の重要度を評価する指標、TF-IDF の採用を試みる。TF-IDF は TF(Term Frequency=単語の出現頻度)と IDF(Inverse Document Frequency=逆文書頻度)という 2 つの指標の積として算出され、情報検索やトピック検索で多く用いられる指標である。まず、データ化されている文書全体の集合を D とする。 D は合計 N 個の文書から成るとする。集合 D の要素の個数を $|D|$ で表す。従って、 $|D| = N$ である。 D に含まれる各文書は、適

当に番号付けられているとし、番号 j に対応する文書を d_j で表す。ここで、 $j=1$ は松下に、 $j=2$ はウェルチに対応するとしても一般性を失わない（もちろん、逆でもよい）。 $j=3$ 以降は、今回使用した松下、ウェルチ以外の文書である。従って、

$d_1 = d_{\text{松下}}$ =今回扱った松下の文章、 $d_2 = d_{\text{ウェルチ}}$ =今回扱ったウェルチの文章であり、

$$D = \{d_1 = d_{\text{松下}}, d_2 = d_{\text{ウェルチ}}, d_3, \dots, d_N\} = \{d_j \mid 1 \leq j \leq N\}$$

と書くことができる。一方、 M で今回扱った松下の文章にでてくる単語全体、 W をウェルチに出てくる単語全体とし、 T でそれらの合併を表す。すなわち、 $T = M \cup W$ である。 T に含まれる単語は番号付けされているとし、その番号全体を Λ とする。 $i \in \Lambda$ に対し、 t_i で各単語を表す。従って、

$$\text{単語全体の集合} : T = M \cup W = \{t_i \mid i \in \Lambda\}$$

となる。各文書は、単語の集まりであると考え、文書 d_j に単語 t_i が現れるとき、 $t_i \in d_j$ と記す。また、この時の回数、すなわち、文書 d_j に単語 t_i が現れる回数を n_{ij} とする。これらの記号の下で、単語 t_i が文書 d_j に現れる頻度 TF 値を

$$\text{TF}_{i,j} = \frac{n_{ij}}{\sum_{k \in \Lambda} n_{kj}}$$

とする。特に、 $j=1$ は松下に、 $j=2$ はウェルチに対応していたので、単語 t_i の TF 値は

$$\begin{aligned} \text{TF}_{i,1} &= \frac{n_{i1}}{\sum_{t_k \in M} n_{k1}} && : \text{単語 } t_i \text{ が松下の文章に現れる割合} \\ \text{TF}_{i,2} &= \frac{n_{i2}}{\sum_{t_k \in W} n_{k2}} && : \text{単語 } t_i \text{ がウェルチの文章に現れる割合} \end{aligned}$$

と書くことができる。一方、単語 t_i の逆文書頻度 IDF 値を

$$\text{IDF}_i = \log \frac{|D|}{|\{j \mid t_i \in d_j\}|} = \log \frac{N}{|\{j \mid t_i \in d_j\}|}$$

とする。 \log 内の分母 $|\{j \mid t_i \in d_j\}|$ は、単語 t_i を含む文書 d_j の個数である。従って、一部の文書にしか現れないような珍しい単語ほど IDF 値は大きくなる。このとき、単

語 t_i の文書 d_j における TF-IDF 値は

$$\text{TF-IDF}_{ij} = \text{TF}_{ij} \times \text{IDF}_i$$

と定義される。なお、本論文の TF 値、IDF 値、TF-IDF 値は、UserLocal 社のテキスト・マイニング・ツールを使用している。⁽⁷⁹⁾

このように、IDF 値は語彙のフィルターとして機能して、多くの文書で使用される一般的な語彙 (= 一般語) の重要度は低下して、特定の文書のみには使用されない語彙の重要度を高める働きをする。語彙の TF-IDF 値が高いほど特徴的な語彙をあらわす

以下に TF-IDF 法を使って松下とウェルチの形容詞と動詞を分析した結果を記載する。なお、次頁の図表 4-6 では、スコア値は TF-IDF 値に、出現頻度は TF 値に対応している。

図表4-6 スコア一覧表（松下の使用した形容詞と動詞）

スコア値順（松下）		
形容詞	TF・IDF値	TF値
きびしい	187.74	50
むずかしい	71.66	23
力強い	45.57	21
正しい	44.65	48
はげしい	39.43	11
望ましい	21.15	10
強い	8.83	43
貧しい	7.93	6
うまい	7.35	27
少ない	7.15	27
広い	6.34	14
惜しい	4.07	6
いい	3.29	72
こわい	3	15
大きい	2.45	17
弱い	2.01	10
あつい	1.8	6
若い	1.46	10
多い	1.31	21
長い	1.28	12
高い	1.21	17
にくい	1.14	8
よい	1.05	20
よろしい	0.29	7
やすい	0.77	11
深い	0.73	7
悪い	0.59	13
軽い	0.49	5
早い	0.34	10
新しい	0.28	7

スコア値順（松下）		
動詞	TF・IDF値	TF値
わかる	407.86	67
とらわれる	222.91	48
いえる	218.6	101
行なう	218.57	65
すぐれる	174.4	34
いく	173.78	350
思う	158.05	551
持つ	150.12	249
考える	148.57	265
説く	89.11	33
心がける	69.44	33
いける	67.01	132
なす	64.37	57
生かす	52.74	35
できる	45.66	228
戦う	41.3	44
従う	38.04	24
用いる	36.95	25
立つ	36.8	58
しまう	29.86	137
生み出す	28.28	24
知る	28.2	104
生まれる	25.52	41
進む	25.4	45
求める	24.74	45
つくる	24.23	43
与える	22.31	35
進める	21.8	27
起こる	20.09	27
訴える	19.38	23
もつ	17.24	44

とる	14.4	59
許す	10.08	24
喜ぶ	9.29	24
働く	8.35	28
使う	8.26	67
聞く	7.58	57
おる	6.14	44
受ける	5.77	27
つく	5.2	33
教える	5.12	32
あげる	4.76	30
もらう	4.46	33
感じる	4.15	27
くれる	4.08	58
しれる	3.76	24
生きる	3.02	24
言う	1.99	55
見る	0.79	35
行く	0.58	25

図表4-7 スコア一覧表（ウェルチの使用した形容詞と動詞）

スコア値順（ウェルチ）		
形容詞	TF・IDF	TF
すばらしい	17.75	17
新しい	13.3	50
ふさわしい	10.22	7
親しい	6.83	6
よい	4.34	41
強い	3.57	27
長い	3.15	19
厳しい	3.15	13

大きい	3.04	19
うまい	2.36	15
難しい	2.27	16
正しい	2.04	9
速い	1.68	8
高い	1.5	19
若い	1.46	10
ありがたい	1.02	6
広い	0.89	5
ほしい	0.88	13
つらい	0.75	8
熱い	0.67	6
楽しい	0.65	13
甘い	0.63	6
多い	0.59	14
いい	0.58	30
深い	0.42	6
悪い	0.42	11
小さい	0.39	5
寒い	0.35	6
早い	0.22	8
嬉しい	0.2	6

スコア値順 (ウェルチ)		
動詞	TF・IDF値	TF値
与える	18.96	27
くれる	18.44	62
考える	9.42	41
できる	8.42	51
信じる	7.82	26

働く	7.79	26
つける	4.4	25
いく	4.28	40
持つ	4.18	32
続ける	3.86	24
思う	3.81	45
言う	3.79	44
始める	3.78	24
感じる	3.57	23
会う	3.52	20
知る	3.4	28
来る	3.2	36
入る	3.15	35
かける	2.86	21
過ぎる	2.68	23
もらう	2.39	20
出す	2.28	25
聞く	2.01	26
つく	1.95	20
行く	1.87	38
しまう	1.83	27
出る	1.75	29
書く	1.5	21
終わる	1.37	20
見る	1.03	33

上記の図表 4-6 の TF-IDF 値から、松下は「きびしい、むずかしい、正しい」という形容詞の使用に特徴があることがわかる。また、動詞に関しては「わかる、とらわれる、いえる、行なう、すぐれる、思う、持つ、考える」にその特徴があらわれている。これらからは松下が状況の厳しさ、深刻さを認識しながらも、熟慮して信念をもって正

しいと信じる道を進もうとする意志が示唆される。

図表4-7のウェルチの形容詞の使用では、「すばらしい、新しい、ふさわしい」の3語に特徴が見られる。これらの形容詞から、ウェルチが好悪の感情を表に出す性格の持ち主であり、しかも新しいものへの興味・関心を強いことが示唆される。また、動詞に関しては、「与える、くれる」の2語にウェルチの性格の特徴が見られる。「与える、くれる」という動詞のいずれも「授与」の意味を持つ動詞というだけではなくて、「上から下へ」という、明確な「上下関係」の存在が使用の前提になっている。

以下の図表4-8から4-14では、動詞、形容詞という単独の品詞レベルでの使用状況だけではなく、動詞、形容詞と名詞との共起や使用している単語を視覚的に把握することにより、松下ウェルチの2人の性格的特徴をより深く考察することにする。まず、図表4-8と4-9はそれぞれ松下とウェルチの共起関係を表した共起ネットワーク図である。共起とは一文、例えば改行や「。」などで区切られた各文の中に、単語のセットが同時に出現することを指す。また、共起回数とは一緒に出現した回数を指す。たとえば、

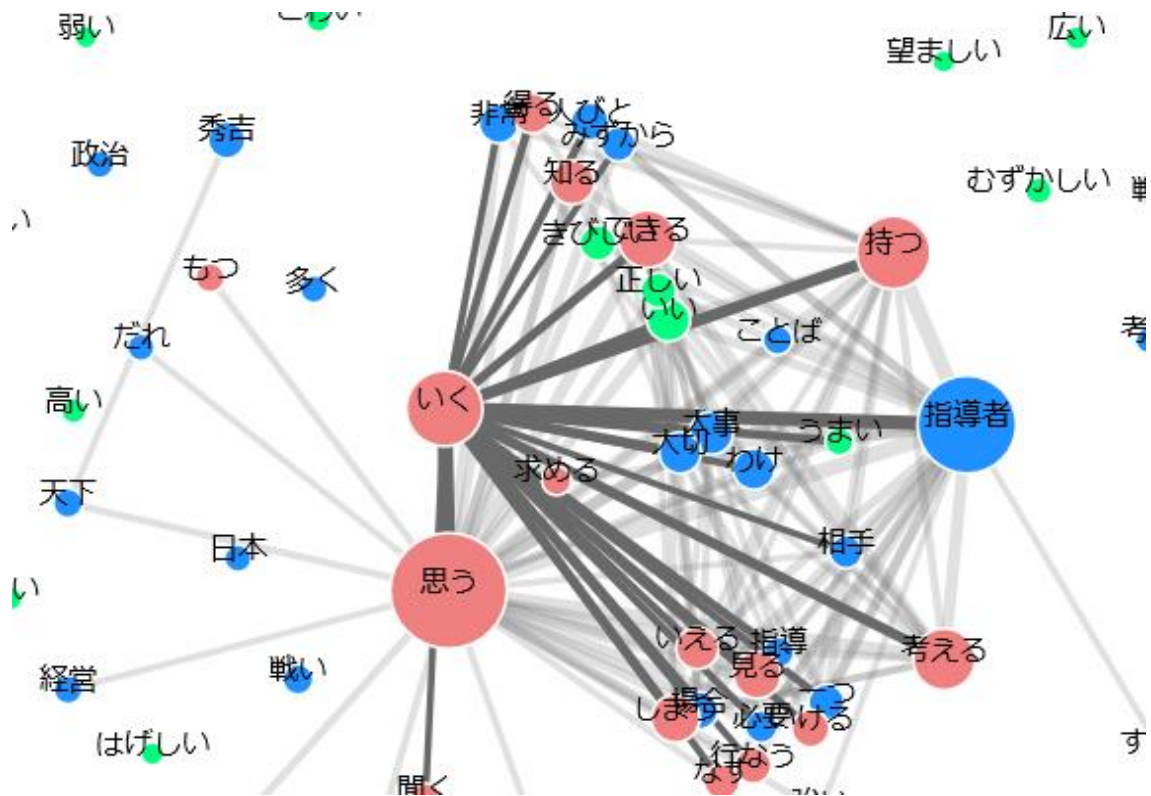
「あのメーカーが作った車はとても速い。」

「速いスピードで車が追い越していった。」

という2文をテキスト・マイニングした場合に、「車(名詞)」と「速い(形容詞)」という単語がセットで出現する(=共起する)回数はそれぞれ2回となる。共起する程度が強い語を線で結んだ2次元(=縦横)のマップを共起ネットワークとよぶ。共起ネットワーク図は共起関係が強いほど太い線で、出現回数の多い語ほど大きい円で描かれる。線の長さに意味を持たせる場合もあるが、今回の共起ネットワーク図では、線の長さに意

味はない。なお、UserLocal 社の原図では上下、左右両端にあるはずの語が何らかの原因で一部しか表示されていないが、本論文では原図に一切修正を加えなかった。

図表 4-8 共起ネットワーク図 (松下)



形容詞：緑色

動詞：赤色

名詞：青色

これら図表4-10、4-11のワードクラウドは、テキストデータを可視化し、見た人の記憶に残りやすいという特徴を持つ。広告やデザインなどの分野でよく目にするものである。ただし、単語の配置には意味がなくランダムに置かれているので、単に頻度を表しただけの表やグラフ（以下の図表4-12および付属資料参照）と比べて誤った印象を与えるという批判もある。

図表4-8の共起ネットワーク図（松下）では、「思う・いく・考える」の3つの動詞を起点にして、「天下・日本、経営を思う」、「指導者・経営者が、正しい、いいことを人びとといく」、「指導者は（よく）考える」を自らの原理原則にしていることが示唆される。

続く図表4-10のワードクラウド（松下）では、「指導者（名詞）」が大きく、さらにその周囲には、「秀吉、信長、大将、天下（名詞）」がある。これは松下が日本の歴史上の人物から指導者としての教訓を学んでいる証である。また、「きびしい（形容詞）、持つ、説く（動詞）」の3語からは、松下が厳しい姿勢を持ちながら、部下に対して自説を説いて回ったことが示唆される。

図表4-9の共起ネットワーク図（ウェルチ）の中央には「なかった（動詞の否定形）」がある点が図表4-8（松下）と大いに異なる。これはウェルチが他とは異なる存在であることを意識して、他者とは異なる行動をとることを示唆する。さらに、ウェルチの意識の中心には、「GEとその事業、そしてジョーンズ」がある。また、「正しい、よい（形容詞）」が中央から離れた位置にあることから、「ことの正否」にはあまり関心がないことが示唆される。

図表4-11のワードクラウド（ウェルチ）では、ウェルチが「ジョーンズ」を最も意識していることと、「GE、事業、本社、会長（職）」がそれに次いで意識しているこ

とが明らかである。そして、「新しい、すばらしい (もの)」に関心がある一方で、「よい、いい、正しい (もの・こと)」への関心は薄く、「(他人に) 与える」ことはあるが、「(他人の話を) 聞く」ことは少ないことが示唆される。

次に図表4-12では、松下、ウェルチのそれぞれが著書中から出現回数の多い単語を選び、どの程度の比率で出現したかを示す(空欄は出現なしを表す)。

図表4-12 (補足) 動詞と形容詞の出現頻度比較表

松下	動詞	ウェルチ
1217	する	5462
397	ある	949
337	なる	1192
333	思う	220
322	言う	374
159	考える	245
138	できる	407
136	持つ	137
133	やる	28
83	見る	131
63	行く	153
61	知る	99
60	いる	267
52	いえる	12
46	使う	67
41	わかる	152
39	とらわれる	
37	立つ	41
37	とる	64
37	行なう	95
30	進む	24

29	聞く	89
28	つくる	48
27	求める	
26	得る	43
25	与える	
24	もつ	13
22	生まれる	38
22	教える	43
22	戦う	21
21	説く	
21	なす	12
21	すぐれる	40
20	心がける	13
20	出る	
19	叱る	
17	進める	20
17	あげる	34
17	つく	
17	感じる	
17	生かす	
17	努める	
16	受ける	
16	来る	
16	答える	66
16	許す	17
16	かける	
15	育てる	14
15	はかる	
15	失う	39
15	知(し)れる	60
15	起こる	34
15	喜ぶ	13
14	おる	

14	祈る	
14	ちがう	
14	やってくる	13
14	生じる	
14	出す	
14	働く	54
14	売る	19
13	生み出す	23
12	捨てる	
12	立てる	22
12	儲かる	
12	買う	30
12	ほめる	
11	あやまる	
11	集まる	28
11	用いる	
11	従う	
11	打つ	
11	養う	
11	忘れる	31
11	生きる	
11	いいかえる	
11	訴える	20
10	入る	107
10	高める	12
10	替える	
10	かかる	66
10	変える	62
10	つかむ	12
10	重ねる	14
10	死ぬ	
10	集める	
10	売れる	

10	始める	34
9	まちがう(間違う)	16
9	育つ	19
9	基づく(もとづく)	13
9	かざる	
9	困る	47
9	取り組む	52
9	訪(たず)ねる	32
9	動く	14
9	送る	31
9	応じる	
9	勝つ	19
9	上(あ)がる	27
8	続く	27
8	終わる	76
8	あたる	
8	示す	73
8	至(いた)る	19
8	起こす	20
8	陥る	
8	負ける	13
8	励ます	
8	決める	47
8	つぶす	
8	貸す	
8	かかわる	54
8	借りる	
8	つぶれる	
7	認(みとめ)る	42
7	思い切る	
7	足りる	
7	やめる	12
7	帰る	25

7	開(ひらく)	100
7	頼む	
7	すすめる	
7	変わる	50
7	超える	23
7	受け入れる	23
7	ゆるむ	
7	生む	
7	誤る	

次の図表 4-13 は文章中の単語のなかで松下とウェルチそれぞれが使用した特徴的な形容詞、動詞（参考：名詞）を全体的に把握できるように視覚化した特徴語マップである。図中での距離が近い単語は色分けして、グループ化してある。図をより大きく見せるため、図表 4-13（および図表 4-14）は、本来の向きからは 90° 回転したものを載せている。説明は、本来の横軸（ウ寄りと松寄り）と縦軸（特徴的と一般的）で行う。横軸での単語の位置は、松下、ウェルチそれぞれの文書内での存在比で決めている。従って、図を適度な大きさに収めるための伸縮を別にすれば、TF 値で決まると言ってもよい。一方、縦軸についての単語の位置は、特徴的であればあるほど高い位置になるので、IDF 値で決まると言える。

図表 4-14 は、松下、ウェルチが形容詞、動詞、（参考：名詞）のうち、どのようなポジティブあるいはネガティブな意味をもつ語を使用したかを視覚化した図である。横軸は図表 4-13 と同様、松下とウェルチの TF 値で決まる。縦軸のネガティブ語からポジティブ語は、UserLocal 社が数千万件以上のクチコミデータを人工知能(AI)にディープラーニングで学習させ、数値化して決めたものである。

V. 分析結果

1. 松下とウェルチの TF-IDF 値の比較（形容詞）

図表 4-6 によれば、形容詞に関して松下とウェルチの TF-IDF 値を比較した結果は以下の通りである。1) 両者の TF-IDF 値スコア平均値（松下 20.7503125、ウェルチ 3.2309375）は大きく異なるが、平均値を超えた形容詞の数は両者ともに 6 語であった。2) 両者が使用した形容詞のうち、TF-IDF 値スコア平均値を超えた形容詞はなかった。3) TF-IDF 値スコア平均値を超えた形容詞の割合は表中の形容詞全体の過半数を上回った（松下 86.18%、ウェルチ 65.56%）。とくに松下の場合では、「きびしい(187.74)、むずかしい(71.66)」の TF-IDF 値が突出していた。

2. 松下とウェルチの TF-IDF 値の比較（動詞）

図表 4-6 によれば、動詞に関して松下とウェルチの TF-IDF 値を比較した結果は以下の通りであった。1) 両者の TF-IDF 値スコア平均値（松下 36.95625、ウェルチ 4.978125）は、形容詞の TF-IDF 値スコア平均値（松下 20.7503125、ウェルチ 3.2309375）と同様に大きな差があった。また、平均値を超えた形容詞の数は松下が 11 語、ウェルチが 6 語だった。2) 両者が使用した TF-IDF 値スコア平均値を超えた動詞は「考える」の 1 語のみだった。3) 松下の場合は TF-IDF 値スコア平均値を超える動詞が表中の動詞全体の 77.11% を占めた。また、ウェルチの場合は 50.86% と過半数を僅かに超えた。とくに松下では「行なう、いえる、とらわれる」の 3 つの動詞で TF-IDF 値が突出していた。

3. 松下とウェルチの共起ネットワーク図とワードクラウドの比較

松下では、「きびしい、むずかしい、正しい、力強い、はげしい、いい」というポジテ

イブな意味の形容詞の出現頻度が高い。これらの形容詞は動詞の「考える、思う、説く、いく、できる」と関連をもっており、松下のリーダーシップの根底には「自説に固執するのではなく、他者との対話を通じて厳格に物事の道理を追求しようとする強い信念と正義感」があることが示唆される。

一方、ウェルチでは「すばらしい、新しい、楽しい、よい、早い」というポジティブな意味の形容詞の出現頻度が突出している。ウェルチのリーダーシップは賞賛と新鮮さ（新奇さ）を重視していることが示唆される。これらの形容詞は、「言う、信じる、与える、考える」などの動詞と関連をもっており、ウェルチのリーダーシップの根底には「熟考したのちに自説を主張し、信頼できる部下に任務、課題、ときには賞賛を与えるのがリーダーの責任」であることが示唆される。

松下では出現頻度 5 回以上だけでなく、5 回未満の形容詞でも「高・好評価」を示すものが多く見られることがわかる。これに対してジャック・ウェルチの場合には「低・悪評価」を示す形容詞が非常に多い反面、「高・好評価」の形容詞は少ない。

動詞を比較すると、松下もウェルチも「具体的動作」をあらわす動作動詞の出現頻度が当然ながら高い。出現頻度およびスコア順上位 30 語で「積極性」をあらわす動詞は、松下の 14 語（「行なう、説く、なす、心がける、得る、用いる、戦う、いける、できる、与える、進む、立つ、とる、使う、出る」）に対してウェルチは 8 語（「与える、くれる、できる、信じる、続ける、かける、出す」）と松下のほうがウェルチに比べて多く、松下は積極的なリーダーであることが示唆される。

さらに、出現頻度およびスコア順上位 30 語で見ると、松下では心理動詞（「思う、考える、知る」）は 3 語だけなのに対して、ウェルチでは「考える、信じる、思う、感じる、知る」と若干数が多い。一方で、これらの語のスコア合計から見ると松下(105.09)、

ウェルチ(18.6)となる。また、ウェルチの場合は授与動詞「与える、くれる」が出現頻度合計で 157、スコア合計は 37.4 と上位 30 語の中でも際立って高い。⁽⁸⁰⁾

5章 結論

第4章までの分析結果は下記を示唆している。(1)松下は最初に詳細な指示や命令を与えるよりも、まず本人(=部下)自身に考えさせて、自主的な行動を促そうとする姿勢がある。これは心理動詞の「思う、考える、知る」の出現頻度とスコア順位上位30語中の3語に過ぎないことから示唆される。(2)松下は企業では人が生命線であり、人を育てることこそが企業の真の社会的使命であるという強い意識がある。「企業は社会の公器である」という彼の発言はまさにその意識を代表発言の例である。(4)松下リーダーシップの特徴は世間が松下にもつ「静」のイメージとは異なり、その使用動詞から積極的なリーダーシップを発揮したことがわかる。「好評価」形容詞が形容詞全体に占める割合は松下とウェルチもほぼ同じではあるが、松下では同じ形容詞が多く反復されている。また、人を褒めて育てる松下イズムを浸透させていることもその使用語彙から明らかになった。

一方のウェルチは、(1)「称賛、新鮮さ、楽しさ、速やかさ」を重要視している。出現頻度の高い形容詞「すばらしい、新しい、楽しい、よい、早い」はそれを裏付けている。(2)ウェルチは自身がリーダーであることを強く意識しながら、リーダーは部下に仕事を与えて、その目標を達成させるべきだと考えている。さらにウェルチは独創的で斬新なアイデア、優れた貢献、速やかな行動、人物には称賛や励ましを惜しまない成果主義をとっていることが授与動詞「与える、くれる」の使用頻度の高さから示唆される。

(3)ウェルチリーダーシップには彼の母親譲りの性格と姿勢が使用動詞に強く反映されている。また、松下と比べて多彩な形容詞を駆使して人を強く「説得」したり、「鍛錬」する姿勢が特徴的である。

本論文の目的は日米の2人のリーダーの発した言葉そのものからリーダーシップを

言語学的に考察すること、すなわち2人のリーダーのリーダーシップを具体的に数値化して考察することである。テキスト・マイニングを行い、TF-IDF値（スコア値）による比較を行った。共起ネットワーク図などを用いて、視覚的にも比較を行った。その結果、松下幸之助、ジャック・ウェルチのリーダーシップには違いがあることが検証できた。すなわち、本論文では、言語学観点から日米2人のリーダーのリーダーシップを考察した結果、『文化がリーダーシップスタイルを育み、文化によりリーダーシップスタイルは異なる』との結論に達した。

くりかえすが、本論文では「良いリーダーシップ」を「まず、リーダーが志(aspiration)、それもリーダーの地位にふさわしい非常に高潔な精神を有すること。つぎに、「正義感」の土台となる哲学(philosophy)、原則(principle)があること。くわえて、倫理観(ethics)と使命感(commitment)があること」と定義した。これらのリーダーシップを構成する諸要素は普遍的、必要条件ではあって、十分条件ではない。

「商売は公の仕事（＝公器）」だとする松下流のリーダーシップが個人主義の強いアメリカで理解され、受け入れられるかは疑問である。一方、ウェルチ流のリーダーシップが日本で受け入れられるのかも疑わしい。急速なグローバル化の時代にあって国や地域の文化、実情を考慮したリーダーシップ研究の重要性は認識されつつあるものの、その緒に就いたばかりであり、今後の研究と議論を要する。

あとがき

筆者はリーダーシップの優劣を論じるつもりはないが、ウェルチが 1981 年から 20 年間率いた GE と現在の GE を比較すれば、かつて製造業の雄であった GE の現状には言葉がない。ウェルチが行なった大規模な人員削減と金融事業への進出によって、業績は急回復して GE は復活した。その反面、各部門でナンバーワンまたはナンバーツーの事業だけを残した人員削減によって技術者たちは離職、流出した。これにより GE は製造業から金融機関に変貌した。

ウェルチの後任のジェフ・イメルトはウェルチが敷いた路線を継承したが、GE の株価は低迷した。さらに、2017 年にイメルト後の CEO に選ばれたジョン・フラナリーは、11 月 13 日の投資家向け説明会で、航空、医療機器、電力の各中核事業の無駄の排除に取り組むと明言した。つまり、大規模な事業分離・売却が進むことで、GE の多様な事業を束ねる経営と企業文化が失われることになるかもしれない。無駄を排除して、資本を効率的に優先事項に配分すれば、買収した事業の立て直しと売却益を得るという投資ファンド型経営は避けがたくなろう。先ほど、ウェルチのようなナルシスト・リーダーが「一定期間」成功を収めたといったのには、こうした理由がある。GE にとってウェルチは救世主でもあり、禍根の元凶ともいえよう。⁽⁸¹⁾

ウェルチのようなアメリカ流リーダーシップがアメリカ以外で成功するかどうかについては疑わしい。文化によって「行為」に対する考え方は大きく異なる。

「欧米人にとって「行為」するのは自分である。東洋人にとって「行為」は他者との協力、あるいはいろいろな力が働く「場」のなかで自分が作用した結果なのである」とニスベットのいう。⁽⁸²⁾

松下をはじめ多くのリーダーがその成功の理由を尋ねられると、「運がよかったから」

とよく答えるのは、迂闊な返答で妬み、やっかみなどを生まないための配慮というよりもむしろ、多くの力が作用した結果、自分に有利に働いて成功するという発想を東洋文化のなかで生活することで身につけているからと考えられる。徳川家康は太平の世を開いた偉人だが、あまり人気はないと聞く。その理由は彼が「目的のためには手段を選ばずに成功を取めたこと」にあらう。

「正義はわれにある」という考え方をアジアでは歓迎しない。アジアでは物事の真実は両方があると仮定して、これを「中庸」とよぶ。英語では compromise になるが、欧米、とりわけアメリカのように「勝者と敗者」のように明確な色分けをする文化、とりわけビジネスでは compromise は忌避される。ビジネスパーソンはあえて happy medium という表現を使うという。「複雑さ」、「混沌」、「中間」の存在が文化の根底にあるアジアと「単純さ」を根底にした欧米、とくにアメリカではリーダーシップのスタイルの中身が異なるのは当然といえる。

リーダーシップの問題は、最終的には「人づくり」、「人を育てる」という問題に行き着く。特性理論が唱える「天賦の才」の持ち主だけがリーダーになれるというのでは、教育はリーダーシップに何等の貢献をできないことになり、人間の経験、知識、努力の積み重ねも無駄に終りかねない。また、これまでリーダーの育成・教育は多種多様な組織で行われてきたが、その成果の検証は十分に行われてきたのだろうか。またその効果は一過性にすぎず、持続性はあるのだろうか。

「やって見せて、言って聞かせて、やらせて見て、ほめてやらねば、人は動かず。」

「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」は山本五十六の名言である。われわれは、組織のメンバーを「人材」と呼び、経営者は人材育成の重要性を口にするが、実際には

組織内の人間を便利な道具・材料という意味の「人材」として扱い、「人財」とは考えていないケースが少なくないように思える。

ナポレオンの名言「リーダーとは希望を配る人である(A leader is a dealer in hope)」はまさに至言である。リーダーの進む背中を見ながらメンバーは信頼してついて行けるのである。ちなみに、英語の president の原義は「前に座る人」、メンバーに背中を見せて座る人である。したがって、リーダーは人々が自分にしがっているかに気づきにくいけれども、人々は常にリーダーの一挙手一投足に注目している。

人の成長速度には大きな個人差があるのと同様に、リーダー育成は一朝一夕にはできないだけでなく、人を見て適切な育成方法を考え、選択するべきである。

リーダー教育は社会人になり、はじめて組織参加してからでは遅いであろう。学校教育、遅くとも大学初年度から「問題発見・問題解決型」授業を導入する必要があるだろう。そのなかで、問題の発見と解決にはどのような知識と方法が必要か、どの点が自分に不足しているかを認識させるべきではないか。これは単なる事実、法則、ルールの詰め込み教育よりもはるかに重要なだけでなく、学生にとっても刺激的で教育の効果を実感できるのではなかろうか。筆者自身の授業でも知識、スキルの継承とともに、「問題発見・問題解決型」授業をこれからも続けていきたいと考えている。

謝辞

最後に、本稿執筆にあたっては多くの方々の御教示と激励を賜りました。とりわけ、経営学、リーダーシップ論の門外漢である私に、多くの貴重な時間を割いて助言と指導、励ましを下さった矢作恒雄先生にはお礼の申し上げようもありません。(株)日立システムズの藤井宏豊専務(のち、日立建機執行役員専務)、矢野敦子 CSR 本部コーポレート・コミュニケーション部部长、森田豊久研究開発本部事業開発センター主管研究員にもご協力をお願いいたしました。とくに森田氏にはご多忙の日々にもかかわらず、データ・マイニングの手法、分析についてお力をお借りいたしました。心からお礼申し上げます。また、同じ階に研究室があった荒木直秀先生(故人)にもしばしば有益なヒントを頂戴いたしました。心よりご冥福をお祈りいたします。高柳秀史先生からも数学の素養のない私に何度も粘り強くお力を借していただいたことも決して忘れられません。この場をお借りして幾重にも感謝申し上げます。

また、名前は失礼させていただきますが、私を陰ながら見守り、背中を押して下さった諸先生方、諸先輩方にも心から感謝を申し上げます。こうした方々の励ましもあってはじめて本論文を執筆することができました。最後になりましたが、長い間にわたって有形無形の我慢と協力をしてくれた家族一同に詫びとともに感謝の気持ちを付記します。

註

- (1) ドラッカー, P. F. (1995) 『[新訳] 経営者の条件』 上田惇生訳 ダイヤモンド社 p.9
- (2) Tylor, E. B. (1871) *Primitive Culture: Researches into the Development of Mythology, Philosophy, Religion, Art, and Custom*, Volume 1, London, John Murray, p.1
- (3) 岡村道雄 (2008) 『縄文の生活誌』 講談社 p.31, p.47, pp.52-53, pp.79-80
- (4) 岡村道雄 (2008) 『縄文の生活誌』 講談社 pp.190-191
- (5) 岡村道雄 (2008) 『縄文の生活誌』 講談社 pp.192-194
- (6) マキャヴェリ, N. (2001) 『君主論』 池田籔訳 中央公論新社 p.126, p.170
- (7) ドラッカー, P. F. (1992) 『未来企業』 上田惇生, 佐々木実智男, 田代正美訳 ダイヤモンド社 pp.120-121, p.146
- (8) Weber, M. (1947) *Theory of Social and Economic Organization* translated by Henderson, A. M. and Parsons, T., The Free Press of Glencoe Collier-Macmillan Limited, pp.358-359
スヴェードボリ, R. (2004) 『マックス・ウェーバー 一経済と社会一』 泉田渡, 柳沢幸治訳 文化書房博文社 p.86
- (9) Zaccaro, S. J. (2007) "Trait-Based Perspectives of Leadership" *American Psychologist*, Vol. 62, No. 1, p.7
- (10) Stodgill, R. M. (1948) "Personal Factors Associated with Leadership: A Survey of the Literature" *The Journal of Psychology*, Vol.25, No.1, pp.35-71
- (11) 伊藤肇 (1980) 『人間的魅力の研究』 日本経済新聞社
- (12) 保立道久訳注 (2018) 『老子』 筑摩書房 p.78

- (13) コリンズ, J. (2010) 『ビジョナリーカンパニー3 衰退の五段階』 日経 BP 社 p.52, pp.151-152, p.284
- (14) 吉川幸次郎 (1965) 『論語』 (上)』 新訂中国古典選2 朝日新聞社 p.54, pp.42-43, pp.327-328, pp.41-42
- (15) 町田三郎訳注 (1992) 『韓非子』 上・下 中央公論社
金谷治訳注 (1963) 『孫子』 岩波書店
守屋淳 (2015) 『孫子・戦略・クラウゼヴィッツ その活用方程式』 日本経済新聞出版社
- (16) マキアヴェリ, N. (2001) 『マキアヴェリ 君主論』 池田簾訳 中央公論新社
塩野七生 (1992) 『マキアヴェリ語録』 新潮社
クラウゼヴィッツ, C. (1966) 『戦争論』 上・下 清水多吉訳 現代思潮社
野中郁次郎編著 (2013) 『戦略論の名著 孫子、マキャヴェリから現代まで』 中央公論新社
- (17) 塩野七生 (1992) は特性理論の立場から、つぎのように述べる。
「リーダーの素質とは、所詮もって生れた天性のものによるのではないだろうか。だから、いくら条理を説いて教えても、所詮は、学べる性質のものではないのではないだろうか。」 (『マキアヴェリ語録』) 新潮社 pp.147-148
- (18) 1940 年代後半から 1950 年代には複数のリーダーシップ行動理論が発表された。
たとえば、アメリカのオハイオ州立大学の C. シャートルらがリーダーの行動を記述するための質問票を使った調査とインタビューから、リーダー行動の総項目数 1700 の半数以上が確実な成果を達成するための構造作り (Initiating structure) と部下との良好な人間関係作りのための配慮 (Consideration) に集約できるとした、

いわゆるオハイオ研究がある。

さらに、アイオワ州立大学の K. レヴィンが実験に基づいて、リーダーシップを専制型・放任型・民主型に分類して、民主型リーダーシップが最も有効だとしたアイオワ研究もある。

また、ミシガン大学の R. リッカートはリーダーシップに関わる管理システムを、権威主義・専制型、温情・専制型、参画協調型、民主主義型に分類した。このうちで、民主主義型を採用する組織の業績が最も高いとした。

また、遅ればせながら 1966 年には社会心理学者、三隅二不二が後述する PM 理論を提唱した。

(19) 三隅二不二 (1986) 『リーダーシップの科学—指導力の科学的診断法』 講談社ブルーバックス p.50

(20) 行動理論では観察可能なデータだけを扱い、外部から観察不能とされた人間の内面を見つめ直す「内省(introspection)」はブラックボックスであり、信念や性格などの「心」の問題は客観的に観察ができないとして研究対象から除外した。

(21) Fiedler, F. E. (1964) "A contingency model of leadership effectiveness", *Advances in experimental social psychology*, Vol.1, pp.149-190

リーダーシップは、リーダーの資質ではなくて、状況に応じてそのリーダーシップを変える必要があるとして、3つの状況変数（集団との関係、課題の明確さ、権限の強さ）を掛け合わせて、リーダーにとって有利な状況から不利な状況までを整理した。3つの変数の値が高ければ高いほどリーダーシップを発揮しやすい状況になる。

(22) コッター, J. P. (2012) 『人と組織を動かす能力 リーダーシップ論』 (第2版)

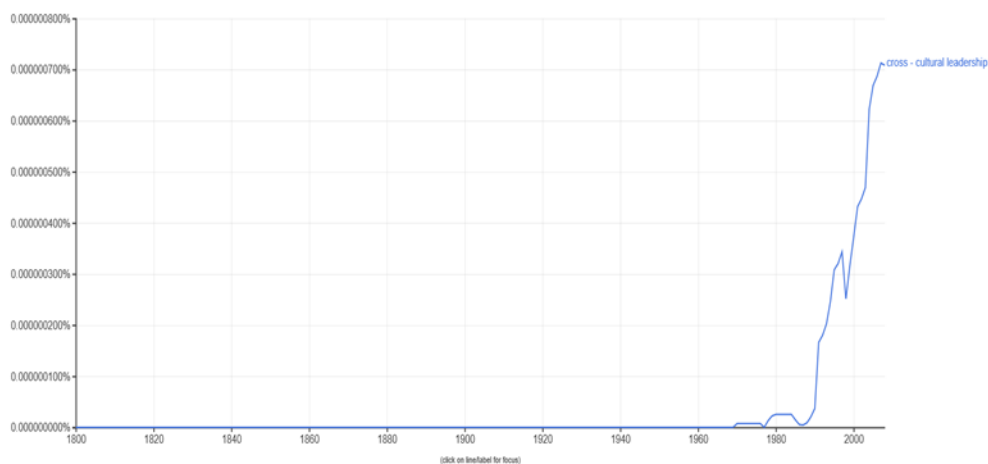
ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー編集部訳 ダイヤモンド社

- (23) コッター, J. P. (2012) 『人と組織を動かす能力 リーダーシップ論』(第2版)
ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー編集部訳 ダイヤモンド社 pp.43-74
- (24) 矢作恒雄 (2014) 『日本の再設計を先導するリーダーの育成』 日本経済調査協議
会 p.17
- (25) コッター, J. P. (2012) 『人と組織を動かす能力 リーダーシップ論』(第2版)
ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー編集部訳 ダイヤモンド社 pp.46-47
- (26) コッター, J. P. (2012) 『人と組織を動かす能力 リーダーシップ論』(第2版) ダ
イヤモンドハーバードビジネスレビュー編集部訳 ダイヤモンド社 p.43
- (27) ゴールマン, D. (1998) 『EQ Emotional Intelligence こころの知能指数』土屋京子
訳 講談社 pp.76-79
- (28) ゴールマン, D. (1998) 『EQ Emotional Intelligence こころの知能指数』土屋京子
訳 講談社 p.70
- (29) ゴールマン, D., ボヤツィス, R., マッキー, A. (2002) 『EQ リーダーシップ 成功
する人の「こころの知能指数」の活かし方』土屋京子訳 日本経済新聞社 pp.34
-119
- (30) 名和修(2001)『本田宗一郎 夢を力に』 日本経済新聞社 pp156-157
「本田と藤澤の関係は、文字通り「クルマの両輪」である。かたや、モノづくりに没頭する破天荒な激情家。かたや、事業の修羅場を経験した商売人。江戸っ子で多趣味、人間通の藤澤は、視野が広くバランス感覚に優れ、調整能力にたけていた。藤澤のもとで販売を担当、アメリカ市場を開拓した川島喜八郎(元副社長)は、「本田が千両役者なら、藤澤は名演出家だった。舞台装置を整え、シナリオを

書き、本田という千両役者を踊りまくらせた」と二人の関係を芝居に喩えた。社長は本田、経営者は藤澤。強烈なパーソナリティがコンビを組んだことで、「ホンダ」という企業が発展した。』、と日本経済新聞社編集委員（発刊当時）の名和修は本田と藤沢の 25 年間に及ぶパートナーシップが本田技研工業の発展の理由を述べる。

- (31) 東俊之(2005) 「変革型リーダーシップ論の問題点：新たな組織変革行動論へ向けて」 『京都マネジメント・レビュー』 第8号 京都産業大学マネジメント研究会刊 pp.140-141

(32)



‘cross-cultural leadership’ (Google Ngram Viewer による)

Google Ngram Viewer は Google がもつ 1500 年から 2008 年までに出版された書籍を電子データ化して、キーワードをグラフ化して調べることができるツールである。これによってどのような言葉が各時代で頻繁に使用されたかがわかる。

- (33) ゴールマン, D. (1998) 『EQ Emotional Intelligence こころの知能指数』 土屋京子 訳 講談社 p.79, p.87

- (34) 矢作恒雄 (2014) 『日本の再設計を先導するリーダーの育成』 日本経済調査協
議会 p.20
- (35) マキアヴェリ, N. 『マキアヴェリ 君主論』池田簾訳 中央公論新社 pp.133-137
ドラッカー, P.F. (1992) 『未来企業』 上田淳生, 佐々木実智男, 田代正美訳 ダイ
ヤモンド社 p.146
ドラッカー, P.F. (2004) 『新しい現実』上田淳生訳 ダイヤモンド社 pp.119-121
また、ドラッカー, P.F. (2004) 『新しい現実』上田淳生訳 ダイヤモンド社
pp.119-121 を参考にして、本論文では「カリスマ」とは「実体のない、傲慢さをもつ
特異な人物」と定義する。
- (36) 矢作恒雄 (2014) 『日本の再設計を先導するリーダーの育成』 日本経済調査協
議会 p.17 を参考にした。
- (37) 矢作恒雄 (2014) 『日本の再設計を先導するリーダーの育成』 日本経済調査協
議会 p.17 を参考にした。
- (38) Tylor, E. B. (1871) *Primitive Culture: Researches into the Development of
Mythology, Philosophy, Religion, Art, and Custom*, Volume I, London, John
Murray, p.1
- (39) Masuda, T., Mesquita, B., Tanida, S., Ellsworth, P. C., Leu, J. and Veerdonk, E.V.
(2008) “Placing the Face in Context: Cultural Differences in the Perception of
Facial Emotion”, *Journal of Personality and Social Psychology*, Vol.94, No.3,
pp.365-381
- (40) Nisbett, R. E. (2003) *The Geography of Thought: How Asians and Westerners
Think Differently... And Why*, The Free Press, Introduction, p.xvii

- (41) Nisbett, R. E. (2003) *The Geography of Thought: How Asians and Westerners Think Differently... And Why*, The Free Press, p.208
- (42) ホフステード, G. (1995) 『多文化世界』一違いを学び共存への道を探る 岩井紀子, 岩井八郎訳 有斐閣 p.27
- (43) ホフステード, G. (1995) 『多文化世界』一違いを学び共存への道を探る 岩井紀子, 岩井八郎訳 有斐閣 p.27
- (44) ホフステード, G. (1995) 『多文化世界』一違いを学び共存への道を探る 岩井紀子, 岩井八郎訳 有斐閣 p.27
- (45) ホフステード, G. (1995) 『多文化世界』一違いを学び共存への道を探る 岩井紀子, 岩井八郎訳 有斐閣 p.7の「たまねぎ型モデル」の図を参考にして高畑が作成した。
- (46) バーナード, C. (1956) 『経営者の役割』山本安次郎, 田杉競, 飯野春樹訳 経営名著シリーズ2 ダイヤモンド社 p.5, p.85を参考
- (47) バーナード, C. (1956) 『経営者の役割』山本安次郎, 田杉競, 飯野春樹訳 経営名著シリーズ2 ダイヤモンド社
金井壽宏 (1999) 『経営組織』日本経済新聞社 pp.17-18
- (48) バーナード, C. (1956) 『経営者の役割』山本安次郎, 田杉競, 飯野春樹訳 経営名著シリーズ2 ダイヤモンド社 p.85
- (49) ドラッカー, P. F. (2001) 『マネジメント[エッセンシャル版] 基本と原則』上田淳生訳 ダイヤモンド社 まえがき vii-viii
- (50) 高坂正堯 (2012) 『文明が衰亡するとき』新潮社 p.95-174
- (51) Hersey, P. and Blanchard, K. H. (1977) *Management of Organizational Behavior:*

utilizing human resources, 3rd edition, New Jersey, Prentice Hall

- (52) L., Bloomfield(1926) “A set of postulates for the science of language” *Language* 2
p.156
- (53) Marchand, H. (1969) *The Categories and Types of Present-Day English Word-Formation* 2nd, completely revised and enlarged edition, Verlag C.H. Beck, Munchen, p.1 「(語) は文中で移動することがありえる最小にして、自立し、意味を持つ言語単位」という定義に本論はしたがう。
- (54) 「意味」の定義については池上 (1975) に負うところが大きい。
- (55) 貫成人(1998)「意味 1.西洋」廣松・子安・三島・宮本・佐々木・野家・末木編『岩波 哲学・思想事典』岩波書店 pp.96-97
- (56) 「言語記号が結ぶのは、ものと名前ではなくて、概念と聴覚映像である」
F.Saussure(1916) *Cours de Linguistique Generale* 小林英夫訳『一般言語学講義』岩波書店 p.96
- (57) Ogden C. and Richards I.(1923) *The Meaning of Meaning* Routledge & Kegan Paul p.11
- (58) 本論文でいう「条件反射」とは刺激に対する先天的な反応ではなく、経験などによって後天的に獲得された行動、たとえば、梅干を見ると唾液が出るような反射行動を指す。
- (59) 『世界大百科事典第2版』 平凡社
- (60) 新村 出編((1998) 広辞苑 第五版 岩波書店
- (61) Bassnett, S. (2002) *Translation Studies*, Routledge, London, pp.30-36

(62) 中野研一郎 (2017) 『認知言語類型論原理：「主体化」と「客体化」の認知メカニズム』 京都大学学術出版会

(63) 池上嘉彦 (2000) 『「日本語論」への招待』 講談社 p.239-310

本論文で言う認知とは、「意味の創出や理解に関わる心の働き」を指す。池上嘉彦 (2000) 『「日本語論」への招待』 講談社 p.3

認知言語類型論では人間の心の働きの柔軟性から、個別言語は有限個の選択肢のどれかを選択することで言語のあり方が決まってくるとする。したがって、言語間の違いは一定範囲内での〈ゆらぎ〉として捉えている。同書 p.4

また、M. Baker (1992)は5つの次元での「等価」概念を提示しながら、「(等価とは)さまざまな言語的・文化的要因によって影響され、ゆえに常に相対的である」として社会的要因を考慮する重要性を唱える。M. Baker は5つの等価概念（語レベル、フレーズレベル、文法レベル、テキストレベル、語用論レベル）を提示する。

Baker, M. (1992) *In other words*, London, Routledge

中村芳久 (2004) 『認知文法論II』 大修館書店

(64) 松下幸之助 (2006) 『指導者の条件』 PHP 研究所

松下幸之助 (1993) 『松下幸之助経営者語録』 PHP 研究所

ウェルチ, J., バーン, J. A. (2001) 『ジャック・ウェルチ わが経営 (上)・(下)』 宮本喜一訳 日本経済新聞社

(65) Jespersen, O. (1909-1949) *A Modern English Grammar on Historical Principles*, 7vols., George Allen & Unwin, London

Curme, G. O. (1931) *A Grammar of the English Language*, Boston, Heath

Poutsma, H. (1856-1937) *A Grammar of Late Modern English*, P. Noordhoff, Groningen

- (66) 電子化された言語データをラテン語で「身体」を意味する corpus に由来する英語でコーパス(corpus)とよぶ。

Leech, G (1991) “The State of the Art in Corpus Linguistics” in Aijmer, K. and Altenberg, B. (eds.) *English Corpus Linguistics: Studies in Honour of Jan Svartvik*, pp.8-29, London, Longman

- (67) 松本友哉, 砂山渡, 畑中裕司, 小郷原一智 (2017) 『データマイニングとテキストマイニングの連携によるデータ分析支援』 人工知能学会 インタラクティブ情報アクセスと可視化マイニング研究会(第 15 回) SIG-AM-15-03, pp.1-6

- (68) MeCab は、京都大学情報学研究科－日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所 共同研究ユニットプロジェクトを通じて開発されたオープンソース形態素解析エンジンで、奈良先端科学技術大学院大学出身、現 Google ソフトウェアエンジニアで Google 日本語入力開発者の一人である工藤拓が開発した。その名称は工藤の好物「和布蕪（めかぶ）」に由来する。開発開始当初は ChaSen を基にし、ChaSenTNG という名前で開発されていたが、現在は ChaSen とは独立に開発されている。ChaSen に比べて解析精度は同程度だが、解析速度は平均 3-4 倍速いともいわれ、品詞情報を利用した解析・推定を行うことができる。MeCab で利用できる辞書はいくつかあるが、ChaSen と同様に IPA 品詞体系で構築された IPADIC が一般的に用いられている。また、MeCab は Google が公開した大規模日本語 n-gram データの作成にも使用された。

- (69) 同ソフト(販売終了)の文字認識率は 99%である。

(70)

<https://drive.google.com/drive/folders/0B4y35FiV1wh7fjQ5SkJETEJEYzlqcUY4WUlpZmR4dDIJMWI5ZUIXN2xZN2s2b0pqT3hMbTQ>

(71) 日本語の形容動詞は意味的には形容詞に近く、活用は動詞に近い存在である。外国人を対象にした日本語教育では形容詞に含めているの通例である。本稿では語彙の意味を重視する立場から形容詞に分類した。ちなみに、形容動詞のように形容詞と動詞の性質を併せ持つ英語品詞に分詞(participle)がある。

(72) 「なぜ幸之助が他の企業よりはるか以前にこの組織構造（＝事業部制、高畑註）を取り入れたのかという問いに対して、彼をよく知っている人は、同じような返答をする傾向にある、すなわち、彼が病弱だったからである、と。」（ジョン・P・コッター、金井壽宏監訳（2008）『幸之助論 ―「経営の神様」松下幸之助の物語』ダイヤモンド社 pp.148-149）

(73) 国立国語研究所編（2004）『分類語彙表』増補改訂版 大日本図書

(74) ウェルチ, J., バーン, J. A. (2001) 『ジャック・ウェルチ わが経営（上）』宮本喜一訳 日本経済新聞社 pp.25-26

(75) マコビー, M. (2004) 『なぜ、イヤなやつほど出世するのか―ナルシストがビジネスを支配する』土屋京子訳 講談社 p.81

(76) マコビー, M. (2004) 『なぜ、イヤなやつほど出世するのか―ナルシストがビジネスを支配する』土屋京子訳 講談社 p.22

(77) マコビー, M. (2004) 『なぜ、イヤなやつほど出世するのか―ナルシストがビジネスを支配する』土屋京子訳 講談社 p.122

(78) 「積極性・活発さ」をあらわす日本語動詞とその類語については、遠藤織枝、小林

賢次、三井昭子、村木新次郎、吉沢靖編 (2003)『使い方のわかる類語例解辞典 新装版』(小学館)を参考にした。

- (79) スコア一覧表から形容詞と動詞の出現頻度比較表まで(図表4-6から図表4-13)の作成では UserLocal 社のテキスト・マイニング・ツールを使用した。なお、残念ながら同社は、idf 値の計算等の詳細は明らかにしていない。同社のサイトの URL は <https://textmining1.userlocal.jp/> である。

UserLocal 社は人工知能、ビッグデータ分析に特化したベンチャー企業で、2017年には東証マザーズに上場している。

同サイトを利用した研究例としては、松本友哉 砂山渡 畑中裕司 小郷原一智 (2017)「データマイニングとテキストマイニングの連携によるデータ分析支援」人工知能学会 インタラクティブ 情報アクセスと可視化マイニング研究会(第15回) 滋賀県立大学 工学部がある。また、同社のツールは集英社、三越伊勢丹などの大手企業のほか、地方自治体でも採用されている。

- (80) 吉永尚 (1998)「心理動詞の意味特性による分類と人称性」『園田学園日本語日本文学懇話会 (19)』pp.101-111 で、吉永は心理動詞を①感情、②知覚、感覚(感情、知覚、感覚、思考の3つ)とし、さらに、①感情心理動詞、②知覚・感覚的心理動詞、③思考的心理動詞に下位分類する。

- (81) Gapper, J. (2017) "Flannery's General Electric may not hold together long", *The Financial Times*, 2017.11.16

- (82) Nisbett, R. E. (2003) *The Geography of Thought: How Asians and Westerners Think Differently... And Why*, The Free Press, p.158

参考文献

1. Aijmer, K. and Altenberg, B. (eds.) (1991) *English Corpus Linguistics: Studies in Honour of Jan Svartvik*, London, Longman
2. Baker, M. (1992) *In other words*, London, Routledge
3. Barnard, C. (1956) 『経営者の役割』山本安次郎, 田杉競, 飯野春樹訳 経営名著シリーズ 2 ダイヤモンド社
4. Bassnett, S. (2002) *Translation Studies*, London, Routledge
5. Bu, N., Craig, T. J. and Peng, T.K. (2001) “Acceptance of Supervisory Direction in Typical Workplace Situations: A Comparison of US, Taiwanese and PRC Employees”, *International Journal of Cross Cultural Management*, Vol.1, No.2, pp.131-152
6. Clausewitz, C. (1966) 『戦争論』上・下 清水多吉訳 現代思潮社
7. Collins, J. (2010) 『ビジョナリーカンパニー3 衰退の五段階』日経 BP 社
8. Curme, G. O. (1931) *A Grammar of the English Language*, Boston, Heath
9. Dorfman, P. W. and Howell, J. P. (1988) “Dimensions of National Culture and Effective Leadership Patterns: Hofstede Revisited”, *Advances in International Comparative Management*, Vol. 3, pp.127-150, JAI Press Inc.
10. Drucker, P.F. (1992) 『未来企業』上田淳生, 佐々木実智男, 田代正美訳 ダイヤモンド社
11. Drucker, P.F. (1995) 『[新訳]経営者の条件』上田淳生訳 ダイヤモンド社
12. Drucker, P.F. (2001) 『マネジメント[エッセンシャル版] 基本と原則』上田淳生訳 ダイヤモンド社

13. Drucker, P.F. (2004) 『新しい現実』 上田淳生訳 ダイヤモンド社
14. 遠藤織枝, 小林賢次, 三井昭子, 村木新次郎, 吉沢靖編 (2003) 『使い方のわかる類語例解辞典 新装版』 小学館
15. Fiedler, F.E. (1964) “A contingency model of leadership effectiveness”, *Advances in experimental social psychology*, Vol.1, pp.149-190, Elsevier
16. Gapper, J. (2017) “Flannery’s General Electric may not hold together long”, *The Financial Times*, 2017.11.16
17. Goleman, D. (1998) 『EQ Emotional Intelligence こころの知能指数』 土屋京子訳 講談社
18. Goleman, D., Boyatzis, R., McKee, A. (2002) 『EQ リーダーシップ 成功する人の「こころの知能指数」の活かし方』 土屋京子訳 日本経済新聞社
19. Hofstede, G. (1995) 『多文化世界』 一違いを学び共存への道を探る 岩井紀子, 岩井八郎訳 有斐閣
20. Hersey, P. and Blanchard, K. H. (1977) *Management of Organizational Behavior: utilizing human resources*, 3rd edition, New Jersey, Prentice Hall
21. Herodotus (1972) 『歴史』 上・中・下 松平千秋訳 岩波書店
22. 保立道久訳注 (2018) 『老子』 筑摩書房
23. 池上嘉彦 (1975) 『意味論 意味構造の分析と記述』 大修館書店
24. 池上嘉彦 (2000) 『「日本語論」への招待』 講談社
25. 伊藤肇 (1980) 『人間的魅力の研究』 日本経済新聞社
26. Jakobson, R. (1959) “On linguistic aspects of translation” in L. Venuti (ed.) (2004) *The translation studies reader*, 2nd edition, London, Routledge

27. Jensen, M.C. and Meckling, W.H. (1976) "Theory of the Firm: Managerial Behavior, Agency Costs and Ownership Structure", *Journal of Financial Economics*, Vol.3, No.4, pp.305-360
28. Jespersen, O. (1909-1949) *A Modern English Grammar on Historical Principles*, 7vols., George Allen & Unwin, London
29. 金井壽宏 (1999) 『経営組織』 日本経済新聞社
30. 金谷治訳注 (1963) 『孫子』 岩波書店
31. 国立国語研究所編 (2004) 『分類語彙表』 増補改訂版 大日本図書
32. Kotter, J. P. (2008) 『幸之助論－「経営の神様」松下幸之助の物語』 金井壽宏監訳 ダイヤモンド社
33. Kotter, J. P. (2012) 『人と組織を動かす能力 リーダーシップ論』 (第2版) ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー編集部訳 ダイヤモンド社
34. 高坂正堯 (2012) 『文明が衰亡するとき』 新潮社
35. Maccoby, M. (2004) 『なぜ、イヤなやつほど出世するのか－ナルシストがビジネスを支配する』 土屋京子訳 講談社
36. Machiavelli, N. (2001) 『マキアヴェリ 君主論』 池田籙訳 中央公論新社
37. 町田三郎訳注 (1992) 『韓非子』 上・下 中央公論社
38. Marchand, H. (1969) *The Categories and Types of Present-Day English Word-Formation* 2nd, completely revised and enlarged edition, Verlag C.H. Beck, Munchen
39. Masuda, T., Mesquita, B., Tanida, S., Ellsworth, P.C., Leu, J. and Veerdonk, E.V. (2008) "Placing the Face in Context: Cultural Differences in the Perception of Facial Emotion", *Journal of Personality and Social Psychology*, Vol.94, No.3, pp.365-381,

American Psychological Association

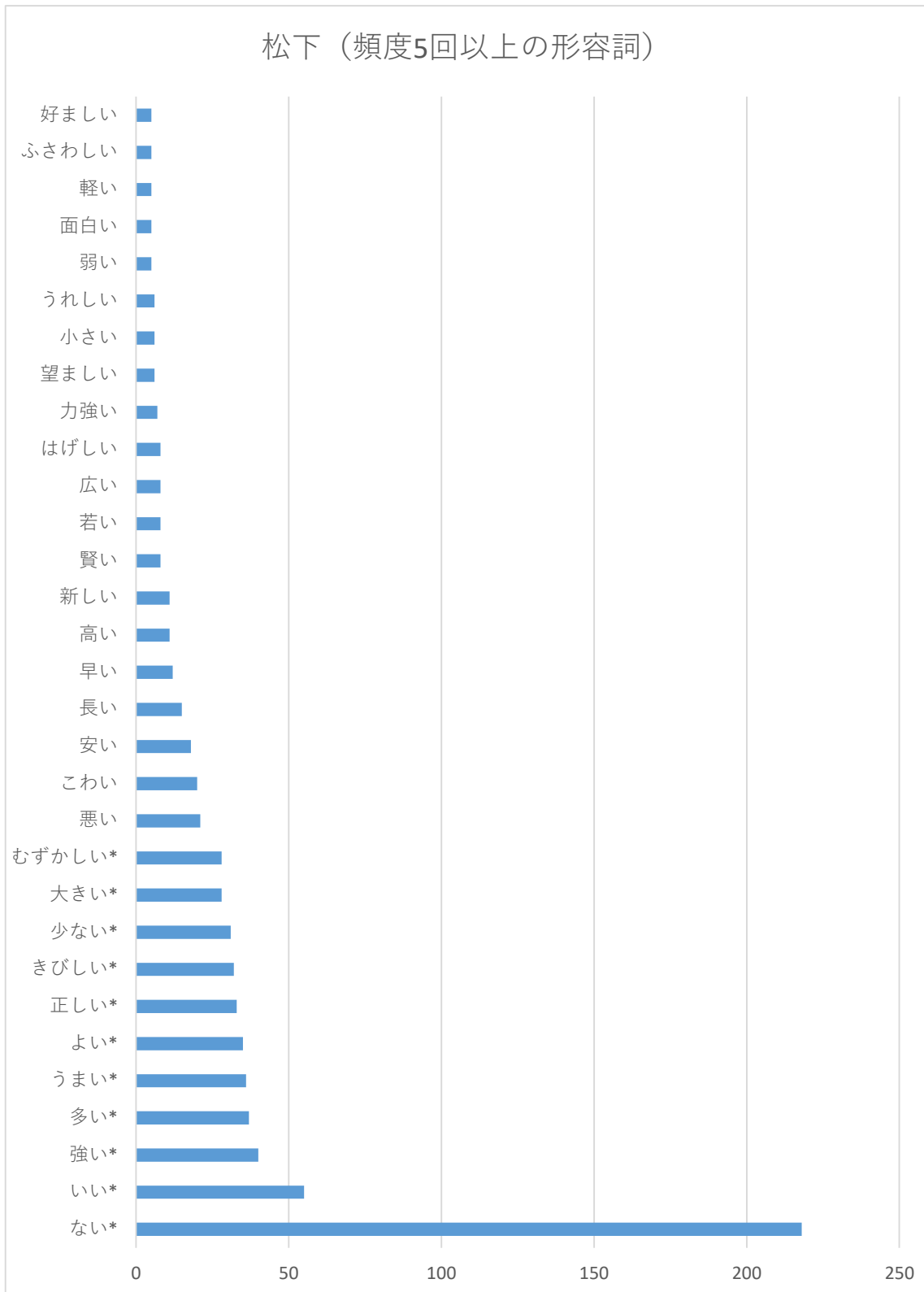
40. 松本友哉, 砂山渡, 畑中祐司, 小郷原一智 (2017) 「データマイニングとテキストマイニングの連携によるデータ分析支援」 人工知能学会 インタラクティブ情報アクセスと可視化マイニング研究会(第 15 回) SIG-AM-15-03, pp.1-6
41. 松下幸之助 (2006) 『指導者の条件』 PHP 研究所
42. 松下幸之助 (2012) 『松下幸之助リーダーの言葉』 PHP 研究所編
43. 松下幸之助 (1993) 『松下幸之助経営者語録』 PHP 研究所
44. 三隅二不二 (1986) 『リーダーシップの科学—指導力の科学的診断法』 講談社ブルーバックス
45. 守屋淳 (2015) 『孫子・戦略・クラウゼヴィッツ その活用の方程式』 日本経済新聞出版社
46. 中川有紀子 (2012) 「ジャック・ウェルチの経営哲学」『経営哲学の授業』 経営哲学学会編 PHP 研究所
47. 中村芳久 (2004) 『認知文法論Ⅱ』 大修館書店
48. 中野研一郎 (2017) 『認知言語類型論原理:「主体化」と「客体化」の認知メカニズム』 京都大学学術出版会
49. 名和修 (2001) 『本田宗一郎 夢を力に』 日本経済新聞社
50. Nisbett, R. E. (2003) *The Geography of Thought: How Asians and Westerners Think Differently ... And Why*, The Free Press
51. 野中郁次郎編著 (2013) 『戦略論の名著 孫子、マキャヴェリから現代まで』 中央公論新社
52. 岡村道雄 (2008) 『縄文の生活誌』 講談社

53. Pascal, R., Athos, A. (1983) 『ジャパニーズマネジメント』 深田祐介訳 講談社
54. Plato (1979) 『国家』 上・下 藤沢令夫訳 岩波書店
55. Poutsma, H. (1914-1929) *A Grammar of Late Modern English*, P. Noordhoff, Groningen
56. Salovey, P. and Mayer J.D. (1990) “Emotional intelligence” *Imagination, Cognition and Personality*, Vol.9, No. 3, pp.185-211
57. 『世界大百科事典 第2版』 平凡社
58. 新村出編 (1998) 『広辞苑 第5版』 岩波書店
59. 塩野七生 (1992) 『マキアヴェッリ語録』 新潮社
60. 孫子 (1963) 『孫子』 金谷治訳注 岩波書店
61. Stodgill, R. M. (1948) “Personal Factors Associated with Leadership: A Survey of the Literature” *The Journal of Psychology*, Vol.25, No.1, pp.35-71
62. Swedberg, R. (2004) 『マックス・ウェーバー ー経済と社会ー』 泉田渡, 柳沢幸治訳 文化書房博文社
63. 寺西重郎 (2018) 『日本型資本主義 その精神の源』 中央公論新社
64. Tylor, E. B. (1871) *Primitive Culture: Researches into the Development of Mythology, Philosophy, Religion, Art, and Custom*, Volume I, London, John Murray
65. Weber, M. (1947) *Theory of Social and Economic Organization* translated by Henderson, A.M. and Parsons, T., The Free Press of Glencoe Collier-Macmillan Limited
66. Welch, J., Byrne, J. A. (2001) 『ジャック・ウェルチ わが経営 (上)・(下)』 宮本喜一訳 日本経済新聞社

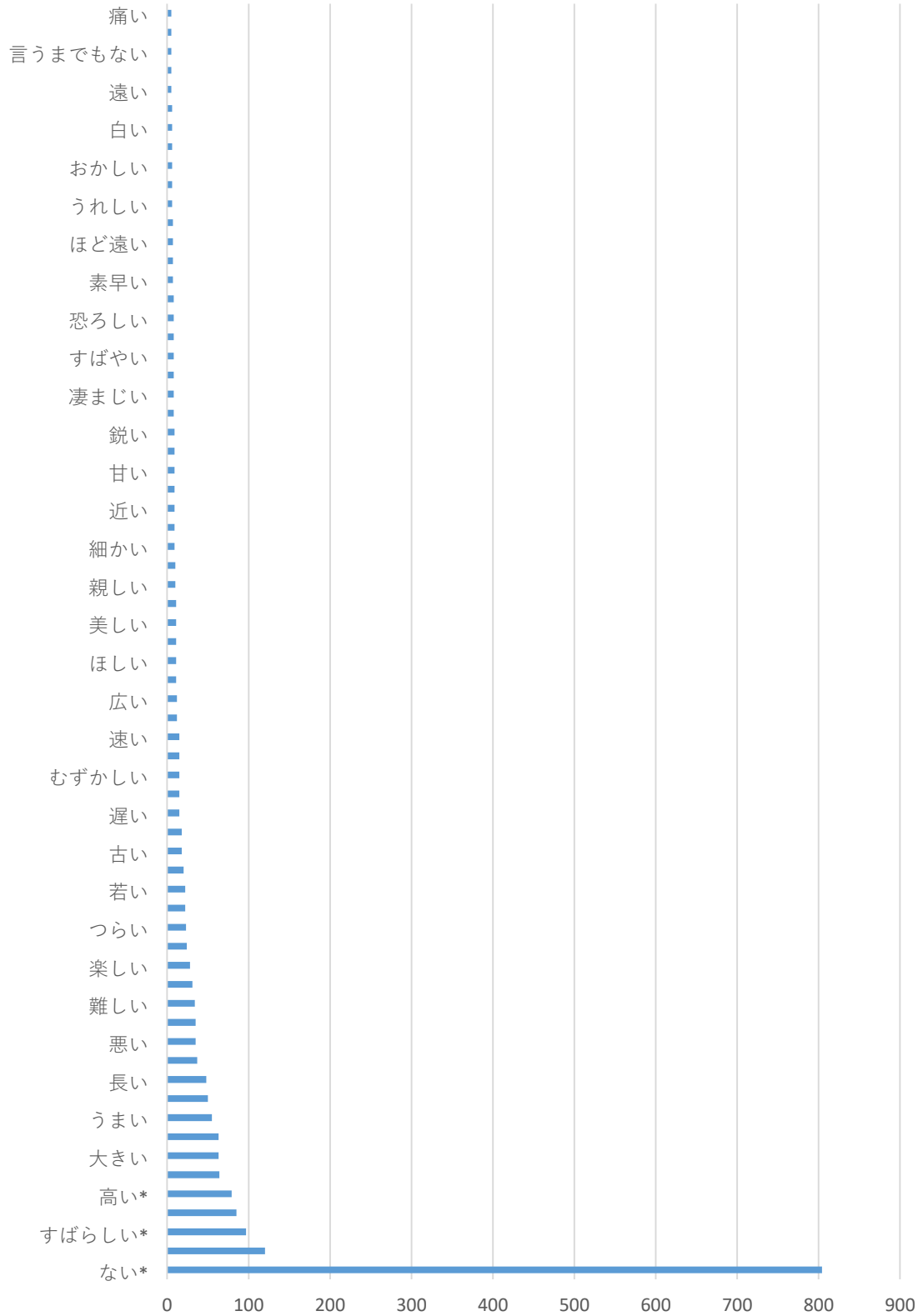
67. 矢作恒雄 (2014) 『日本の再設計を先導するリーダーの育成』 日本経済調査協議会
68. 吉川幸次郎 (1965) 『論語』 (上)』 新訂中国古典選 2 朝日新聞社
69. 吉永尚 (1998) 「心理動詞の意味特性による分類と人称性」 『園田学園日本語日本文学懇話会(19)』
70. Zaccaro, S. J, (2007) “Trait-Based Perspectives of Leadership” *American Psychologist*, Vol. 62, No. 1, pp.6-16

付属資料

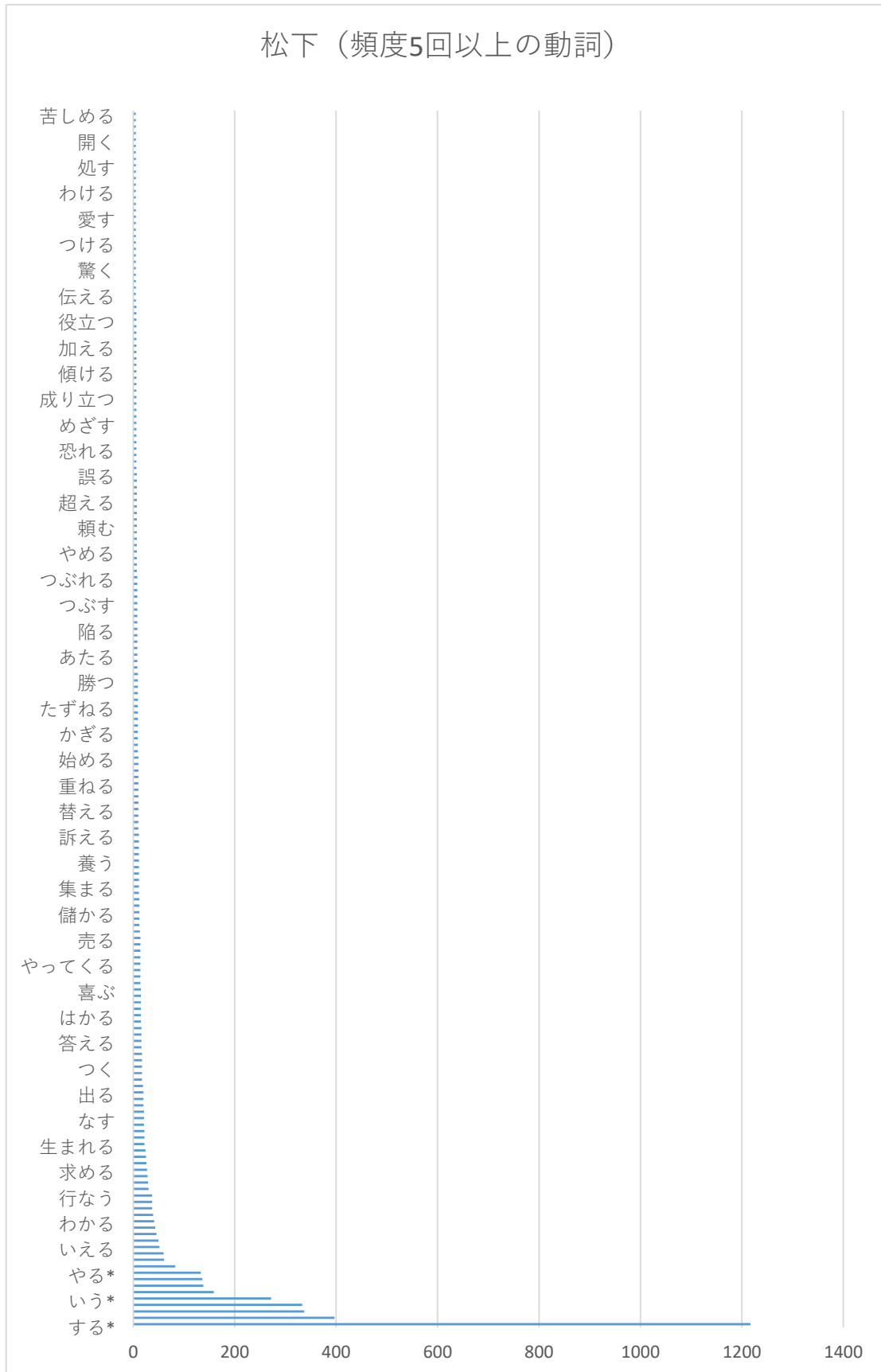
データ：松下とウェルチの形容詞と動詞（出現回数5回以上）グラフ



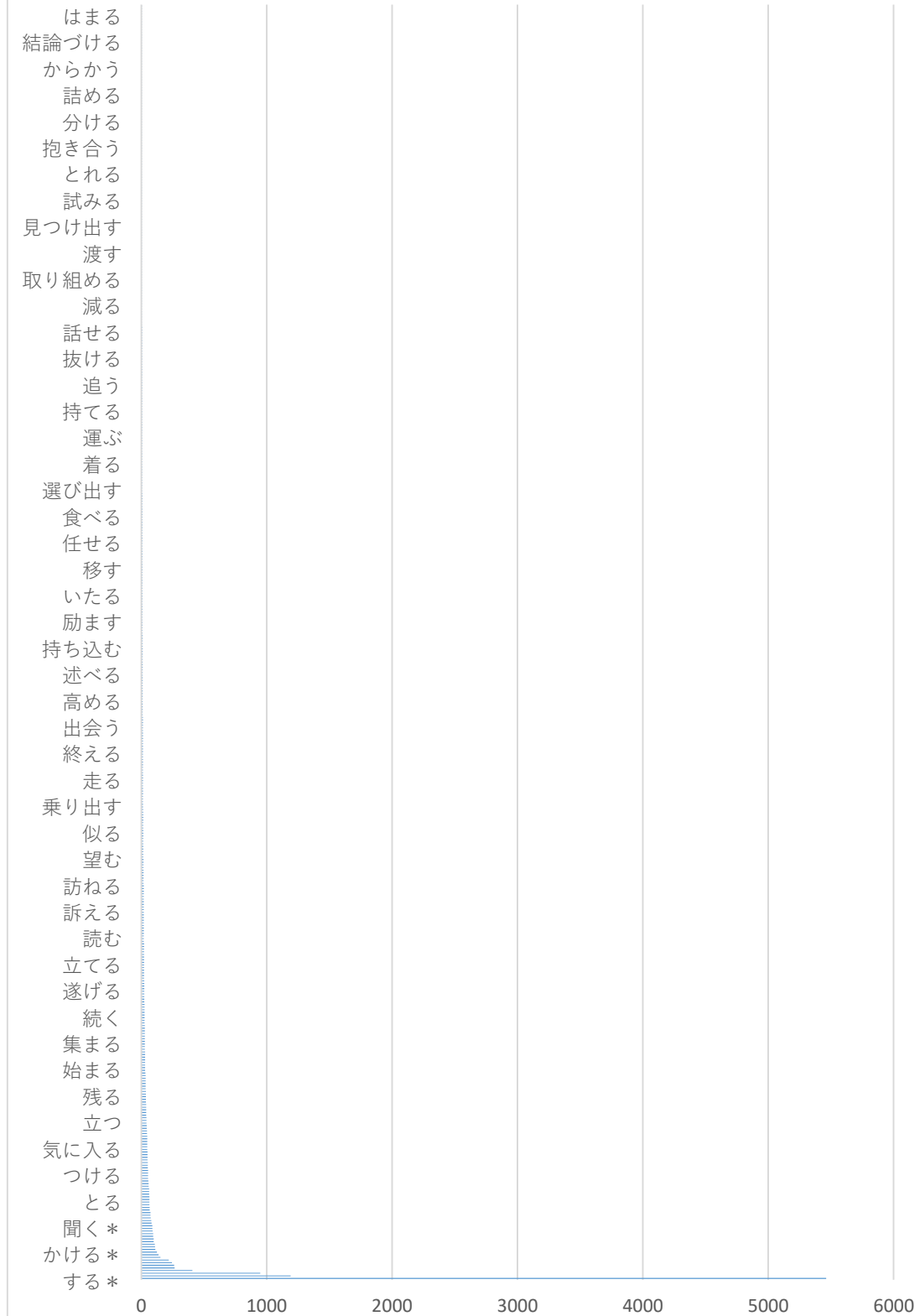
ウェルチ (頻度5回以上の形容詞)



松下（頻度5回以上の動詞）



ウェルチ (5回以上の動詞)



(補足) 主要な形容詞と動詞リスト

松下 (形容詞)

語	品詞	品詞細分類	出現頻度
ない	形容詞	自立	218
いい	形容詞	自立	55
強い	形容詞	自立	40
多い	形容詞	自立	37
うまい	形容詞	自立	36
よい	形容詞	自立	35
正しい	形容詞	自立	33
きびしい	形容詞	自立	32
少ない	形容詞	自立	31
大きい	形容詞	自立	28
むずかしい	形容詞	自立	28
悪い	形容詞	自立	21
こわい	形容詞	自立	20
安い	形容詞	自立	18
長い	形容詞	自立	15
早い	形容詞	自立	12
高い	形容詞	自立	11
新しい	形容詞	自立	11
賢い	形容詞	自立	8
若い	形容詞	自立	8
広い	形容詞	自立	8
はげしい	形容詞	自立	8
力強い	形容詞	自立	7
望ましい	形容詞	自立	6
小さい	形容詞	自立	6
うれしい	形容詞	自立	6
弱い	形容詞	自立	5
面白い	形容詞	自立	5

軽い	形容詞	自立	5
ふさわしい	形容詞	自立	5
好ましい	形容詞	自立	5

松下（動詞）

語	品詞	品詞細分類	出現頻度
する	動詞	自立	1217
ある	動詞	自立	397
なる	動詞	自立	337
思う	動詞	自立	333
いう	動詞	自立	272
考える	動詞	自立	159
できる	動詞	自立	138
持つ	動詞	自立	136
やる	動詞	自立	133
見る	動詞	自立	83
知る	動詞	自立	61
いる	動詞	自立	60
いえる	動詞	自立	52
言う	動詞	自立	50
使う	動詞	自立	46
いく	動詞	自立	43
わかる	動詞	自立	41
とらわれる	動詞	自立	39
立つ	動詞	自立	37
とる	動詞	自立	37
行なう	動詞	自立	37
進む	動詞	自立	30
聞く	動詞	自立	29
つくる	動詞	自立	28
求める	動詞	自立	27

得る	動詞	自立	26
与える	動詞	自立	25
もつ	動詞	自立	24
生まれる	動詞	自立	22
教える	動詞	自立	22
戦う	動詞	自立	22
説く	動詞	自立	21
なす	動詞	自立	21
すぐれる	動詞	自立	21
行く	動詞	自立	20
心がける	動詞	自立	20
出る	動詞	自立	20
叱る	動詞	自立	19
進める	動詞	自立	17
あげる	動詞	自立	17
つく	動詞	自立	17
感じる	動詞	自立	17
生かす	動詞	自立	17
受ける	動詞	自立	16
答える	動詞	自立	16
許す	動詞	自立	16
かける	動詞	自立	16
育てる	動詞	自立	15
はかる	動詞	自立	15
失う	動詞	自立	15
しれる	動詞	自立	15
起こる	動詞	自立	15
喜ぶ	動詞	自立	15
おる	動詞	自立	14
祈る	動詞	自立	14
ちがう	動詞	自立	14
やってくる	動詞	自立	14

生じる	動詞	自立	14
出す	動詞	自立	14
働く	動詞	自立	14
売る	動詞	自立	14
生み出す	動詞	自立	13
捨てる	動詞	自立	12
立てる	動詞	自立	12
儲かる	動詞	自立	12
買う	動詞	自立	12
ほめる	動詞	自立	12
あやまる	動詞	自立	11
集まる	動詞	自立	11
用いる	動詞	自立	11
従う	動詞	自立	11
打つ	動詞	自立	11
養う	動詞	自立	11
忘れる	動詞	自立	11
生きる	動詞	自立	11
いいかえる	動詞	自立	11
訴える	動詞	自立	11
つとめる	動詞	自立	10
入る	動詞	自立	10
高める	動詞	自立	10
替える	動詞	自立	10
かかる	動詞	自立	10
変える	動詞	自立	10
つかむ	動詞	自立	10
重ねる	動詞	自立	10
死ぬ	動詞	自立	10
集める	動詞	自立	10
売れる	動詞	自立	10
始める	動詞	自立	10

まちがう	動詞	自立	9
育つ	動詞	自立	9
基づく	動詞	自立	9
かざる	動詞	自立	9
困る	動詞	自立	9
取り組む	動詞	自立	9
くる	動詞	自立	9
たずねる	動詞	自立	9
動く	動詞	自立	9
送る	動詞	自立	9
応じる	動詞	自立	9
勝つ	動詞	自立	9
あがる	動詞	自立	9
続く	動詞	自立	8
終わる	動詞	自立	8
あたる	動詞	自立	8
示す	動詞	自立	8
いたる	動詞	自立	8
起こす	動詞	自立	8
陥る	動詞	自立	8
負ける	動詞	自立	8
励ます	動詞	自立	8
決める	動詞	自立	8
つぶす	動詞	自立	8
貸す	動詞	自立	8
かかわる	動詞	自立	8
借りる	動詞	自立	8
つぶれる	動詞	自立	8
みとめる	動詞	自立	7
思い切る	動詞	自立	7
足りる	動詞	自立	7
やめる	動詞	自立	7

帰る	動詞	自立	7
ひらく	動詞	自立	7
来る	動詞	自立	7
頼む	動詞	自立	7
努める	動詞	自立	7
すすめる	動詞	自立	7
変わる	動詞	自立	7
超える	動詞	自立	7
受け入れる	動詞	自立	7
ゆるむ	動詞	自立	7
生む	動詞	自立	7
誤る	動詞	自立	7
たつ	動詞	自立	6
正す	動詞	自立	6
まかせる	動詞	自立	6
恐れる	動詞	自立	6
甘える	動詞	自立	6
期す	動詞	自立	6
望む	動詞	自立	6
めざす	動詞	自立	6
見きわめる	動詞	自立	6
寝る	動詞	自立	6
選ぶ	動詞	自立	6
成り立つ	動詞	自立	6
預ける	動詞	自立	6
かなう	動詞	自立	6
いただく	動詞	自立	6
傾ける	動詞	自立	6
尋ねる	動詞	自立	6
願う	動詞	自立	6
きたえる	動詞	自立	6
加える	動詞	自立	6

欠く	動詞	自立	6
通じる	動詞	自立	6
とれる	動詞	自立	6
役立つ	動詞	自立	6
笑う	動詞	自立	6
見失う	動詞	自立	6
すぎる	動詞	自立	5
伝える	動詞	自立	5
果たす	動詞	自立	5
困む	動詞	自立	5
去る	動詞	自立	5
驚く	動詞	自立	5
はめる	動詞	自立	5
見える	動詞	自立	5
運ぶ	動詞	自立	5
つける	動詞	自立	5
食う	動詞	自立	5
歩む	動詞	自立	5
上がる	動詞	自立	5
愛す	動詞	自立	5
認める	動詞	自立	5
討つ	動詞	自立	5
接する	動詞	自立	5
わかる	動詞	自立	5
及ぶ	動詞	自立	5
反する	動詞	自立	5
愛する	動詞	自立	5
処す	動詞	自立	5
かえる	動詞	自立	5
あわてる	動詞	自立	5
眠れる	動詞	自立	5
開く	動詞	自立	5

興す	動詞	自立	5
伝わる	動詞	自立	5
心得る	動詞	自立	5
苦しめる	動詞	自立	5

ウェルチ (形容詞)

語	品詞	品詞細分類	出現頻度
ない	形容詞	自立	804
新しい	形容詞	自立	120
すばらしい	形容詞	自立	97
よい	形容詞	自立	85
高い	形容詞	自立	79
いい	形容詞	自立	64
大きい	形容詞	自立	63
厳しい	形容詞	自立	63
うまい	形容詞	自立	55
強い	形容詞	自立	50
長い	形容詞	自立	48
正しい	形容詞	自立	37
悪い	形容詞	自立	35
早い	形容詞	自立	35
難しい	形容詞	自立	34
多い	形容詞	自立	31
楽しい	形容詞	自立	28
ふさわしい	形容詞	自立	24
つらい	形容詞	自立	23
詳しい	形容詞	自立	22
若い	形容詞	自立	22
激しい	形容詞	自立	20
古い	形容詞	自立	18
低い	形容詞	自立	18

遅い	形容詞	自立	15
少ない	形容詞	自立	15
むずかしい	形容詞	自立	15
面白い	形容詞	自立	15
速い	形容詞	自立	15
深い	形容詞	自立	12
広い	形容詞	自立	12
ありがたい	形容詞	自立	11
ほしい	形容詞	自立	11
ひどい	形容詞	自立	11
美しい	形容詞	自立	11
寒い	形容詞	自立	11
親しい	形容詞	自立	10
熱い	形容詞	自立	10
細かい	形容詞	自立	9
嬉しい	形容詞	自立	9
近い	形容詞	自立	9
苦しい	形容詞	自立	9
甘い	形容詞	自立	9
小さい	形容詞	自立	9
鋭い	形容詞	自立	9
しつこい	形容詞	自立	8
凄まじい	形容詞	自立	8
狭い	形容詞	自立	8
すばやい	形容詞	自立	8
幅広い	形容詞	自立	8
恐ろしい	形容詞	自立	8
数多い	形容詞	自立	8
素早い	形容詞	自立	7
弱い	形容詞	自立	7
ほど遠い	形容詞	自立	7
短い	形容詞	自立	7

うれしい	形容詞	自立	6
明るい	形容詞	自立	6
おかしい	形容詞	自立	6
良い	形容詞	自立	6
白い	形容詞	自立	6
忙しい	形容詞	自立	6
遠い	形容詞	自立	5
やさしい	形容詞	自立	5
言うまでもない	形容詞	自立	5
ばかばかしい	形容詞	自立	5
痛い	形容詞	自立	5

ウェルチ (動詞)

する	動詞	自立	5462
なる	動詞	自立	1191
ある	動詞	自立	949
できる	動詞	自立	407
言う	動詞	自立	374
いる	動詞	自立	267
考える	動詞	自立	245
思う	動詞	自立	220
行く	動詞	自立	153
わかる	動詞	自立	152
持つ	動詞	自立	137
見る	動詞	自立	131
かける	動詞	自立	124
入る	動詞	自立	107
開く	動詞	自立	100
知る	動詞	自立	99
行なう	動詞	自立	95
与える	動詞	自立	94

出る	動詞	自立	94
会う	動詞	自立	90
聞く	動詞	自立	89
受ける	動詞	自立	82
出す	動詞	自立	81
終わる	動詞	自立	76
書く	動詞	自立	74
示す	動詞	自立	73
信じる	動詞	自立	68
使う	動詞	自立	67
答える	動詞	自立	66
かかる	動詞	自立	66
とる	動詞	自立	64
伝える	動詞	自立	62
感じる	動詞	自立	62
変える	動詞	自立	62
戻る	動詞	自立	59
求める	動詞	自立	58
知れる	動詞	自立	60
来る	動詞	自立	55
働く	動詞	自立	54
つける	動詞	自立	54
かかわる	動詞	自立	54
呼ぶ	動詞	自立	53
辞める	動詞	自立	53
取り組む	動詞	自立	52
繰り返す	動詞	自立	51
変わる	動詞	自立	50
選ぶ	動詞	自立	49
つくる	動詞	自立	48

気に入る	動詞	自立	48
入れる	動詞	自立	48
過ぎる	動詞	自立	48
話す	動詞	自立	47
決める	動詞	自立	47
よる	動詞	自立	47
上げる	動詞	自立	45
教える	動詞	自立	43
得る	動詞	自立	43
認める	動詞	自立	42
立つ	動詞	自立	41
続ける	動詞	自立	41
思える	動詞	自立	40
すぐれる	動詞	自立	40
違う	動詞	自立	39
失う	動詞	自立	39
待つ	動詞	自立	39
務める	動詞	自立	38
生まれる	動詞	自立	38
まとめる	動詞	自立	38
残る	動詞	自立	37
あふれる	動詞	自立	37
向かう	動詞	自立	36
学ぶ	動詞	自立	36
あげる	動詞	自立	34
作る	動詞	自立	34
起こる	動詞	自立	34
始める	動詞	自立	34
取る	動詞	自立	32
訪ねる	動詞	自立	32

過ごす	動詞	自立	31
始まる	動詞	自立	31
送る	動詞	自立	31
乗る	動詞	自立	31
忘れる	動詞	自立	31
買う	動詞	自立	30
(支) 払う	動詞	自立	30
驚く	動詞	自立	29
集まる	動詞	自立	28
取り上げる	動詞	自立	28
やる	動詞	自立	28
抱える	動詞	自立	28
楽しむ	動詞	自立	28
加える	動詞	自立	28
関する	動詞	自立	28
上がる	動詞	自立	27
探す	動詞	自立	27
続く	動詞	自立	27
とどまる	動詞	自立	26
見える	動詞	自立	26
離れる	動詞	自立	26
帰る	動詞	自立	25
集める	動詞	自立	25
話し合う	動詞	自立	25
めざす	動詞	自立	25
見つける	動詞	自立	25
遂げる	動詞	自立	24
進む	動詞	自立	24
果たす	動詞	自立	24
決まる	動詞	自立	24

生み出す	動詞	自立	23
起きる	動詞	自立	23
受け入れる	動詞	自立	23
去る	動詞	自立	23
超える	動詞	自立	23
なれる	動詞	自立	23
立てる	動詞	自立	22
受け取る	動詞	自立	22
頼む	動詞	自立	22
出かける	動詞	自立	22
飛ぶ	動詞	自立	22
含める	動詞	自立	22
気がつく	動詞	自立	22
残す	動詞	自立	21
思いつく	動詞	自立	21
読む	動詞	自立	21
活かす	動詞	自立	21
戦う	動詞	自立	21
すむ	動詞	自立	20
なくなる	動詞	自立	20
起こす	動詞	自立	20
進める	動詞	自立	20
訴える	動詞	自立	20
見せる	動詞	自立	20
育つ	動詞	自立	19
現われる	動詞	自立	19
勝つ	動詞	自立	19
売る	動詞	自立	19
加わる	動詞	自立	19
掲げる	動詞	自立	19

至る	動詞	自立	19
もたらす	動詞	自立	19
連れる	動詞	自立	18
迎える	動詞	自立	18
切る	動詞	自立	18
支える	動詞	自立	17
招く	動詞	自立	17
置く	動詞	自立	17
許す	動詞	自立	17
数える	動詞	自立	17
打つ	動詞	自立	16
望む	動詞	自立	16
間違う	動詞	自立	16
動く	動詞	自立	14
語る	動詞	自立	14
育てる	動詞	自立	14
引き継ぐ	動詞	自立	14
走る	動詞	自立	14
重ねる	動詞	自立	14
やって来る	動詞	自立	14
役立つ	動詞	自立	14
広げる	動詞	自立	13
もつ	動詞	自立	13
もとづく	動詞	自立	13
終える	動詞	自立	13
含む	動詞	自立	13
心がける	動詞	自立	13
やってくる	動詞	自立	13
負ける	動詞	自立	13
喜ぶ	動詞	自立	13

助ける	動詞	自立	12
つながる	動詞	自立	12
つかむ	動詞	自立	12
動かす	動詞	自立	12
引き受ける	動詞	自立	12
高める	動詞	自立	12
やめる	動詞	自立	12
なす	動詞	自立	12
いえる	動詞	自立	12
叩く	動詞	自立	12
見いだす	動詞	自立	12
述べる	動詞	自立	11
見つかる	動詞	自立	11
増える	動詞	自立	11
耐える	動詞	自立	11
守る	動詞	自立	11
絞る	動詞	自立	11
引き出す	動詞	自立	11
就く	動詞	自立	11
届く	動詞	自立	11
言える	動詞	自立	11
持ち込む	動詞	自立	11
役に立つ	動詞	自立	11
聞かす	動詞	自立	11
応える	動詞	自立	11
こなす	動詞	自立	11
とらえる	動詞	自立	10
売り込む	動詞	自立	10
叫ぶ	動詞	自立	10
下す	動詞	自立	10

陥る	動詞	自立	10
励ます	動詞	自立	10
付き合う	動詞	自立	10
とらわれる	動詞	自立	10
賭ける	動詞	自立	10
着く	動詞	自立	10
える	動詞	自立	10
足りる	動詞	自立	10
思い知らす	動詞	自立	10
落ちる	動詞	自立	10
犯す	動詞	自立	10
いたる	動詞	自立	10
死ぬ	動詞	自立	10
流す	動詞	自立	10
限る	動詞	自立	10
もらう	動詞	自立	10
きく	動詞	自立	10
乗せる	動詞	自立	9
降りる	動詞	自立	9
迫る	動詞	自立	9
困る	動詞	自立	9
移す	動詞	自立	9
あたる	動詞	自立	9
まとまる	動詞	自立	9
生きる	動詞	自立	9
恵まれる	動詞	自立	9
またす	動詞	自立	9
結びつく	動詞	自立	9
回す	動詞	自立	9
切れる	動詞	自立	9

据える	動詞	自立	9
任せる	動詞	自立	9
負う	動詞	自立	9
間に合う	動詞	自立	9
くる	動詞	自立	9
問う	動詞	自立	9
知らせる	動詞	自立	9
載る	動詞	自立	9
雇う	動詞	自立	9
はずれる	動詞	自立	9
できあがる	動詞	自立	9
食べる	動詞	自立	9
したがる	動詞	自立	9
手がける	動詞	自立	9
携わる	動詞	自立	9
譲る	動詞	自立	9
なくす	動詞	自立	9
引っ張る	動詞	自立	9
推す	動詞	自立	9
笑う	動詞	自立	9
さらす	動詞	自立	8
選び出す	動詞	自立	8
歩く	動詞	自立	8
練り上げる	動詞	自立	8
保つ	動詞	自立	8
かわす	動詞	自立	8
増す	動詞	自立	8
埋める	動詞	自立	8
もれる	動詞	自立	8
飛び出す	動詞	自立	8

落とす	動詞	自立	8
着る	動詞	自立	8
願う	動詞	自立	8
近づく	動詞	自立	8
勧める	動詞	自立	8
貸す	動詞	自立	8
見守る	動詞	自立	8
確かめる	動詞	自立	8
思い出す	動詞	自立	8
見つめる	動詞	自立	8
恐れる	動詞	自立	8
運ぶ	動詞	自立	8
知り合う	動詞	自立	8
思い切る	動詞	自立	8
くれる	動詞	自立	8
試す	動詞	自立	8
抱きしめる	動詞	自立	8
止める	動詞	自立	8
眺める	動詞	自立	8
使える	動詞	自立	8
投げる	動詞	自立	8
持てる	動詞	自立	8
奪う	動詞	自立	8
計る	動詞	自立	7
知らず	動詞	自立	7
味わう	動詞	自立	7
引き留める	動詞	自立	7
付ける	動詞	自立	7
立ち上がる	動詞	自立	7
暮らす	動詞	自立	7

積み上げる	動詞	自立	7
追う	動詞	自立	7
応じる	動詞	自立	7
向く	動詞	自立	7
取り入れる	動詞	自立	7
締めくくる	動詞	自立	7
囲む	動詞	自立	7
捨てる	動詞	自立	7
伴う	動詞	自立	7
悩ます	動詞	自立	7
唱える	動詞	自立	7
抜ける	動詞	自立	7
育て上げる	動詞	自立	7
飛び込む	動詞	自立	7
調べる	動詞	自立	7
外す	動詞	自立	7
下がる	動詞	自立	7
のぼる	動詞	自立	7
遅れる	動詞	自立	7
生まれ変わる	動詞	自立	7
抜け出す	動詞	自立	7
話せる	動詞	自立	7
つまる	動詞	自立	7
通る	動詞	自立	6
満たす	動詞	自立	6
あける	動詞	自立	6
盛り込む	動詞	自立	6
説く	動詞	自立	6
争う	動詞	自立	6
深める	動詞	自立	6

押しつける	動詞	自立	6
減る	動詞	自立	6
祝う	動詞	自立	6
下回る	動詞	自立	6
異なる	動詞	自立	6
わたる	動詞	自立	6
遊ぶ	動詞	自立	6
狂う	動詞	自立	6
申し出る	動詞	自立	6
働ける	動詞	自立	6
膨らむ	動詞	自立	6
取り組める	動詞	自立	6
欠ける	動詞	自立	6
及ぶ	動詞	自立	6
昇る	動詞	自立	6
富む	動詞	自立	6
ぼる	動詞	自立	6
経つ	動詞	自立	6
握る	動詞	自立	6
あがる	動詞	自立	6
築き上げる	動詞	自立	6
渡す	動詞	自立	6
載せる	動詞	自立	6
悩む	動詞	自立	6
貼る	動詞	自立	6
落ち込む	動詞	自立	6
あてはまる	動詞	自立	6
飛び乗る	動詞	自立	6
でき上がる	動詞	自立	6
生じる	動詞	自立	6

たどり着く	動詞	自立	6
見つけ出す	動詞	自立	6
結ぶ	動詞	自立	6
生き残る	動詞	自立	6
ためらう	動詞	自立	6
名づける	動詞	自立	6
注ぎ込む	動詞	自立	6
組み合わせる	動詞	自立	6
黙る	動詞	自立	6
延ばす	動詞	自立	6
はずす	動詞	自立	6
試みる	動詞	自立	6
抑える	動詞	自立	6
まとめあげる	動詞	自立	6
導く	動詞	自立	6
浮かぶ	動詞	自立	6
触れる	動詞	自立	6
返る	動詞	自立	6
住む	動詞	自立	6
流れる	動詞	自立	6
表わす	動詞	自立	6
とれる	動詞	自立	6
誤る	動詞	自立	6
掘る	動詞	自立	6
振り返る	動詞	自立	6
満ちる	動詞	自立	6
ちがう	動詞	自立	5
くだす	動詞	自立	5
隠れる	動詞	自立	5
行う	動詞	自立	5

しがみつく	動詞	自立	5
抱き合う	動詞	自立	5
漏れる	動詞	自立	5
つかまえる	動詞	自立	5
騒ぐ	動詞	自立	5
急ぐ	動詞	自立	5
詰まる	動詞	自立	5
並べる	動詞	自立	5
促す	動詞	自立	5
経る	動詞	自立	5
吹き込む	動詞	自立	5
分ける	動詞	自立	5
脅かす	動詞	自立	5
おく	動詞	自立	5
組む	動詞	自立	5
並ぶ	動詞	自立	5
取り出す	動詞	自立	5
送り込む	動詞	自立	5
戻す	動詞	自立	5
責める	動詞	自立	5
呼び戻す	動詞	自立	5
詰める	動詞	自立	5
嫌う	動詞	自立	5
図る	動詞	自立	5
担う	動詞	自立	5
問いただす	動詞	自立	5
すわる	動詞	自立	5
越える	動詞	自立	5
あきらめる	動詞	自立	5
告げる	動詞	自立	5

映る	動詞	自立	5
からかう	動詞	自立	5
見合う	動詞	自立	5
盗む	動詞	自立	5
起こせる	動詞	自立	5
頼る	動詞	自立	5
誘う	動詞	自立	5
報じる	動詞	自立	5
出せる	動詞	自立	5
接する	動詞	自立	5
強まる	動詞	自立	5
結論づける	動詞	自立	5
除く	動詞	自立	5
楽しめる	動詞	自立	5
われる	動詞	自立	5
切り離す	動詞	自立	5
取り除く	動詞	自立	5
設ける	動詞	自立	5
通じる	動詞	自立	5
押す	動詞	自立	5
もらえる	動詞	自立	5
はまる	動詞	自立	5
心得る	動詞	自立	5

(補足) すべての形容詞と動詞リスト

松下 (形容詞)

ない	形容詞	自立	218
いい	形容詞	自立	55
強い	形容詞	自立	40
多い	形容詞	自立	37
うまい	形容詞	自立	36

よい	形容詞	自立	35
正しい	形容詞	自立	33
きびしい	形容詞	自立	32
少ない	形容詞	自立	31
大きい	形容詞	自立	28
むずかしい	形容詞	自立	28
悪い	形容詞	自立	21
こわい	形容詞	自立	20
安い	形容詞	自立	18
長い	形容詞	自立	15
早い	形容詞	自立	12
高い	形容詞	自立	11
新しい	形容詞	自立	11
賢い	形容詞	自立	8
若い	形容詞	自立	8
広い	形容詞	自立	8
はげしい	形容詞	自立	8
力強い	形容詞	自立	7
望ましい	形容詞	自立	6
小さい	形容詞	自立	6
うれしい	形容詞	自立	6
弱い	形容詞	自立	5

面白い	形容詞	自立	5
軽い	形容詞	自立	5
ふさわしい	形容詞	自立	5
好ましい	形容詞	自立	5
つらい	形容詞	自立	4
貧しい	形容詞	自立	4
忙しい	形容詞	自立	4
あつい	形容詞	自立	4
恐ろしい	形容詞	自立	4
深い	形容詞	自立	4
ひとしい	形容詞	自立	3
こまかい	形容詞	自立	3
手堅い	形容詞	自立	3
重い	形容詞	自立	3
遅い	形容詞	自立	3
速い	形容詞	自立	3
えらい	形容詞	自立	3
やむを得ない	形容詞	自立	3
ええ	形容詞	自立	3
おかしい	形容詞	自立	3
良い	形容詞	自立	3
厳しい	形容詞	自立	3

苦しい	形容詞	自立	2
ありがたい	形容詞	自立	2
何気ない	形容詞	自立	2
詳しい	形容詞	自立	2
好ましい	形容詞	自立	2
遠い	形容詞	自立	2
潔い	形容詞	自立	2
親しい	形容詞	自立	2
乏しい	形容詞	自立	2
すばらしい	形容詞	自立	2
憂い	形容詞	自立	2
うすい	形容詞	自立	2
おもしろい	形容詞	自立	2
痛い	形容詞	自立	2
興味深い	形容詞	自立	2
偉い	形容詞	自立	2
幼い	形容詞	自立	2
近い	形容詞	自立	2
惜しい	形容詞	自立	2
貴い	形容詞	自立	2
おいしい	形容詞	自立	2
尊い	形容詞	自立	2

恥しい	形容詞	自立	2
くわしい	形容詞	自立	2
心もとない	形容詞	自立	2
楽しい	形容詞	自立	1
汚い	形容詞	自立	1
細かい	形容詞	自立	1
素早い	形容詞	自立	1
柔らかい	形容詞	自立	1
やさしい	形容詞	自立	1
ほしい	形容詞	自立	1
おとなしい	形容詞	自立	1
すさまじい	形容詞	自立	1
浅い	形容詞	自立	1
わずらわしい	形容詞	自立	1
名高い	形容詞	自立	1
狭い	形容詞	自立	1
おぼつかない	形容詞	自立	1
珍しい	形容詞	自立	1
易い	形容詞	自立	1
いざとい	形容詞	自立	1
うい	形容詞	自立	1
丸い	形容詞	自立	1

うとい	形容詞	自立	1
うっとうしい	形容詞	自立	1
ひくい	形容詞	自立	1
まずしい	形容詞	自立	1
涼しい	形容詞	自立	1
淋しい	形容詞	自立	1
気味悪い	形容詞	自立	1
四角い	形容詞	自立	1
気安い	形容詞	自立	1
温かい	形容詞	自立	1
あやうい	形容詞	自立	1
きつい	形容詞	自立	1
ボロい	形容詞	自立	1
短い	形容詞	自立	1
数多い	形容詞	自立	1
堅い	形容詞	自立	1
口惜しい	形容詞	自立	1
低い	形容詞	自立	1
固い	形容詞	自立	1
余儀ない	形容詞	自立	1
麗々しい	形容詞	自立	1
古めかしい	形容詞	自立	1

松下（動詞）

動詞	する	295
動詞	いる	569
動詞	なる	434
動詞	ある	1272
動詞	いう	1737
動詞	思う	551
動詞	れる	280
動詞	いく	350
動詞	持つ	249
動詞	考える	265
動詞	できる	228
動詞	くる	109
動詞	られる	104
動詞	しまう	137
動詞	見る	85
動詞	知る	104
動詞	やる	75
動詞	いえる	101
動詞	せる	66

動詞	得る	62
動詞	いける	132
動詞	行なう	51
動詞	なす	49
動詞	聞く	41
動詞	戦う	39
動詞	使う	37
動詞	とる	36
動詞	みる	33
動詞	説く	31
動詞	もつ	30
動詞	とられる	27
動詞	わかる	27
動詞	進む	26
動詞	生まれる	25
動詞	与える	25
動詞	用いる	25
動詞	おる	23
動詞	心がける	23
動詞	従う	23
動詞	立つ	22

動詞	出る	21
動詞	示す	21
動詞	許す	21
動詞	つく	21
動詞	すぐれる	21
動詞	生かす	20
動詞	訴える	20
動詞	失う	19
動詞	くれる	19
動詞	捨てる	19
動詞	あやまる	18
動詞	祈る	18
動詞	養う	18
動詞	あげる	17
動詞	起こる	17
動詞	出す	16
動詞	生きる	16
動詞	つくる	15
動詞	進める	15
動詞	死ぬ	15
動詞	あたる	15

動詞	打つ	15
動詞	喜ぶ	15
動詞	生み出す	14
動詞	しれる	14
動詞	すぎる	14
動詞	尽くす	14
動詞	立てる	14
動詞	あう	14
動詞	おく	13
動詞	あがる	13
動詞	行く	13
動詞	働く	13
動詞	受ける	13
動詞	もらう	12
動詞	攻める	12
動詞	いいかえる	12
動詞	答える	12
動詞	教える	12
動詞	集める	12
動詞	かざる	12
動詞	学ぶ	11

動詞	討つ	11
動詞	退く	11
動詞	待つ	11
動詞	かける	11
動詞	ちがう	11
動詞	忘れる	11
動詞	きたえる	11
動詞	集まる	11
動詞	動く	11
動詞	高める	11
動詞	恐れる	11
動詞	入る	10
動詞	超える	10
動詞	はかる	10
動詞	惜しむ	10
動詞	たずねる	10
動詞	はめる	10
動詞	続ける	10
動詞	守る	10
動詞	伝える	10
動詞	動かす	10

動詞	おさめる	10
動詞	勝つ	10
動詞	させる	9
動詞	望む	9
動詞	生む	9
動詞	つとめる	9
動詞	負ける	9
動詞	いたる	9
動詞	期す	9
動詞	しめる	9
動詞	重ねる	9
動詞	湧く	9
動詞	感じる	9
動詞	励ます	9
動詞	基づく	9
動詞	よる	8
動詞	招く	8
動詞	ひらく	8
動詞	かかる	8
動詞	終わる	8
動詞	起こす	8

動詞	味わう	8
動詞	諦める	8
動詞	及ぶ	8
動詞	かなう	8
動詞	叱る	8
動詞	願う	8
動詞	保つ	8
動詞	積む	8
動詞	送る	8
動詞	運ぶ	7
動詞	みとめる	7
動詞	栄える	7
動詞	陥る	7
動詞	呼ぶ	7
動詞	入れる	7
動詞	罰する	7
動詞	変える	7
動詞	反す	7
動詞	帰る	7
動詞	囲む	7
動詞	かねる	7

動詞	まかせる	7
動詞	受け入れる	7
動詞	すむ	7
動詞	怠る	7
動詞	破る	7
動詞	誓う	7
動詞	去る	7
動詞	応じる	7
動詞	たつ	7
動詞	書く	7
動詞	避ける	7
動詞	ひきつける	7
動詞	愛する	6
動詞	せしめる	6
動詞	切る	6
動詞	ほめる	6
動詞	つける	6
動詞	愛す	6
動詞	処す	6
動詞	富む	6
動詞	築く	6

動詞	離れる	6
動詞	なくなる	6
動詞	育つ	6
動詞	やってくる	6
動詞	治める	6
動詞	驚く	6
動詞	問う	6
動詞	選ぶ	6
動詞	倒す	6
動詞	命じる	6
動詞	乱れる	6
動詞	思い切る	6
動詞	傾ける	6
動詞	上がる	6
動詞	正す	6
動詞	育てる	6
動詞	なしとげる	5
動詞	あわせる	5
動詞	かかわる	5
動詞	通じる	5
動詞	争う	5

動詞	傷つける	5
動詞	抱く	5
動詞	見せる	5
動詞	寝る	5
動詞	迎える	5
動詞	欠く	5
動詞	喫す	5
動詞	語る	5
動詞	切れる	5
動詞	つかむ	5
動詞	誇る	5
動詞	苦しめる	5
動詞	捕える	5
動詞	決める	5
動詞	やむ	5
動詞	売る	5
動詞	変わる	5
動詞	いつくしむ	5
動詞	なれる	5
動詞	あわてる	5
動詞	めざす	5

動詞	見失う	5
動詞	決まる	5
動詞	率いる	5
動詞	働かせる	5
動詞	滅ぼす	5
動詞	余る	5
動詞	生じる	5
動詞	接する	4
動詞	移す	4
動詞	満ちる	4
動詞	撃つ	4
動詞	頼る	4
動詞	つらぬく	4
動詞	召しかかえる	4
動詞	おっしゃる	4
動詞	わく	4
動詞	頼む	4
動詞	とれる	4
動詞	困る	4
動詞	来る	4
動詞	免れる	4

動詞	打って出る	4
動詞	やめる	4
動詞	わびる	4
動詞	課す	4
動詞	歩む	4
動詞	訪れる	4
動詞	乗る	4
動詞	報いる	4
動詞	たてる	4
動詞	降る	4
動詞	信ずる	4
動詞	先んじる	4
動詞	唱える	4
動詞	下す	4
動詞	すすめる	4
動詞	救う	4
動詞	ゆずる	4
動詞	改める	4
動詞	敗れる	4
動詞	滅びる	4
動詞	いただく	4

動詞	まじえる	4
動詞	とり入れる	4
動詞	徹す	4
動詞	秀でる	4
動詞	もたらす	4
動詞	なくす	4
動詞	賞する	4
動詞	あり	4
動詞	犯す	4
動詞	役に立つ	4
動詞	とげる	4
動詞	崩れる	4
動詞	過つ	4
動詞	たのむ	4
動詞	足りる	4
動詞	残る	4
動詞	反する	4
動詞	物語る	4
動詞	会う	3
動詞	申す	3
動詞	奮い起こす	3

動詞	治まる	3
動詞	押さえる	3
動詞	聞き入れる	3
動詞	罰す	3
動詞	かえりみる	3
動詞	ふれる	3
動詞	覚る	3
動詞	うたう	3
動詞	嘆く	3
動詞	化す	3
動詞	続く	3
動詞	戻す	3
動詞	持てる	3
動詞	移り変わる	3
動詞	だます	3
動詞	おごる	3
動詞	だれる	3
動詞	のがれる	3
動詞	かけつける	3
動詞	ためす	3
動詞	飲む	3

動詞	迷う	3
動詞	ひく	3
動詞	はせ参じる	3
動詞	接す	3
動詞	使える	3
動詞	落ちる	3
動詞	届く	3
動詞	欠かす	3
動詞	思える	3
動詞	向かう	3
動詞	勇気づける	3
動詞	わかる	3
動詞	達する	3
動詞	先立つ	3
動詞	遊ぶ	3
動詞	うすれる	3
動詞	割り切れる	3
動詞	詠む	3
動詞	かられる	3
動詞	乞う	3
動詞	訪ねる	3

動詞	楽しむ	3
動詞	憂う	3
動詞	組む	3
動詞	斬る	3
動詞	押す	3
動詞	見きわめる	3
動詞	奉じる	3
動詞	落とす	3
動詞	ます	3
動詞	つかえる	3
動詞	贈る	3
動詞	見習う	3
動詞	食う	3
動詞	劣る	3
動詞	流す	3
動詞	決する	3
動詞	座す	3
動詞	没す	3
動詞	疲れる	3
動詞	始まる	3
動詞	はる	3

動詞	始める	3
動詞	しのびなく	3
動詞	培う	3
動詞	占う	3
動詞	強める	3
動詞	押し寄せる	3
動詞	伝わる	3
動詞	打ち破る	3
動詞	たる	3
動詞	つげる	3
動詞	講じる	3
動詞	にぎる	3
動詞	そむく	3
動詞	引き出す	3
動詞	見抜く	3
動詞	まかす	3
動詞	いましめる	3
動詞	ともす	3
動詞	見逃す	2
動詞	ゆるむ	2
動詞	使いこなせる	2

動詞	寝つく	2
動詞	結びつく	2
動詞	狂う	2
動詞	ささげる	2
動詞	ふれあう	2
動詞	聞こえる	2
動詞	慕う	2
動詞	そそぐ	2
動詞	過ごす	2
動詞	悩ます	2
動詞	いさめる	2
動詞	導く	2
動詞	へる	2
動詞	しかる	2
動詞	戻る	2
動詞	定める	2
動詞	黙る	2
動詞	見える	2
動詞	向ける	2
動詞	責める	2
動詞	もらえる	2

動詞	く	2
動詞	したためる	2
動詞	まちがう	2
動詞	亡ぶ	2
動詞	励む	2
動詞	見受ける	2
動詞	まげる	2
動詞	うけつぐ	2
動詞	果たす	2
動詞	払う	2
動詞	とめる	2
動詞	あらわれる	2
動詞	安んずる	2
動詞	実る	2
動詞	通す	2
動詞	めざめる	2
動詞	けむる	2
動詞	つぶやく	2
動詞	ぬく	2
動詞	うつ	2
動詞	尽きる	2

動詞	がる	2
動詞	補う	2
動詞	売れる	2
動詞	出かける	2
動詞	ふさぐ	2
動詞	やらす	2
動詞	合う	2
動詞	許せる	2
動詞	まみれる	2
動詞	則す	2
動詞	助ける	2
動詞	叱りつける	2
動詞	つまる	2
動詞	興す	2
動詞	成る	2
動詞	うとむ	2
動詞	暮らせる	2
動詞	つぐ	2
動詞	たたえる	2
動詞	おす	2
動詞	防ぐ	2

動詞	賭す	2
動詞	つかう	2
動詞	みつける	2
動詞	あらわす	2
動詞	競う	2
動詞	狙う	2
動詞	恵まれる	2
動詞	ふるう	2
動詞	建て直す	2
動詞	くださる	2
動詞	なつく	2
動詞	甘やかす	2
動詞	はりめぐらす	2
動詞	則る	2
動詞	できあがる	2
動詞	適す	2
動詞	修める	2
動詞	つけ加える	2
動詞	ことわる	2
動詞	たける	2
動詞	ゆく	2

動詞	植える	2
動詞	制する	2
動詞	相次ぐ	2
動詞	奮いたつ	2
動詞	出合う	2
動詞	掘る	2
動詞	描く	2
動詞	殺す	2
動詞	抱ける	2
動詞	徹する	2
動詞	耕す	2
動詞	くらべる	2
動詞	通う	2
動詞	高まる	2
動詞	かかげる	2
動詞	固める	2
動詞	処する	2
動詞	遭う	2
動詞	遊ばせる	2
動詞	笑う	2
動詞	勝てる	2

動詞	まじる	2
動詞	自惚れる	2
動詞	渡す	2
動詞	気づく	2
動詞	襲う	2
動詞	あふれる	2
動詞	加える	2
動詞	はく	2
動詞	伝え聞く	2
動詞	ひらめく	2
動詞	打ち出す	2
動詞	論じる	2
動詞	休む	2
動詞	とって返す	2
動詞	まわる	2
動詞	かかえる	2
動詞	抜く	2
動詞	おろす	2
動詞	なりひびく	2
動詞	叫ぶ	2
動詞	律す	2

動詞	擁す	2
動詞	返る	2
動詞	おさまる	2
動詞	そなえる	2
動詞	排す	2
動詞	居る	2
動詞	合わせる	2
動詞	なさる	2
動詞	衰える	2
動詞	急ぐ	2
動詞	絶つ	2
動詞	並べる	2
動詞	くじける	2
動詞	めげる	2
動詞	ひらける	2
動詞	覚える	2
動詞	落ち着く	2
動詞	残す	2
動詞	はやる	2
動詞	次ぐ	2
動詞	返す	2

動詞	かす	2
動詞	広める	2
動詞	巻き込む	1
動詞	はかどる	1
動詞	気に入る	1
動詞	仰ぐ	1
動詞	捕われる	1
動詞	挙げる	1
動詞	あく	1
動詞	ひそめる	1
動詞	論ずる	1
動詞	欠ける	1
動詞	とびぬける	1
動詞	ゆきすぎる	1
動詞	おくれる	1
動詞	捨て去る	1
動詞	立ち去る	1
動詞	すわる	1
動詞	輝く	1
動詞	みつかる	1
動詞	もうける	1

動詞	こぼれる	1
動詞	ついやす	1
動詞	とびだす	1
動詞	促す	1
動詞	こわす	1
動詞	追う	1
動詞	数える	1
動詞	作る	1
動詞	和する	1
動詞	調べる	1
動詞	振る	1
動詞	おきかえる	1
動詞	ひるむ	1
動詞	見つめる	1
動詞	志す	1
動詞	尽くせる	1
動詞	われる	1
動詞	往く	1
動詞	しる	1
動詞	ける	1
動詞	やぶる	1

動詞	おそれる	1
動詞	見出す	1
動詞	引き下がる	1
動詞	殉ずる	1
動詞	恥じ入る	1
動詞	ゆるぐ	1
動詞	受けとる	1
動詞	とりだす	1
動詞	あずかる	1
動詞	引き立てる	1
動詞	思い止まる	1
動詞	てる	1
動詞	寄せる	1
動詞	まかり通る	1
動詞	まかれる	1
動詞	あやまつ	1
動詞	はじく	1
動詞	服す	1
動詞	おどりががる	1
動詞	とりなす	1
動詞	遅れる	1

動詞	見過ごす	1
動詞	通ずる	1
動詞	気がつく	1
動詞	たとえる	1
動詞	ひそむ	1
動詞	はむ	1
動詞	はまる	1
動詞	乱す	1
動詞	仕上げる	1
動詞	聞きつける	1
動詞	す	1
動詞	立ち直る	1
動詞	さかのぼる	1
動詞	通る	1
動詞	える	1
動詞	富める	1
動詞	荒れる	1
動詞	もる	1
動詞	へりくだる	1
動詞	表する	1
動詞	すてる	1

動詞	照らす	1
動詞	おとし入れる	1
動詞	催す	1
動詞	かわいがる	1
動詞	のびる	1
動詞	昇る	1
動詞	しめす	1
動詞	こらえる	1
動詞	はねる	1
動詞	泣く	1
動詞	見抜ける	1
動詞	書き直す	1
動詞	したう	1
動詞	さしはさむ	1
動詞	見下す	1
動詞	敬う	1
動詞	付す	1
動詞	生き抜く	1
動詞	勝ち抜く	1
動詞	儲かる	1
動詞	帰す	1

動詞	打ち上げる	1
動詞	終わる	1
動詞	かためる	1
動詞	挑む	1
動詞	着る	1
動詞	せめる	1
動詞	とりやめる	1
動詞	せまる	1
動詞	そろう	1
動詞	心得る	1
動詞	好む	1
動詞	そしる	1
動詞	忍ぶ	1
動詞	かりる	1
動詞	きれる	1
動詞	ぬぐう	1
動詞	かくまう	1
動詞	重んじる	1
動詞	こびる	1
動詞	たれる	1
動詞	なめる	1

動詞	見せかける	1
動詞	疑う	1
動詞	見限る	1
動詞	通せる	1
動詞	してやる	1
動詞	達す	1
動詞	知らせる	1
動詞	もらす	1
動詞	眠れる	1
動詞	のぞむ	1
動詞	裏切る	1
動詞	包む	1
動詞	おきる	1
動詞	つとまる	1
動詞	呈す	1
動詞	はらす	1
動詞	気づかう	1
動詞	おさえる	1
動詞	怒る	1
動詞	うるむ	1
動詞	よせる	1

動詞	謡う	1
動詞	諫める	1
動詞	限る	1
動詞	決めつける	1
動詞	焼く	1
動詞	わたる	1
動詞	こう	1
動詞	引き連れる	1
動詞	とける	1
動詞	けずる	1
動詞	なびく	1
動詞	つきそう	1
動詞	さらけだす	1
動詞	にじむ	1
動詞	流し込む	1
動詞	かわす	1
動詞	ひきかえる	1
動詞	見出せる	1
動詞	見守る	1
動詞	捧げる	1
動詞	はらう	1

動詞	にる	1
動詞	もりたてる	1
動詞	唱う	1
動詞	容れる	1
動詞	とぶ	1
動詞	打てる	1
動詞	はずれる	1
動詞	比する	1
動詞	敷く	1
動詞	度重なる	1
動詞	押しつける	1
動詞	すすぐ	1
動詞	召し捕る	1
動詞	飛ばす	1
動詞	こもる	1
動詞	持ちこたえる	1
動詞	いどむ	1
動詞	かたよる	1
動詞	かねあう	1
動詞	たどる	1
動詞	心する	1

動詞	決定づける	1
動詞	利す	1
動詞	欺く	1
動詞	移る	1
動詞	侮る	1
動詞	とらえる	1
動詞	ゆれる	1
動詞	歌う	1
動詞	生ずる	1
動詞	奪う	1
動詞	はたせる	1
動詞	踏み破る	1
動詞	追いやる	1
動詞	打ち込める	1
動詞	断ち切る	1
動詞	割る	1
動詞	攻め落とす	1
動詞	博す	1
動詞	崩れ落ちる	1
動詞	貴ぶ	1
動詞	先んずる	1

動詞	制す	1
動詞	あおぐ	1
動詞	歩ます	1
動詞	上る	1
動詞	たゆむ	1
動詞	殉じる	1
動詞	借る	1
動詞	うるおす	1
動詞	燃える	1
動詞	つつく	1
動詞	みせる	1
動詞	墮す	1
動詞	かたる	1
動詞	まとまる	1
動詞	さぐる	1
動詞	すえる	1
動詞	取り出す	1
動詞	申しつける	1
動詞	勇む	1
動詞	しずめる	1
動詞	収める	1

動詞	際す	1
動詞	まとめる	1
動詞	乗ずる	1
動詞	申し入れる	1
動詞	おびやかす	1
動詞	近づく	1
動詞	整う	1
動詞	切りぬく	1
動詞	あえぐ	1
動詞	費える	1
動詞	ふえる	1
動詞	思ふ	1
動詞	落ちのびる	1
動詞	さく	1
動詞	わかれる	1
動詞	立ち返る	1
動詞	つき合う	1
動詞	消す	1
動詞	生かせる	1
動詞	たえる	1
動詞	赴く	1

動詞	乗り越える	1
動詞	とりたてる	1
動詞	異なる	1
動詞	深める	1
動詞	亡くす	1
動詞	流れる	1
動詞	負かす	1
動詞	ことづける	1
動詞	信じる	1
動詞	準ずる	1
動詞	滅する	1
動詞	嘆ずる	1
動詞	措く	1
動詞	ひる	1
動詞	砕く	1
動詞	営む	1
動詞	そえる	1
動詞	つくりあげる	1
動詞	仕組む	1
動詞	臨む	1
動詞	さす	1

動詞	ぬれる	1
動詞	おびえる	1
動詞	動じる	1
動詞	課する	1
動詞	はなつ	1
動詞	ひざまづく	1
動詞	くみとる	1
動詞	みがく	1
動詞	投ずる	1
動詞	うろたえる	1
動詞	期する	1
動詞	憤る	1
動詞	呪う	1
動詞	重なる	1
動詞	とりかかる	1
動詞	きらう	1
動詞	念じる	1
動詞	買う	1
動詞	たせる	1
動詞	得する	1
動詞	決す	1

動詞	まつりあげる	1
動詞	ひるがえる	1
動詞	たやす	1
動詞	まく	1
動詞	込む	1
動詞	見定める	1
動詞	納める	1
動詞	打ち込む	1
動詞	おぼれる	1
動詞	銘じる	1
動詞	まどわす	1
動詞	見入る	1
動詞	命ずる	1
動詞	立ち退く	1
動詞	うかがう	1
動詞	打ち立てる	1
動詞	歩く	1
動詞	ちる	1
動詞	事欠く	1
動詞	裏づける	1
動詞	そう	1

動詞	有す	1
動詞	防げる	1
動詞	兼ねる	1
動詞	帯びる	1
動詞	きわ立つ	1
動詞	やりとげる	1
動詞	となりあわせる	1
動詞	のぼる	1
動詞	指さす	1
動詞	連れる	1
動詞	恐れ入る	1
動詞	害する	1
動詞	起きる	1
動詞	はいる	1
動詞	持たす	1
動詞	しゃべる	1
動詞	煮る	1
動詞	迫る	1
動詞	組合う	1
動詞	こめる	1
動詞	繁る	1

動詞	かしこまる	1
動詞	引きずる	1
動詞	こす	1
動詞	耐える	1
動詞	感ずる	1
動詞	あてはめる	1
動詞	即す	1
動詞	くわだてる	1
動詞	含める	1
動詞	なげうつ	1
動詞	きわめる	1
動詞	秘める	1
動詞	かくする	1
動詞	へだてる	1
動詞	めぐらす	1
動詞	割れる	1
動詞	持ち込む	1
動詞	乗り込む	1
動詞	説ける	1
動詞	かれる	1
動詞	かまう	1

動詞	落ちぶれる	1
動詞	織る	1
動詞	しのぐ	1
動詞	住む	1
動詞	たおす	1
動詞	誘う	1
動詞	さがる	1
動詞	苦しむ	1
動詞	倒れる	1
動詞	どる	1
動詞	及ぼす	1
動詞	かなえる	1
動詞	のべる	1
動詞	越える	1
動詞	下る	1
動詞	走る	1
動詞	よろう	1
動詞	やっつける	1
動詞	こたえる	1
動詞	憎む	1
動詞	助かる	1

動詞	さしあげる	1
動詞	しりぞける	1
動詞	当たる	1
動詞	賜る	1
動詞	そびれる	1
動詞	羨む	1
動詞	めす	1
動詞	ひかれる	1
動詞	ひびく	1
動詞	弾く	1
動詞	折れる	1
動詞	見かける	1
動詞	やれる	1
動詞	つくす	1
動詞	開く	1
動詞	運び出す	1
動詞	せきとめる	1
動詞	呼びかける	1
動詞	間にあう	1
動詞	直す	1
動詞	しばる	1

動詞	せばめる	1
動詞	ときはなつ	1
動詞	広げる	1
動詞	博する	1
動詞	溺れる	1
動詞	つもる	1
動詞	過ぎる	1
動詞	投げる	1
動詞	さからう	1
動詞	屈する	1
動詞	傷つく	1
動詞	とりあげる	1
動詞	わたす	1
動詞	行き届く	1
動詞	づける	1
動詞	事足る	1
動詞	乗せる	1
動詞	印す	1
動詞	見落とす	1
動詞	結ぶ	1
動詞	足る	1

--	--	--

ウェルチ (形容詞)

形容詞	ない	804
形容詞	新しい	120
形容詞	すばらしい	97
形容詞	よい	85
形容詞	高い	79
形容詞	いい	64
形容詞	大きい	63
形容詞	厳しい	63
形容詞	うまい	55
形容詞	強い	50
形容詞	長い	48
形容詞	正しい	37
形容詞	悪い	35
形容詞	早い	35
形容詞	難しい	34
形容詞	多い	31
形容詞	楽しい	28
形容詞	ふさわしい	24
形容詞	つらい	23

形容詞	詳しい	22
形容詞	若い	22
形容詞	激しい	20
形容詞	古い	18
形容詞	低い	18
形容詞	遅い	15
形容詞	少ない	15
形容詞	むずかしい	15
形容詞	面白い	15
形容詞	速い	15
形容詞	深い	12
形容詞	広い	12
形容詞	ありがたい	11
形容詞	ほしい	11
形容詞	ひどい	11
形容詞	美しい	11
形容詞	寒い	11
形容詞	親しい	10
形容詞	熱い	10
形容詞	細かい	9
形容詞	嬉しい	9
形容詞	近い	9

形容詞	苦しい	9
形容詞	甘い	9
形容詞	小さい	9
形容詞	鋭い	9
形容詞	しつこい	8
形容詞	凄まじい	8
形容詞	狭い	8
形容詞	すばやい	8
形容詞	幅広い	8
形容詞	恐ろしい	8
形容詞	数多い	8
形容詞	素早い	7
形容詞	弱い	7
形容詞	ほど遠い	7
形容詞	短い	7
形容詞	うれしい	6
形容詞	明るい	6
形容詞	おかしい	6
形容詞	良い	6
形容詞	白い	6
形容詞	忙しい	6
形容詞	遠い	5

形容詞	やさしい	5
形容詞	言うまでもない	5
形容詞	ばかばかしい	5
形容詞	痛い	5
形容詞	興味深い	4
形容詞	厚い	4
形容詞	安い	4
形容詞	めざましい	4
形容詞	重い	4
形容詞	粘り強い	4
形容詞	好ましい	4
形容詞	堅苦しい	3
形容詞	賢い	3
形容詞	うるさい	3
形容詞	まずい	3
形容詞	偉い	3
形容詞	軽い	3
形容詞	薄い	3
形容詞	芳しい	3
形容詞	辛い	3
形容詞	黄色い	3
形容詞	暗い	3

形容詞	くだらない	3
形容詞	思いがけない	3
形容詞	恥ずかしい	2
形容詞	奥深い	2
形容詞	くい	2
形容詞	よそよそしい	2
形容詞	かわいい	2
形容詞	浅い	2
形容詞	気まずい	2
形容詞	欲しい	2
形容詞	目ざましい	2
形容詞	おもしろい	2
形容詞	怖い	2
形容詞	心強い	2
形容詞	疑い深い	2
形容詞	淋しい	2
形容詞	ものすごい	2
形容詞	快い	2
形容詞	力強い	2
形容詞	あたたかい	2
形容詞	むなしい	2
形容詞	いち早い	2

形容詞	情けない	2
形容詞	気持ちよい	2
形容詞	よろしい	2
形容詞	赤い	2
形容詞	つまらない	2
形容詞	手厳しい	2
形容詞	とてつもない	2
形容詞	とんでもない	2
形容詞	珍しい	2
形容詞	望ましい	2
形容詞	ごちない	2
形容詞	濃い	2
形容詞	口うるさい	2
形容詞	またとない	2
形容詞	たくましい	2
形容詞	悔しい	2
形容詞	悲しい	2
形容詞	用心深い	2
形容詞	騒々しい	2
形容詞	華々しい	2
形容詞	可愛い	1
形容詞	何気ない	1

形容詞	おそろしい	1
形容詞	狭苦しい	1
形容詞	柔らかい	1
形容詞	痛ましい	1
形容詞	おめでたい	1
形容詞	ややこしい	1
形容詞	しろい	1
形容詞	めずらしい	1
形容詞	分厚い	1
形容詞	等しい	1
形容詞	危ない	1
形容詞	のろい	1
形容詞	得がたい	1
形容詞	乏しい	1
形容詞	待ち遠しい	1
形容詞	注意深い	1
形容詞	著しい	1
形容詞	しがない	1
形容詞	のっぴきならない	1
形容詞	古くさい	1
形容詞	いかつい	1
形容詞	痛々しい	1

形容詞	細い	1
形容詞	生々しい	1
形容詞	茶色い	1
形容詞	しぶとい	1
形容詞	尊い	1
形容詞	温かい	1
形容詞	ままならない	1
形容詞	馬鹿馬鹿しい	1
形容詞	とめどない	1
形容詞	感慨深い	1
形容詞	手ごわい	1
形容詞	どす黒い	1
形容詞	堅い	1
形容詞	臭い	1
形容詞	たまらない	1
形容詞	うるわしい	1
形容詞	固い	1
形容詞	焦げ臭い	1
形容詞	薄暗い	1
形容詞	恋しい	1
形容詞	ただしい	1
形容詞	そぐわない	1

形容詞	汚い	1
形容詞	からい	1
形容詞	ひと足早い	1
形容詞	おとなしい	1
形容詞	まるい	1
形容詞	まぶしい	1
形容詞	やかましい	1
形容詞	あえない	1
形容詞	果てしない	1
形容詞	もろい	1
形容詞	やすい	1
形容詞	数少ない	1
形容詞	もどかしい	1
形容詞	暖かい	1
形容詞	疑わしい	1
形容詞	手強い	1
形容詞	熱っぽい	1
形容詞	あしい	1
形容詞	いかめしい	1
形容詞	きめ細かい	1
形容詞	うとい	1
形容詞	目新しい	1

形容詞	ずるい	1
形容詞	青い	1
形容詞	ちかい	1
形容詞	苦い	1
形容詞	心地よい	1
形容詞	涙ぐましい	1
形容詞	鈍い	1
形容詞	あまい	1
形容詞	泥臭い	1
形容詞	せまい	1
形容詞	男らしい	1
形容詞	たやすい	1

ウェルチ (動詞)

動詞	する	5462
動詞	なる	1191
動詞	ある	949
動詞	できる	407
動詞	言う	374
動詞	いる	267
動詞	考える	245

動詞	思う	220
動詞	行く	153
動詞	わかる	152
動詞	持つ	137
動詞	見る	131
動詞	かける	124
動詞	入る	107
動詞	開く	100
動詞	知る	99
動詞	行なう	95
動詞	与える	94
動詞	出る	94
動詞	会う	90
動詞	聞く	89
動詞	受ける	82
動詞	出す	81
動詞	終わる	76
動詞	書く	74
動詞	示す	73
動詞	信じる	68
動詞	使う	67

動詞	答える	66
動詞	かかる	66
動詞	とる	64
動詞	伝える	62
動詞	感じる	62
動詞	変える	62
動詞	戻る	59
動詞	求める	58
動詞	知れる	60
動詞	来る	55
動詞	働く	54
動詞	つける	54
動詞	かかわる	54
動詞	呼ぶ	53
動詞	辞める	53
動詞	取り組む	52
動詞	繰り返す	51
動詞	変わる	50
動詞	選ぶ	49
動詞	つくる	48
動詞	気に入る	48

動詞	入れる	48
動詞	過ぎる	48
動詞	話す	47
動詞	決める	47
動詞	よる	47
動詞	上げる	45
動詞	教える	43
動詞	得る	43
動詞	認める	42
動詞	立つ	41
動詞	続ける	41
動詞	思える	40
動詞	すぐれる	40
動詞	違う	39
動詞	失う	39
動詞	待つ	39
動詞	務める	38
動詞	生まれる	38
動詞	まとめる	38
動詞	残る	37
動詞	あふれる	37

動詞	向かう	36
動詞	学ぶ	36
動詞	あげる	34
動詞	作る	34
動詞	起こる	34
動詞	始める	34
動詞	取る	32
動詞	訪ねる	32
動詞	過ごす	31
動詞	始まる	31
動詞	送る	31
動詞	乗る	31
動詞	忘れる	31
動詞	買う	30
動詞	(支) 払う	30
動詞	驚く	29
動詞	集まる	28
動詞	取り上げる	28
動詞	やる	28
動詞	抱える	28
動詞	楽しむ	28

動詞	加える	28
動詞	関する	28
動詞	上がる	27
動詞	探す	27
動詞	続く	27
動詞	とどまる	26
動詞	見える	26
動詞	離れる	26
動詞	帰る	25
動詞	集める	25
動詞	話し合う	25
動詞	めざす	25
動詞	見つける	25
動詞	遂げる	24
動詞	進む	24
動詞	果たす	24
動詞	決まる	24
動詞	生み出す	23
動詞	起きる	23
動詞	受け入れる	23
動詞	去る	23

動詞	超える	23
動詞	なれる	23
動詞	立てる	22
動詞	受け取る	22
動詞	頼む	22
動詞	出かける	22
動詞	飛ぶ	22
動詞	含める	22
動詞	気がつく	22
動詞	残す	21
動詞	思いつく	21
動詞	読む	21
動詞	活かす	21
動詞	戦う	21
動詞	すむ	20
動詞	なくなる	20
動詞	起こす	20
動詞	進める	20
動詞	訴える	20
動詞	見せる	20
動詞	育つ	19

動詞	現われる	19
動詞	勝つ	19
動詞	売る	19
動詞	加わる	19
動詞	掲げる	19
動詞	至る	19
動詞	もたらす	19
動詞	連れる	18
動詞	迎える	18
動詞	切る	18
動詞	支える	17
動詞	招く	17
動詞	置く	17
動詞	許す	17
動詞	数える	17
動詞	打つ	16
動詞	望む	16
動詞	間違う	16
動詞	動く	14
動詞	語る	14
動詞	育てる	14

動詞	引き継ぐ	14
動詞	走る	14
動詞	重ねる	14
動詞	やって来る	14
動詞	役立つ	14
動詞	広げる	13
動詞	もつ	13
動詞	もとづく	13
動詞	終わる	13
動詞	含む	13
動詞	心がける	13
動詞	やってくる	13
動詞	負ける	13
動詞	喜ぶ	13
動詞	助ける	12
動詞	つながる	12
動詞	つかむ	12
動詞	動かす	12
動詞	引き受ける	12
動詞	高める	12
動詞	やめる	12

動詞	なす	12
動詞	いえる	12
動詞	叩く	12
動詞	見いだす	12
動詞	述べる	11
動詞	見つかる	11
動詞	増える	11
動詞	耐える	11
動詞	守る	11
動詞	絞る	11
動詞	引き出す	11
動詞	就く	11
動詞	届く	11
動詞	言える	11
動詞	持ち込む	11
動詞	役に立つ	11
動詞	聞かす	11
動詞	応える	11
動詞	こなす	11
動詞	とらえる	10
動詞	売り込む	10

動詞	叫ぶ	10
動詞	下す	10
動詞	陥る	10
動詞	励ます	10
動詞	付き合う	10
動詞	とられる	10
動詞	賭ける	10
動詞	着く	10
動詞	える	10
動詞	足りる	10
動詞	思い知らす	10
動詞	落ちる	10
動詞	犯す	10
動詞	いたる	10
動詞	死ぬ	10
動詞	流す	10
動詞	限る	10
動詞	もらう	10
動詞	きく	10
動詞	乗せる	9
動詞	降りる	9

動詞	迫る	9
動詞	困る	9
動詞	移す	9
動詞	あたる	9
動詞	まとまる	9
動詞	生きる	9
動詞	恵まれる	9
動詞	またす	9
動詞	結びつく	9
動詞	回す	9
動詞	切れる	9
動詞	据える	9
動詞	任せる	9
動詞	負う	9
動詞	間に合う	9
動詞	くる	9
動詞	問う	9
動詞	知らせる	9
動詞	載る	9
動詞	雇う	9
動詞	はずれる	9

動詞	できあがる	9
動詞	食べる	9
動詞	したがる	9
動詞	手がける	9
動詞	携わる	9
動詞	譲る	9
動詞	なくす	9
動詞	引っ張る	9
動詞	推す	9
動詞	笑う	9
動詞	さらす	8
動詞	選び出す	8
動詞	歩く	8
動詞	練り上げる	8
動詞	保つ	8
動詞	かわす	8
動詞	増す	8
動詞	埋める	8
動詞	もれる	8
動詞	飛び出す	8
動詞	落とす	8

動詞	着る	8
動詞	願う	8
動詞	近づく	8
動詞	勧める	8
動詞	貸す	8
動詞	見守る	8
動詞	確かめる	8
動詞	思い出す	8
動詞	見つめる	8
動詞	恐れる	8
動詞	運ぶ	8
動詞	知り合う	8
動詞	思い切る	8
動詞	くれる	8
動詞	試す	8
動詞	抱きしめる	8
動詞	止める	8
動詞	眺める	8
動詞	使える	8
動詞	投げる	8
動詞	持てる	8

動詞	奪う	8
動詞	計る	7
動詞	知らず	7
動詞	味わう	7
動詞	引き留める	7
動詞	付ける	7
動詞	立ち上がる	7
動詞	暮らす	7
動詞	積み上げる	7
動詞	追う	7
動詞	応じる	7
動詞	向く	7
動詞	取り入れる	7
動詞	締めくくる	7
動詞	困む	7
動詞	捨てる	7
動詞	伴う	7
動詞	悩ます	7
動詞	唱える	7
動詞	抜ける	7
動詞	育て上げる	7

動詞	飛び込む	7
動詞	調べる	7
動詞	外す	7
動詞	下がる	7
動詞	のぼる	7
動詞	遅れる	7
動詞	生まれ変わる	7
動詞	抜け出す	7
動詞	話せる	7
動詞	つまる	7
動詞	通る	6
動詞	満たす	6
動詞	あける	6
動詞	盛り込む	6
動詞	説く	6
動詞	争う	6
動詞	深める	6
動詞	押しつける	6
動詞	減る	6
動詞	祝う	6
動詞	下回る	6

動詞	異なる	6
動詞	わたる	6
動詞	遊ぶ	6
動詞	狂う	6
動詞	申し出る	6
動詞	働ける	6
動詞	膨らむ	6
動詞	取り組める	6
動詞	欠ける	6
動詞	及ぶ	6
動詞	昇る	6
動詞	富む	6
動詞	ぼる	6
動詞	経つ	6
動詞	握る	6
動詞	あがる	6
動詞	築き上げる	6
動詞	渡す	6
動詞	載せる	6
動詞	悩む	6
動詞	貼る	6

動詞	落ち込む	6
動詞	あてはまる	6
動詞	飛び乗る	6
動詞	でき上がる	6
動詞	生じる	6
動詞	たどり着く	6
動詞	見つけ出す	6
動詞	結ぶ	6
動詞	生き残る	6
動詞	ためらう	6
動詞	名づける	6
動詞	注ぎ込む	6
動詞	組み合わせる	6
動詞	黙る	6
動詞	延ばす	6
動詞	はずす	6
動詞	試みる	6
動詞	抑える	6
動詞	まとめあげる	6
動詞	導く	6
動詞	浮かぶ	6

動詞	触れる	6
動詞	返る	6
動詞	住む	6
動詞	流れる	6
動詞	表わす	6
動詞	とれる	6
動詞	誤る	6
動詞	掘る	6
動詞	振り返る	6
動詞	満ちる	6
動詞	ちがう	5
動詞	くださ	5
動詞	隠れる	5
動詞	行う	5
動詞	しがみつく	5
動詞	抱き合う	5
動詞	漏れる	5
動詞	つかまえる	5
動詞	騒ぐ	5
動詞	急ぐ	5
動詞	詰まる	5

動詞	並べる	5
動詞	促す	5
動詞	経る	5
動詞	吹き込む	5
動詞	分ける	5
動詞	脅かす	5
動詞	おく	5
動詞	組む	5
動詞	並ぶ	5
動詞	取り出す	5
動詞	送り込む	5
動詞	戻す	5
動詞	責める	5
動詞	呼び戻す	5
動詞	詰める	5
動詞	嫌う	5
動詞	図る	5
動詞	担う	5
動詞	問いただす	5
動詞	すわる	5
動詞	越える	5

動詞	あきらめる	5
動詞	告げる	5
動詞	映る	5
動詞	からかう	5
動詞	見合う	5
動詞	盗む	5
動詞	起こせる	5
動詞	頼る	5
動詞	誘う	5
動詞	報じる	5
動詞	出せる	5
動詞	接する	5
動詞	強まる	5
動詞	結論づける	5
動詞	除く	5
動詞	楽しむ	5
動詞	われる	5
動詞	切り離す	5
動詞	取り除く	5
動詞	設ける	5
動詞	通じる	5

動詞	押す	5
動詞	もらえる	5
動詞	はまる	5
動詞	心得る	5
動詞	活気づく	4
動詞	見直す	4
動詞	はいる	4
動詞	通う	4
動詞	和らげる	4
動詞	推し進める	4
動詞	鳴らす	4
動詞	くたびれる	4
動詞	達する	4
動詞	植える	4
動詞	突きつける	4
動詞	固める	4
動詞	押し上げる	4
動詞	抜く	4
動詞	逃れる	4
動詞	接す	4
動詞	吹き飛ばす	4

動詞	行き詰まる	4
動詞	引き下げる	4
動詞	めぐる	4
動詞	食う	4
動詞	追い出す	4
動詞	滞る	4
動詞	作りあげる	4
動詞	発つ	4
動詞	収める	4
動詞	落ち着く	4
動詞	断る	4
動詞	浮かれる	4
動詞	なさる	4
動詞	引き起こす	4
動詞	読み上げる	4
動詞	書き込む	4
動詞	寄せる	4
動詞	探る	4
動詞	脱ぐ	4
動詞	交わす	4
動詞	及ぼす	4

動詞	そろう	4
動詞	倒れる	4
動詞	充てる	4
動詞	戦える	4
動詞	代わる	4
動詞	つぶす	4
動詞	詰め込む	4
動詞	渦巻く	4
動詞	折れる	4
動詞	たがう	4
動詞	広がる	4
動詞	飾る	4
動詞	つなぎとめる	4
動詞	打ち込む	4
動詞	臨む	4
動詞	開ける	4
動詞	注ぐ	4
動詞	誇る	4
動詞	投じる	4
動詞	生き残れる	4
動詞	振る舞う	4

動詞	割る	4
動詞	取りつける	4
動詞	とめる	4
動詞	巻き込む	4
動詞	手放す	4
動詞	飛びつく	4
動詞	問いかける	4
動詞	配る	4
動詞	探し求める	4
動詞	褒める	4
動詞	ぶつかる	4
動詞	記す	4
動詞	稼げる	4
動詞	考えつく	4
動詞	込める	4
動詞	おろす	4
動詞	演じる	4
動詞	振りまく	4
動詞	おさまる	4
動詞	出向く	4
動詞	取れる	4

動詞	免れる	4
動詞	付け加える	4
動詞	伸ばす	4
動詞	深まる	4
動詞	施す	4
動詞	覚える	4
動詞	目指す	4
動詞	受け止める	4
動詞	返す	4
動詞	乗り込む	4
動詞	満つ	4
動詞	こなせる	4
動詞	あてる	4
動詞	下げる	4
動詞	下ろす	4
動詞	任す	4
動詞	負かす	4
動詞	撮る	4
動詞	うかがう	4
動詞	吹き飛ばす	4
動詞	湧く	4

動詞	割り当てる	4
動詞	踏む	4
動詞	整う	4
動詞	手渡す	4
動詞	控える	4
動詞	持ち合わせる	4
動詞	消える	4
動詞	減らす	4
動詞	数え切れる	4
動詞	つくりあげる	4
動詞	生む	4
動詞	引っ越す	4
動詞	張る	4
動詞	書き出す	4
動詞	踏みとどまる	4
動詞	尽くす	4
動詞	怒り狂う	3
動詞	動き回る	3
動詞	疲れる	3
動詞	あわせる	3
動詞	たまる	3

動詞	まかせる	3
動詞	課す	3
動詞	持ちかける	3
動詞	取り付ける	3
動詞	冒す	3
動詞	強める	3
動詞	仕る	3
動詞	当たる	3
動詞	浴びる	3
動詞	そろえる	3
動詞	割れる	3
動詞	刻みつける	3
動詞	救う	3
動詞	押し込む	3
動詞	考え抜く	3
動詞	兼ねる	3
動詞	浮かべる	3
動詞	見舞う	3
動詞	追いかける	3
動詞	放つ	3
動詞	裏付ける	3

動詞	沈む	3
動詞	傷つける	3
動詞	負える	3
動詞	打ち明ける	3
動詞	打ち出す	3
動詞	打ち切る	3
動詞	ひしぐ	3
動詞	巻き起こす	3
動詞	隠す	3
動詞	建てる	3
動詞	取り込む	3
動詞	高まる	3
動詞	浮かび上がる	3
動詞	離す	3
動詞	努める	3
動詞	振る	3
動詞	もぎとる	3
動詞	引き取る	3
動詞	仕上げる	3
動詞	こもる	3
動詞	逃げる	3

動詞	突っ込む	3
動詞	悩み抜く	3
動詞	明かす	3
動詞	持ち出す	3
動詞	見習う	3
動詞	殴る	3
動詞	就ける	3
動詞	たどる	3
動詞	亡くなる	3
動詞	仕入れる	3
動詞	引ける	3
動詞	崩す	3
動詞	削る	3
動詞	感じとる	3
動詞	みせる	3
動詞	欠かす	3
動詞	伝わる	3
動詞	跳ね上がる	3
動詞	かまう	3
動詞	泳ぐ	3
動詞	埋まる	3

動詞	貫く	3
動詞	破る	3
動詞	立たす	3
動詞	継ぐ	3
動詞	ほぐれる	3
動詞	みえる	3
動詞	甘やかす	3
動詞	手伝う	3
動詞	結びつける	3
動詞	見極める	3
動詞	浴びせる	3
動詞	かせる	3
動詞	踏み入れる	3
動詞	問い詰める	3
動詞	づける	3
動詞	合える	3
動詞	働きかける	3
動詞	割く	3
動詞	ありえる	3
動詞	讃える	3
動詞	見きわめる	3

動詞	あおる	3
動詞	放る	3
動詞	歩む	3
動詞	揃う	3
動詞	はさむ	3
動詞	呼び出す	3
動詞	あきれる	3
動詞	絶える	3
動詞	考え出す	3
動詞	取りかかる	3
動詞	逆らう	3
動詞	慌てる	3
動詞	愛す	3
動詞	寝る	3
動詞	腰掛ける	3
動詞	夢見る	3
動詞	宛てる	3
動詞	葬る	3
動詞	連れ出す	3
動詞	届ける	3
動詞	受け継ぐ	3

動詞	築ける	3
動詞	こぎ着ける	3
動詞	いただける	3
動詞	講じる	3
動詞	伸びる	3
動詞	目立つ	3
動詞	かえる	3
動詞	送り出す	3
動詞	惚れ込む	3
動詞	称える	3
動詞	いじめる	3
動詞	裏切る	3
動詞	壊す	3
動詞	当てる	3
動詞	考え直す	3
動詞	広める	3
動詞	交す	3
動詞	重なる	3
動詞	借りる	3
動詞	見込む	3
動詞	すませる	3

動詞	巻く	3
動詞	探し出す	3
動詞	損なう	2
動詞	休む	2
動詞	口走る	2
動詞	好む	2
動詞	ぶつける	2
動詞	呑み込む	2
動詞	ばれる	2
動詞	持ち上げる	2
動詞	振るう	2
動詞	はめ込む	2
動詞	かせぐ	2
動詞	悟る	2
動詞	亡くす	2
動詞	吊る	2
動詞	駆けつける	2
動詞	たどりつく	2
動詞	携える	2
動詞	指さす	2
動詞	誇れる	2

動詞	活かる	2
動詞	くぐり抜ける	2
動詞	飛び抜ける	2
動詞	なじむ	2
動詞	書ける	2
動詞	出迎える	2
動詞	うる	2
動詞	揃える	2
動詞	上る	2
動詞	はかる	2
動詞	泣く	2
動詞	走り出す	2
動詞	闘う	2
動詞	もぐり込む	2
動詞	呼び寄せる	2
動詞	送り届ける	2
動詞	ずれる	2
動詞	退く	2
動詞	壊れる	2
動詞	駆け込む	2
動詞	沈める	2

動詞	ふるう	2
動詞	投げかける	2
動詞	別れる	2
動詞	ひる	2
動詞	吊り上げる	2
動詞	殺す	2
動詞	へる	2
動詞	かわいがる	2
動詞	振り分ける	2
動詞	聞き入れる	2
動詞	止まる	2
動詞	傾げる	2
動詞	参る	2
動詞	くすぶる	2
動詞	燃え上がる	2
動詞	呈す	2
動詞	見送る	2
動詞	立ち直る	2
動詞	従う	2
動詞	焼く	2
動詞	震える	2

動詞	凍る	2
動詞	帯びる	2
動詞	触る	2
動詞	値切る	2
動詞	舞い戻る	2
動詞	こめる	2
動詞	迎え入れる	2
動詞	買える	2
動詞	成り立つ	2
動詞	行ける	2
動詞	まざる	2
動詞	定める	2
動詞	かなう	2
動詞	遭う	2
動詞	反す	2
動詞	たとえる	2
動詞	持ち上がる	2
動詞	下せる	2
動詞	切り抜ける	2
動詞	分かつ	2
動詞	整える	2

動詞	切り返す	2
動詞	包む	2
動詞	組み入れる	2
動詞	さえぎる	2
動詞	いいかえる	2
動詞	歩き回る	2
動詞	化ける	2
動詞	駆ける	2
動詞	残れる	2
動詞	助かる	2
動詞	支払える	2
動詞	質す	2
動詞	倒す	2
動詞	見届ける	2
動詞	納める	2
動詞	引き下がる	2
動詞	背負う	2
動詞	見込める	2
動詞	捧げる	2
動詞	引き戻す	2
動詞	おごる	2

動詞	うなづく	2
動詞	まじる	2
動詞	曇る	2
動詞	転じる	2
動詞	欠く	2
動詞	言い渡す	2
動詞	切り出す	2
動詞	蹴飛ばす	2
動詞	助け合う	2
動詞	頑張る	2
動詞	差し戻す	2
動詞	かもす	2
動詞	凍りつく	2
動詞	揉む	2
動詞	長引く	2
動詞	並外れる	2
動詞	やむをえる	2
動詞	締める	2
動詞	思い知る	2
動詞	煩わせる	2
動詞	驚かす	2

動詞	いらだつ	2
動詞	ほする	2
動詞	きる	2
動詞	見張る	2
動詞	望める	2
動詞	わきまえる	2
動詞	かぐ	2
動詞	買い取る	2
動詞	あてがう	2
動詞	果たせる	2
動詞	作りだす	2
動詞	根づく	2
動詞	抱え込む	2
動詞	吹っ飛ぶ	2
動詞	切り込む	2
動詞	正す	2
動詞	つまづく	2
動詞	近づける	2
動詞	とどめる	2
動詞	投げ込む	2
動詞	しゃべる	2

動詞	にる	2
動詞	投げ捨てる	2
動詞	勤める	2
動詞	拾う	2
動詞	入り込む	2
動詞	呼びかける	2
動詞	投げ出す	2
動詞	覚ます	2
動詞	飛び回る	2
動詞	陣取る	2
動詞	もったいぶる	2
動詞	題す	2
動詞	物語る	2
動詞	際立つ	2
動詞	奪い取る	2
動詞	打ち上げる	2
動詞	焦げつく	2
動詞	おっしゃる	2
動詞	まく	2
動詞	疑う	2
動詞	惜しむ	2

動詞	埋もれる	2
動詞	勝る	2
動詞	怒る	2
動詞	奏す	2
動詞	怒鳴る	2
動詞	取り戻す	2
動詞	込み入る	2
動詞	逸す	2
動詞	差し押さえる	2
動詞	だます	2
動詞	広まる	2
動詞	駆け寄る	2
動詞	口ごもる	2
動詞	導き出す	2
動詞	ひっくり返す	2
動詞	教わる	2
動詞	静まり返る	2
動詞	はずむ	2
動詞	ならう	2
動詞	論じる	2
動詞	見逃す	2

動詞	遅らせる	2
動詞	捉える	2
動詞	盛り上げる	2
動詞	襲う	2
動詞	煽る	2
動詞	取り仕切る	2
動詞	足す	2
動詞	繰り広げる	2
動詞	ともなう	2
動詞	備わる	2
動詞	持ち帰る	2
動詞	委ねる	2
動詞	うなる	2
動詞	つむる	2
動詞	引きずる	2
動詞	感じ取る	2
動詞	すすめる	2
動詞	踏み込む	2
動詞	なびく	2
動詞	絞り出す	2
動詞	見つけ出せる	2

動詞	作れる	2
動詞	差し込む	2
動詞	代える	2
動詞	消す	2
動詞	つかえる	2
動詞	ふれる	2
動詞	ただよう	2
動詞	書き上げる	2
動詞	混ぜる	2
動詞	くだける	2
動詞	出遅れる	2
動詞	とりやめる	2
動詞	閉じ込める	2
動詞	冷やす	2
動詞	光る	2
動詞	やり合う	2
動詞	吸う	2
動詞	頼み込む	2
動詞	見過ごす	2
動詞	留まる	2
動詞	さらう	2

動詞	立ち寄る	2
動詞	託す	2
動詞	押し入る	2
動詞	さぼる	2
動詞	見出す	2
動詞	つめる	2
動詞	取り合う	2
動詞	下る	2
動詞	花開く	2
動詞	盛り上がる	2
動詞	話し合える	2
動詞	のせる	2
動詞	味わえる	2
動詞	投げつける	2
動詞	着替える	2
動詞	覗く	2
動詞	見当たる	2
動詞	生かす	2
動詞	かけ離れる	2
動詞	揺さぶる	2
動詞	撃つ	2

動詞	強いる	2
動詞	輝く	2
動詞	響く	2
動詞	叱る	2
動詞	申し込む	2
動詞	尽きる	2
動詞	劣る	2
動詞	痛む	2
動詞	ランクづける	2
動詞	しかる	2
動詞	おぼえる	2
動詞	優れる	2
動詞	運び込む	2
動詞	色褪せる	2
動詞	荒れる	2
動詞	横たわる	2
動詞	観る	2
動詞	分かれる	2
動詞	立ち向かう	2
動詞	引き揚げる	2
動詞	さばく	1

動詞	冷める	1
動詞	賄う	1
動詞	思いとどまる	1
動詞	現れる	1
動詞	つとめる	1
動詞	かけられる	1
動詞	とりつける	1
動詞	もむ	1
動詞	かき込む	1
動詞	うたう	1
動詞	萎える	1
動詞	のる	1
動詞	誓う	1
動詞	やり直す	1
動詞	うだる	1
動詞	倒れ込む	1
動詞	揺らぐ	1
動詞	勝てる	1
動詞	解く	1
動詞	跳ぶ	1
動詞	見なす	1

動詞	かこつ	1
動詞	拓く	1
動詞	沁みる	1
動詞	はぐらかす	1
動詞	突っ走る	1
動詞	片づける	1
動詞	なめる	1
動詞	問い質す	1
動詞	のさばる	1
動詞	根付く	1
動詞	留まれる	1
動詞	まかり通る	1
動詞	散りばめる	1
動詞	ちる	1
動詞	かぎる	1
動詞	たしなめる	1
動詞	濁す	1
動詞	募る	1
動詞	甘んじる	1
動詞	だく	1
動詞	悔い改める	1

動詞	休まる	1
動詞	からむ	1
動詞	徹す	1
動詞	行き着く	1
動詞	あたりちらす	1
動詞	したう	1
動詞	沸き上がる	1
動詞	さす	1
動詞	振り向く	1
動詞	しる	1
動詞	食い下がる	1
動詞	這い出す	1
動詞	陥れる	1
動詞	痛める	1
動詞	混む	1
動詞	たれる	1
動詞	測る	1
動詞	ばてる	1
動詞	つかう	1
動詞	くつつく	1
動詞	見放す	1

動詞	なぞらえる	1
動詞	覚める	1
動詞	差しかかる	1
動詞	割り引く	1
動詞	奪い合う	1
動詞	ふう	1
動詞	待ち受ける	1
動詞	めがける	1
動詞	はぎ取る	1
動詞	こわばる	1
動詞	あらためる	1
動詞	そむける	1
動詞	見積もる	1
動詞	慣れる	1
動詞	わする	1
動詞	居あわせる	1
動詞	吐き出す	1
動詞	追い払う	1
動詞	吹きまくる	1
動詞	閉める	1
動詞	囁く	1

動詞	吹き出す	1
動詞	目ざす	1
動詞	かきたてる	1
動詞	辞す	1
動詞	固まる	1
動詞	勇む	1
動詞	打って出る	1
動詞	怯える	1
動詞	引き換える	1
動詞	崇める	1
動詞	司る	1
動詞	見立てる	1
動詞	待ちかねる	1
動詞	まつ	1
動詞	追いつめる	1
動詞	称す	1
動詞	配す	1
動詞	集まれる	1
動詞	迎え撃つ	1
動詞	好く	1
動詞	うつろう	1

動詞	まぎれる	1
動詞	はばむ	1
動詞	光らせる	1
動詞	送り返す	1
動詞	例える	1
動詞	発する	1
動詞	奮い起こす	1
動詞	学びとる	1
動詞	つぐなう	1
動詞	攻め込む	1
動詞	張りつめる	1
動詞	集う	1
動詞	乾く	1
動詞	ほころびる	1
動詞	育む	1
動詞	年老いる	1
動詞	救い出す	1
動詞	落ち着き払う	1
動詞	介す	1
動詞	見せびらかす	1
動詞	つかまる	1

動詞	過ごせる	1
動詞	与る	1
動詞	おびえる	1
動詞	替える	1
動詞	しかける	1
動詞	義務づける	1
動詞	生き抜く	1
動詞	仕組む	1
動詞	閉じる	1
動詞	世慣れる	1
動詞	ほのめかす	1
動詞	取り返す	1
動詞	笑わせる	1
動詞	吊り上がる	1
動詞	繰る	1
動詞	駆り立てる	1
動詞	おさえる	1
動詞	まぜっかえす	1
動詞	申し立てる	1
動詞	滅ぼす	1
動詞	ぶちこわす	1

動詞	突る	1
動詞	歌う	1
動詞	収まる	1
動詞	さがる	1
動詞	頬張る	1
動詞	向き合う	1
動詞	鳴く	1
動詞	高鳴る	1
動詞	次ぐ	1
動詞	突き止める	1
動詞	用いる	1
動詞	狙う	1
動詞	卸す	1
動詞	縮める	1
動詞	話し込む	1
動詞	けなす	1
動詞	務まる	1
動詞	よろこぶ	1
動詞	湿る	1
動詞	より分ける	1
動詞	関わる	1

動詞	はする	1
動詞	打ち勝つ	1
動詞	よこす	1
動詞	使いこなす	1
動詞	博す	1
動詞	諮る	1
動詞	ひっくり返せる	1
動詞	へつらう	1
動詞	削ぐ	1
動詞	掘り出す	1
動詞	見て取れる	1
動詞	掘り起こす	1
動詞	くむ	1
動詞	はじまる	1
動詞	ひやかす	1
動詞	交える	1
動詞	癒す	1
動詞	つれる	1
動詞	抜きん出る	1
動詞	取り去る	1
動詞	それる	1

動詞	押し寄せる	1
動詞	燃やす	1
動詞	閃く	1
動詞	軋る	1
動詞	うらぶれる	1
動詞	耽る	1
動詞	適す	1
動詞	便る	1
動詞	薄らぐ	1
動詞	引き締まる	1
動詞	さまよう	1
動詞	預ける	1
動詞	待てる	1
動詞	めぐりあえる	1
動詞	振り切る	1
動詞	ひらめく	1
動詞	隣る	1
動詞	誹る	1
動詞	積み重なる	1
動詞	してやる	1
動詞	煮詰める	1

動詞	向かい合う	1
動詞	たたく	1
動詞	煮やす	1
動詞	すごす	1
動詞	のしかかる	1
動詞	並べ立てる	1
動詞	採り入れる	1
動詞	くちる	1
動詞	飾りたてる	1
動詞	蹴る	1
動詞	学べる	1
動詞	括る	1
動詞	表する	1
動詞	呼び起こす	1
動詞	寄る	1
動詞	降り注ぐ	1
動詞	出しゃばる	1
動詞	とまどう	1
動詞	科す	1
動詞	かたまる	1
動詞	欺く	1

動詞	打ち合せる	1
動詞	退ける	1
動詞	位置づける	1
動詞	言い換える	1
動詞	徹する	1
動詞	まかす	1
動詞	濡れる	1
動詞	省く	1
動詞	誉める	1
動詞	あく	1
動詞	頼れる	1
動詞	ざする	1
動詞	突き返す	1
動詞	つねる	1
動詞	引き継げる	1
動詞	威張る	1
動詞	つくれる	1
動詞	いかれる	1
動詞	印象づける	1
動詞	贈る	1
動詞	隔てる	1

動詞	くらむ	1
動詞	ふさぐ	1
動詞	垂れる	1
動詞	折り曲げる	1
動詞	待ち望む	1
動詞	見定める	1
動詞	凝り固まる	1
動詞	伏せる	1
動詞	塞がる	1
動詞	尋ねる	1
動詞	汚す	1
動詞	かんじる	1
動詞	噴き出す	1
動詞	食い込む	1
動詞	走れる	1
動詞	起る	1
動詞	鎮める	1
動詞	かしこまる	1
動詞	組み込む	1
動詞	立ち回る	1
動詞	送れる	1

動詞	差し引く	1
動詞	せる	1
動詞	渡せる	1
動詞	似つく	1
動詞	立ち去る	1
動詞	はびこる	1
動詞	飛び跳ねる	1
動詞	つまむ	1
動詞	絞め殺す	1
動詞	崩れ落ちる	1
動詞	舞い込む	1
動詞	題する	1
動詞	なける	1
動詞	触れ回る	1
動詞	突っ切る	1
動詞	もらす	1
動詞	ゆだねる	1
動詞	倣う	1
動詞	挑める	1
動詞	渡り合える	1
動詞	ねじ曲げる	1

動詞	禁じる	1
動詞	競い合う	1
動詞	飛びのる	1
動詞	あわてる	1
動詞	組み上げる	1
動詞	飼う	1
動詞	先がける	1
動詞	騙す	1
動詞	ごまかせる	1
動詞	飛び散る	1
動詞	喰う	1
動詞	妨げる	1
動詞	浴びせかける	1
動詞	若返る	1
動詞	住み着く	1
動詞	見かける	1
動詞	とりつく	1
動詞	尽す	1
動詞	なみいる	1
動詞	憑かれる	1
動詞	たたずむ	1

動詞	束ねる	1
動詞	探り当てる	1
動詞	書き記す	1
動詞	眠れる	1
動詞	利す	1
動詞	空く	1
動詞	入り込める	1
動詞	たたえる	1
動詞	通りかかる	1
動詞	突き当たる	1
動詞	温める	1
動詞	ぶす	1
動詞	よみがえる	1
動詞	ほほえむ	1
動詞	こける	1
動詞	つくり上げる	1
動詞	こまぬく	1
動詞	止す	1
動詞	思い出せる	1
動詞	滲む	1
動詞	轢き殺す	1

動詞	負わす	1
動詞	手こずる	1
動詞	膨らます	1
動詞	押しまくる	1
動詞	書き立てる	1
動詞	嘆く	1
動詞	構う	1
動詞	授ける	1
動詞	とまる	1
動詞	拭く	1
動詞	育てあげる	1
動詞	憧れる	1
動詞	売り上げる	1
動詞	すます	1
動詞	相次ぐ	1
動詞	見落とす	1
動詞	引き払う	1
動詞	とがる	1
動詞	見積る	1
動詞	勢いづく	1
動詞	明ける	1

動詞	にらむ	1
動詞	かがる	1
動詞	思い描く	1
動詞	乗り切る	1
動詞	惹く	1
動詞	いづ	1
動詞	まき散らす	1
動詞	向き直る	1
動詞	増やせる	1
動詞	立ち直れる	1
動詞	はじき出せる	1
動詞	意気込む	1
動詞	買い戻す	1
動詞	馴れる	1
動詞	くすむ	1
動詞	見失う	1
動詞	かがむ	1
動詞	ためこむ	1
動詞	つけ加える	1
動詞	探り出す	1
動詞	呼べる	1

動詞	いっす	1
動詞	拭う	1
動詞	蓄える	1
動詞	張り合う	1
動詞	憤る	1
動詞	紛れる	1
動詞	乗っ取る	1
動詞	鳴る	1
動詞	かばう	1
動詞	刺す	1
動詞	あぶりだす	1
動詞	被る	1
動詞	立てかける	1
動詞	切り捨てる	1
動詞	聴く	1
動詞	振れる	1
動詞	絞める	1
動詞	見据える	1
動詞	ほめちぎる	1
動詞	祈る	1
動詞	報う	1

動詞	急ぐ	1
動詞	取り次ぐ	1
動詞	巡る	1
動詞	ゐる	1
動詞	書きなぐる	1
動詞	賄える	1
動詞	消え失せる	1
動詞	折り合う	1
動詞	のべる	1
動詞	受け持つ	1
動詞	隣り合わせる	1
動詞	逃げ出す	1
動詞	片づく	1
動詞	しでかす	1
動詞	銘じる	1
動詞	さめる	1
動詞	生まれつく	1
動詞	重んじる	1
動詞	諫める	1
動詞	開け放す	1
動詞	伸ばせる	1

動詞	紛れ込む	1
動詞	こねる	1
動詞	売り切れる	1
動詞	いたむ	1
動詞	やみつく	1
動詞	まえる	1
動詞	早める	1
動詞	奏でる	1
動詞	患う	1
動詞	思い悩む	1
動詞	授かる	1
動詞	属す	1
動詞	よりかかる	1
動詞	臨める	1
動詞	ふんぞりかえる	1
動詞	跳ね返る	1
動詞	おこる	1
動詞	払える	1
動詞	ひそめる	1
動詞	会える	1
動詞	追い込む	1

動詞	飛び交う	1
動詞	戻れる	1
動詞	縛る	1
動詞	渡る	1
動詞	やわらげる	1
動詞	居る	1
動詞	沿う	1
動詞	持ち込める	1
動詞	むくむ	1
動詞	擁する	1
動詞	尽くせる	1
動詞	使い切る	1
動詞	散る	1
動詞	儲ける	1
動詞	ちなむ	1
動詞	侮る	1
動詞	図れる	1
動詞	洗い出す	1
動詞	泊まる	1
動詞	訝る	1
動詞	老いぼれる	1

動詞	働かせる	1
動詞	さらけ出す	1
動詞	およぶ	1
動詞	話しかける	1
動詞	かき消す	1
動詞	見上げる	1
動詞	言い当てる	1
動詞	ありつく	1
動詞	つくり出す	1
動詞	息せき切る	1
動詞	取りやめる	1
動詞	ぶつ	1
動詞	きれる	1
動詞	しく	1
動詞	つきまとう	1
動詞	思いがける	1
動詞	持ち歩ける	1
動詞	しまう	1
動詞	かなえる	1
動詞	ころがる	1
動詞	すり減らす	1

動詞	張れる	1
動詞	飛び込める	1
動詞	書きたてる	1
動詞	打ち砕く	1
動詞	取り消す	1
動詞	そがれる	1
動詞	上がれる	1
動詞	砕ける	1
動詞	思い込む	1
動詞	なじめる	1
動詞	走り抜ける	1
動詞	帰す	1
動詞	見渡せる	1
動詞	解きほぐす	1
動詞	縫う	1
動詞	聞き返す	1
動詞	着せる	1
動詞	聞き出す	1
動詞	寄せつける	1
動詞	照らす	1
動詞	うなずける	1

動詞	押し通す	1
動詞	むしり取る	1
動詞	刈り上げる	1
動詞	言い捨てる	1
動詞	近寄る	1
動詞	呑みこむ	1
動詞	動ける	1
動詞	こす	1
動詞	受け流す	1
動詞	ぶちまける	1
動詞	睨む	1
動詞	果てる	1
動詞	動きだす	1
動詞	かつぐ	1
動詞	走り回る	1
動詞	ぬれる	1
動詞	持ち歩く	1
動詞	匂わせる	1
動詞	まわす	1
動詞	はる	1
動詞	かむ	1

動詞	編み出す	1
動詞	とびかう	1
動詞	群がる	1
動詞	読み直す	1
動詞	打ち立てる	1
動詞	踏み切れる	1
動詞	入れ代わる	1
動詞	仰ぐ	1
動詞	灯る	1
動詞	切り詰める	1
動詞	使い分ける	1
動詞	なぐ	1
動詞	替わる	1
動詞	見受ける	1
動詞	涸れる	1
動詞	重なり合う	1
動詞	気どる	1
動詞	でっちあげる	1
動詞	挫ける	1
動詞	まねる	1
動詞	読み解く	1

動詞	太る	1
動詞	獲る	1
動詞	気取る	1
動詞	おえる	1
動詞	つかみ合う	1
動詞	売り飛ばす	1
動詞	放り込む	1
動詞	表す	1
動詞	ぼける	1
動詞	思い詰める	1
動詞	治る	1
動詞	通り過ぎる	1
動詞	空ける	1
動詞	うつむく	1
動詞	まさる	1
動詞	すっ飛ぶ	1
動詞	引っぱたく	1
動詞	ちらす	1
動詞	敗れる	1
動詞	沸く	1
動詞	つくせる	1

動詞	あてはめる	1
動詞	敷く	1
動詞	引き止める	1
動詞	へし折る	1
動詞	むすぶ	1
動詞	かかえる	1
動詞	縮まる	1
動詞	あわす	1
動詞	挑む	1
動詞	しぼる	1
動詞	遺る	1
動詞	はらう	1
動詞	つぎ込む	1
動詞	這う	1
動詞	つる	1
動詞	踏まえる	1
動詞	かう	1
動詞	鍛える	1
動詞	酔っぱらう	1
動詞	引っかかる	1
動詞	いらっしゃる	1

動詞	鍛え上げる	1
動詞	召す	1
動詞	ぬける	1
動詞	振り上げる	1
動詞	納まる	1
動詞	拓ける	1
動詞	兼ね備える	1
動詞	探せる	1
動詞	こやす	1
動詞	切り裂く	1
動詞	掛け合う	1
動詞	飛び立つ	1
動詞	崩れる	1
動詞	移せる	1
動詞	へだたる	1
動詞	引き合う	1
動詞	もす	1
動詞	くださる	1
動詞	飛び上がる	1
動詞	もたれる	1
動詞	駆け出す	1

動詞	潜める	1
動詞	問いつめる	1
動詞	伺う	1
動詞	めぐらす	1
動詞	取り戻せる	1
動詞	問い合わせる	1
動詞	うむ	1
動詞	馴染む	1
動詞	課する	1
動詞	もてなす	1
動詞	くわえる	1
動詞	書き留める	1
動詞	取り巻く	1
動詞	鳴り響く	1
動詞	命じる	1
動詞	食い違う	1
動詞	丸める	1
動詞	たたむ	1
動詞	聞きつける	1
動詞	案じる	1
動詞	昂る	1

動詞	食いつなぐ	1
動詞	入れ替える	1
動詞	直せる	1
動詞	ぱらつく	1
動詞	秘める	1
動詞	吸い込む	1
動詞	追い求める	1
動詞	見通す	1
動詞	降ろす	1
動詞	親しむ	1
動詞	踊る	1
動詞	壊せる	1
動詞	書き送る	1
動詞	つつく	1
動詞	改める	1
動詞	なでおろす	1
動詞	見回す	1
動詞	めげる	1
動詞	喰らう	1
動詞	先立つ	1
動詞	突き進む	1

動詞	ささやく	1
動詞	切り倒す	1
動詞	ほだされる	1
動詞	でかす	1
動詞	そばだてる	1
動詞	あぐねる	1
動詞	しのぐ	1
動詞	削り取る	1
動詞	脅す	1
動詞	おける	1
動詞	はじき出す	1
動詞	かぶる	1
動詞	練る	1
動詞	巡らせる	1
動詞	移り住む	1
動詞	売りさばく	1
動詞	言い逃れる	1
動詞	鞭打つ	1
動詞	積み重ねる	1
動詞	取り外す	1
動詞	名乗る	1

動詞	振り回す	1
動詞	曲がりくねる	1
動詞	しぶる	1
動詞	そなえる	1
動詞	掬う	1
動詞	外れる	1
動詞	行き渡る	1
動詞	見分ける	1
動詞	腐る	1
動詞	いとう	1
動詞	禿げる	1
動詞	偽る	1
動詞	なだれこむ	1
動詞	思い知らせる	1
動詞	摘み取る	1
動詞	立ちはだかる	1
動詞	訊く	1
動詞	譲り受ける	1
動詞	説き伏せる	1
動詞	売れる	1
動詞	思い起こす	1

動詞	酌み交わす	1
動詞	招き入れる	1
動詞	ゆる	1
動詞	勝ち抜く	1
動詞	盛りつける	1
動詞	学び取れる	1
動詞	ひねり出す	1
動詞	手間取る	1
動詞	入れ替わる	1
動詞	降る	1
動詞	舞い上がる	1
動詞	ごまかす	1
動詞	ほころぶ	1
動詞	縮む	1
動詞	こぼす	1
動詞	決め込む	1
動詞	牛耳る	1
動詞	興す	1
動詞	揺るがす	1
動詞	せつつく	1
動詞	ほめる	1

動詞	繰り上げる	1
動詞	聞き届ける	1
動詞	漕ぎ着ける	1
動詞	よす	1
動詞	分かる	1
動詞	眠る	1
動詞	おがめる	1
動詞	作り出す	1
動詞	取り下げる	1
動詞	うぬぼれる	1
動詞	擦る	1
動詞	切り抜く	1
動詞	装う	1
動詞	生き延びる	1
動詞	駆る	1
動詞	ぶちのめす	1
動詞	長ける	1
動詞	ねばる	1
動詞	停る	1
動詞	つなぐ	1
動詞	もてあそぶ	1

動詞	ほどく	1
動詞	言いふらす	1
動詞	搔く	1
動詞	曲がる	1
動詞	添える	1
動詞	ふける	1
動詞	苦しめる	1
動詞	飛びまわる	1
動詞	かぎつける	1
動詞	練り直す	1
動詞	差し向ける	1
動詞	あずかる	1
動詞	つぶれる	1
動詞	とりたてる	1
動詞	乗りかかる	1